

山梨県 ヤングケアラーに関する実態調査  
報告書

2024年3月

山梨県

# 目次

<b>第 I 章 実態調査概要</b> .....	<b>1</b>
<b>第 II 章 子ども調査</b> .....	<b>2</b>
1. 回答者について .....	2
(1) 性別 .....	2
(2) 学年 .....	3
(3) 居住地 .....	4
(4) 家族構成 .....	5
(5) 自分の健康 .....	6
2. 学校生活などについて .....	7
(1) 現在、悩んだり困っていること .....	7
(2) この1年間で学校で大人に相談したこと .....	9
(3) 先生への相談のしやすさ .....	10
(4) 今の生活への満足度 .....	13
3. ヤングケアラーやヤングケアラーへの支援について .....	14
(1) 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況 .....	14
(2) 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか .....	15
(3) 学校で「ヤングケアラー」を知った方法 .....	17
(4) 自分が「ヤングケアラー」にあてはまるか .....	18
(5) 家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているか .....	19
(6) 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について .....	20
(7) 友人や周りに「ヤングケアラー」にあてはまる子どもはいるか .....	26
(8) 「ヤングケアラー」の子どもがいた場合、どうするか .....	27
(9) 「24 時間電話相談窓口」の認知状況 .....	29
(10) 「相談支援センター（山梨県総合教育センター）」の認知状況 .....	30
(11) 「SNS 相談窓口」の認知状況 .....	31
(12) 「24 時間電話相談窓口」に相談したことがない理由 .....	32
(13) 「相談支援センター」に相談したことがない理由 .....	33
(14) 「SNS 相談窓口（LINE）」に相談したことがない理由 .....	34
(15) 知っている啓発の取組 .....	35
(16) この1年間で、自身や周りの人の意識や行動が変わったと思うこと .....	36
4. ヤングケアラーについて（追加分析） .....	37
(1) 自身がヤングケアラーか自己認識別の「ヤングケアラー」という言葉の認知状況 .....	37
(2) 自身が「ヤングケアラー」か自己認識別の現在、悩んだり困っていること .....	38
(3) 自身が「ヤングケアラー」および、自身では「ヤングケアラー」かわからないが「ヤングケアラー」と思われる子ども ..	40
5. 自由意見 .....	59
<b>第 III 章 県政モニター調査</b> .....	<b>64</b>
1. 調査について .....	64
2. 基礎情報 .....	65
(1) 年代 .....	65
(2) 性別 .....	65

(3)	居住地 .....	66
(4)	婚姻状況 .....	66
(5)	子どもの有無 .....	67
(6)	職業 .....	67
(7)	同居家族 .....	68
(8)	同居している 18 歳未満の子ども・孫の年代 .....	69
(9)	情報源 .....	70
3.	ヤングケアラーについて .....	72
(1)	「ヤングケアラー」という言葉の認知状況 .....	72
(2)	「ヤングケアラー」という言葉の認知経路 .....	73
(3)	「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無 .....	75
(4)	「ヤングケアラー」と思った理由 .....	76
(5)	身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合の対応 .....	77
(6)	「ヤングケアラー」と思われる子どもについて相談する機関 .....	78
(7)	「ヤングケアラー」と思われる子どもについて「何もしない」主な理由 .....	79
(8)	山梨県「ヤングケアラー相談窓口」について .....	80
(9)	ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりにつながる仕組みや支援 .....	82
(10)	現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わり .....	83
(11)	地域活動や市民活動の、ヤングケアラーとの関わり方 .....	84
(12)	地域活動や市民活動においてヤングケアラー支援を行うために、必要な行政からの支援 .....	85
(13)	今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること .....	86
(14)	今後、活動の中でヤングケアラー支援を行うために必要な行政からの支援 .....	87
(15)	ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援 .....	88
(16)	「ヤングケアラー」支援のためにできること .....	89
(17)	「山梨コネクトヤングケアラー」の視聴の有無 .....	89
(18)	啓発活動として効果があると思われる取組 .....	90
(19)	ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要なと思われること（自由記述） .....	91
<b>第 IV 章</b>	<b>調査のとりまとめ・考察 .....</b>	<b>95</b>
1.	各調査のとりまとめ .....	95
(1)	子ども調査 .....	95
(2)	県政モニター調査 .....	96
2.	考察 .....	97

## 第I章 実態調査概要

ヤングケアラーの実態や認知度等の状況を把握するため、下記のような対象に実態調査を行った。

	子ども調査	県政モニター調査
対象	県内の学校に通う小学6年生、中学生、高校生	県政モニターに登録している方
調査の概要	県内の学校に在籍する対象者全員に対して、ヤングケアラーの実態や認知度などを把握	ヤングケアラーの認知度や日常の地域活動等でのヤングケアラーへの関わりや今後の関わり意向等を把握
調査方法	学校にて Web 調査	Web 調査／紙回答
調査時期	令和6年2月2日～29日	令和5年8月29日～9月22日
対象者	約 53,000 人	449 人
有効回答数	合計 25,242 人 (内訳) 小学6年生 5,289 人 中学生 14,316 人 高校生(全日制) 5,112 人 高校生(定時制) 396 人 高校生(通信制) 97 人 ※合計には不明が含まれる	340 人

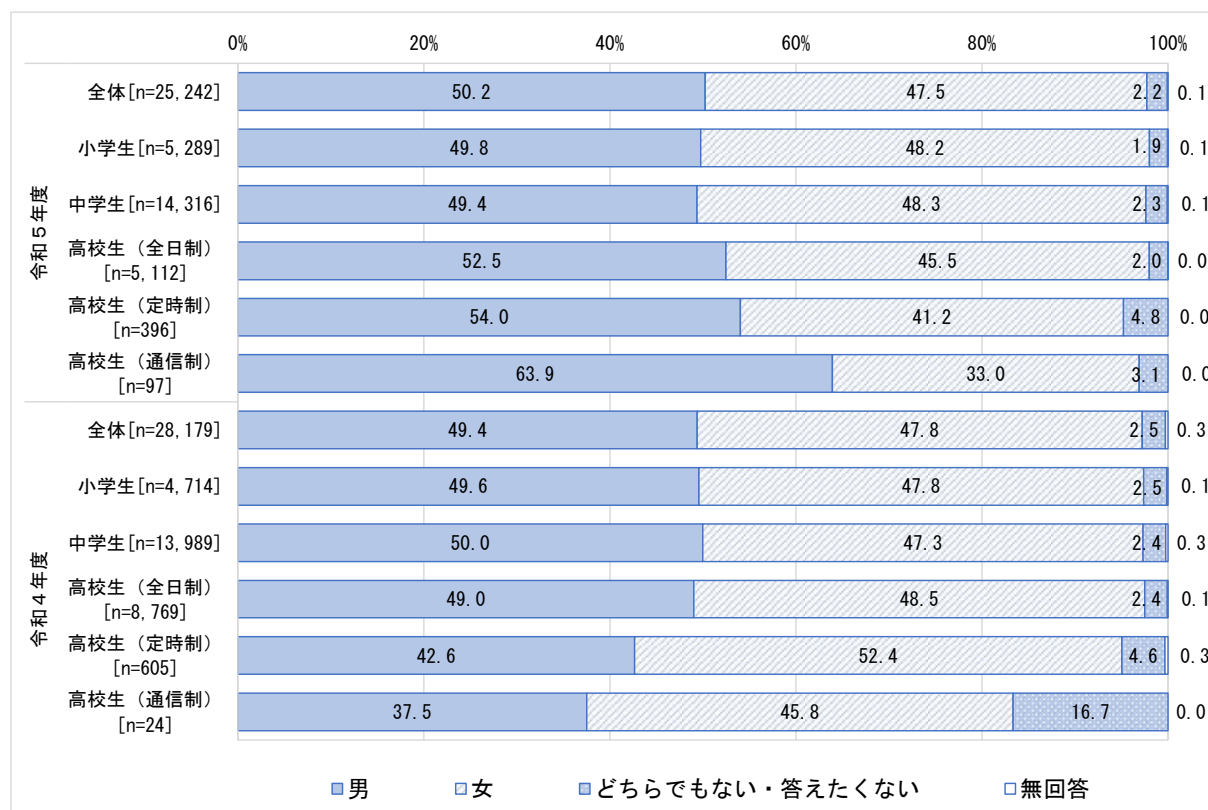
## 第II章 子ども調査

### 1. 回答者について

#### (1) 性別

性別は、男女ほぼ半々であるが、高校生（通信制）では、「男」が63.9%、「女」が33.0%と「男」がやや高くなっている。

図表 1 性別

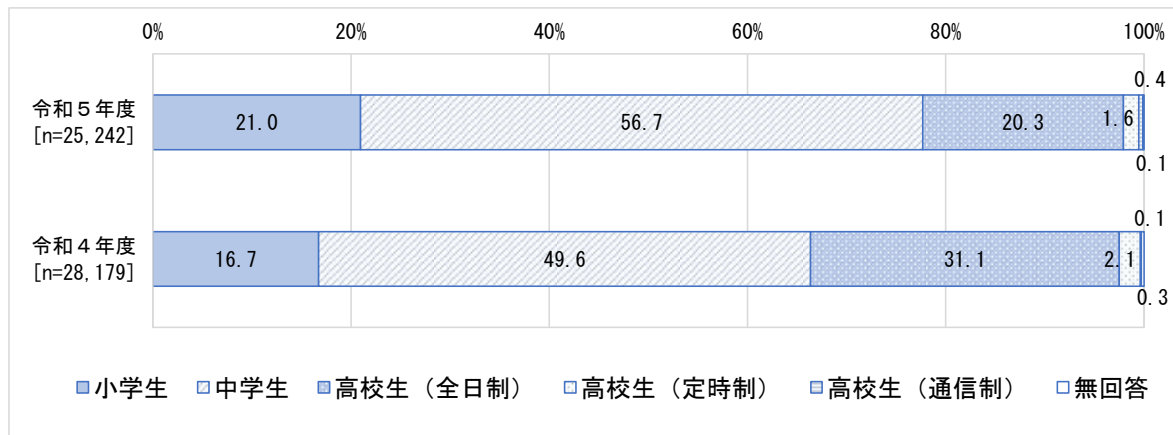


※全体には学年不明が含まれる。以下のグラフ、表は同様

## (2) 学年

学年は、「中学生」が 56.7%と最も高く、次いで「小学生」(21.0%)、「高校生(全日制)」(20.3%) などとなっている。

図表 2 学年



### (3) 居住地

居住地は、以下のとおり。

図表 3 居住市町村

(%)

	全体 (n <sub>II</sub> )	甲府市	富士吉田市	都留市	山梨市	大月市	韮崎市	南アルプス市	北杜市	甲斐市
全体	25,242	19.3	6.8	3.1	3.9	1.5	3.6	9.1	4.6	9.7
小学生	5,289	22.2	5.9	1.8	4.4	2.5	3.7	8.3	5.0	10.9
中学生	14,316	21.5	6.6	2.9	2.8	0.9	3.7	9.3	5.4	10.9
高校生 (全日制)	5,112	10.2	8.4	5.0	6.6	2.2	3.5	9.4	2.4	5.1
高校生 (定時制)	396	16.4	8.3	3.8	5.8	3.0	1.3	8.8	1.3	6.1
高校生 (通信制)	97	22.7	8.2	1.0	1.0	0.0	4.1	10.3	5.2	12.4

	笛吹市	上野原市	甲州市	中央市	市川三郷町	早川町	身延町	南部町	富士川町	昭和町
全体	8.5	2.2	3.8	4.2	1.9	0.1	1.0	0.8	2.1	3.4
小学生	7.3	2.0	3.8	4.4	1.5	0.1	0.5	0.5	1.8	4.2
中学生	8.6	2.3	3.4	4.4	1.8	0.0	0.9	0.7	2.1	3.7
高校生 (全日制)	9.5	2.5	4.7	3.5	2.3	0.1	1.7	1.3	2.3	1.6
高校生 (定時制)	10.4	2.3	5.1	3.3	2.3	0.3	0.3	1.0	2.0	2.0
高校生 (通信制)	6.2	0.0	3.1	3.1	3.1	0.0	0.0	2.1	3.1	4.1

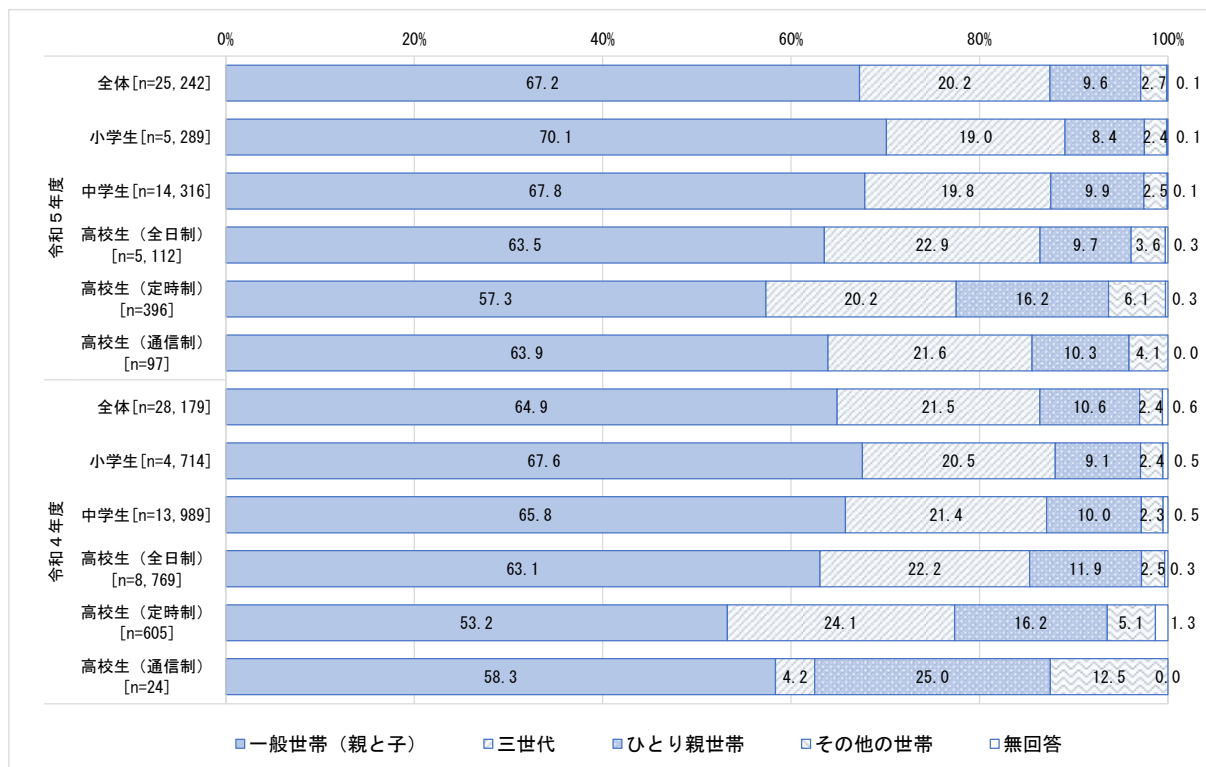
  

	道志村	西桂町	忍野村	山中湖村	鳴沢村	富士河口湖町	小菅村	丹波村	県外	無回答
全体	0.1	0.6	1.7	0.5	0.5	3.7	0.0	0.0	1.6	1.6
小学生	0.0	0.5	1.7	0.8	0.4	2.9	0.0	0.0	0.0	2.6
中学生	0.2	0.5	1.8	0.4	0.4	3.5	0.0	0.0	0.2	1.2
高校生 (全日制)	0.2	0.9	1.7	0.6	0.6	5.1	0.0	0.0	6.7	1.7
高校生 (定時制)	0.0	0.8	1.3	1.0	0.0	4.5	0.3	0.0	6.1	2.5
高校生 (通信制)	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	5.2	1.0

## (4) 家族構成

家族構成について、「一般世帯（親と子）」がどの区分でも最も高くなっている。

図表 4 家族構成（複数回答）

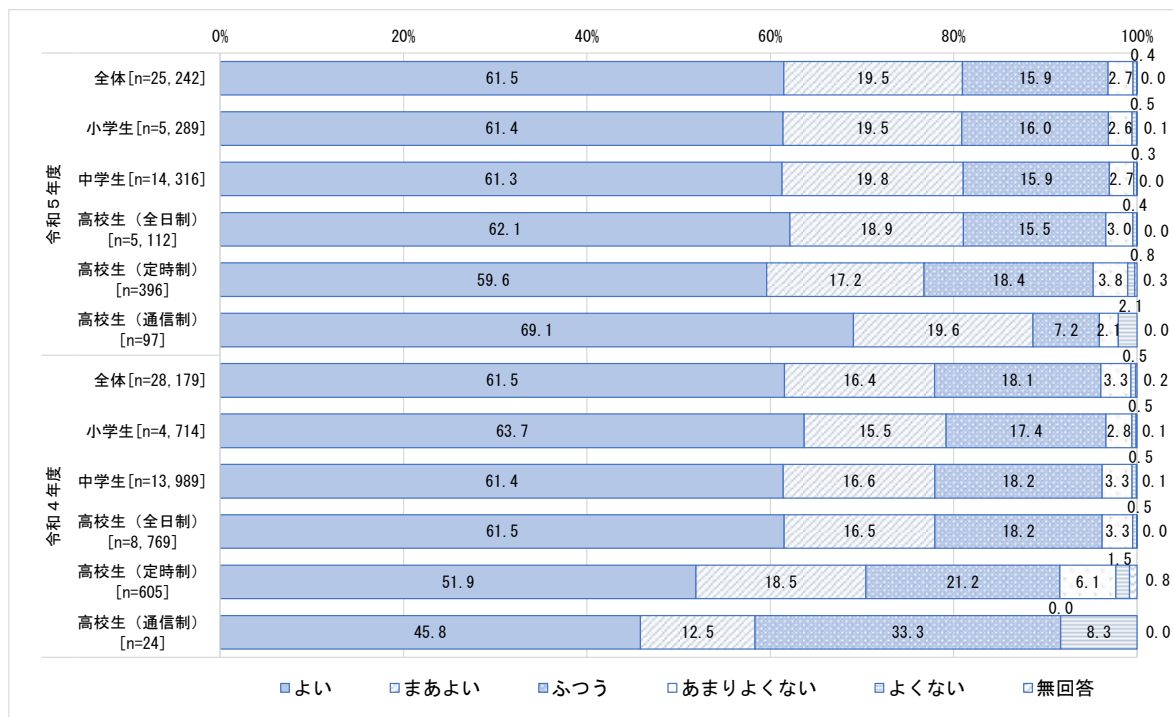




## (5) 自分の健康

健康について、どの学年も「よい」「まあよい」が8割程度となっている。

図表 5 自分の健康



## 2. 学校生活などについて

### (1) 現在、悩んだり困っていること

現在、悩んだり困っていることは、小学生では「特にない」が 47.1%で最も高く、次いで「勉強のこと（学校の成績など）」（29.0%）、「しょうらいの夢や進路のこと」（24.4%）などとなっている。

中学生では「勉強のこと（学校の成績など）」が 49.1%で最も高く、次いで「しょうらいの夢や進路のこと」（37.0%）、「特にない」（35.7%）などとなっている。

高校生（全日制）では「しょうらいの夢や進路のこと」（43.5%）、「勉強のこと（学校の成績など）」（38.7%）が高く、次いで「特にない」（37.1%）などとなっている。

高校生（定時制）では「しょうらいの夢や進路のこと」（40.9%）が最も高く、次いで「特にない」（39.4%）、「勉強のこと（学校の成績など）」（33.8%）などとなっている。

高校生（通信制）では「勉強のこと（学校の成績など）」（43.3%）が最も高く、次いで「特にない」（38.1%）、「しょうらいの夢や進路のこと」（30.9%）などとなっている。

図表 6 現在、悩んだり困っていること（複数回答） (%)

	全体 (n=)	友人との関係のこと	勉強のこと(学校の成績など)	しょうらいの夢や進路のこと	部活動のこと	じゆくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと(学費、集金など)	家庭のお金のこと(食べ物を買うお金や必要なものを買うお金がたりないことなど)
全体	25,242	17.0	42.5	35.7	12.5	1.3	2.7	2.4
小学生	5,289	19.2	29.0	24.4	15.5	1.7	2.5	2.4
中学生	14,316	18.1	49.1	37.0	11.1	1.4	1.9	2.2
高校生(全日制)	5,112	11.9	38.7	43.5	13.4	0.5	4.7	3.0
高校生(定時制)	396	12.9	33.8	40.9	9.8	1.5	6.3	6.1
高校生(通信制)	97	15.5	43.3	30.9	12.4	2.1	4.1	5.2

	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	家族の通訳のこと	自分のために使える時間が少ない	特にない	その他	無回答
全体	5.1	3.7	1.4	0.2	2.8	38.4	1.5	1.8
小学生	5.2	3.7	1.7	0.4	2.9	47.1	1.9	1.6
中学生	5.6	3.9	1.3	0.2	2.6	35.7	1.3	2.1
高校生(全日制)	3.5	3.2	1.1	0.1	3.3	37.1	1.7	1.2
高校生(定時制)	6.6	4.5	1.8	0.3	4.0	39.4	1.3	0.8
高校生(通信制)	8.2	4.1	1.0	1.0	6.2	38.1	4.1	4.1

図表 7 現在、悩んだり困っていること（複数回答）【令和4年度】 (％)

	全体 (n=)	友人との関係のこと	勉強のこと（学校の成績など）	しょうらいの夢や進路のこと	部活動のこと	じゆくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと（学費、集金など）	家庭のお金のこと（食べ物を買うお金や必要なものを買うお金がたりないことなど）
全体	28,179	14.5	40.2	35.9	9.6	1.4	2.1	2.1
小学生	4,714	15.5	18.4	20.0	4.7	1.8	1.1	1.7
中学生	13,989	16.2	45.0	35.0	9.6	1.8	1.3	1.8
高校生（全日制）	8,769	11.4	44.8	45.3	12.5	0.7	3.5	2.5
高校生（定時制）	605	13.9	34.7	45.6	7.1	1.2	6.8	5.5
高校生（通信制）	24	20.8	41.7	58.3	12.5	8.3	12.5	12.5

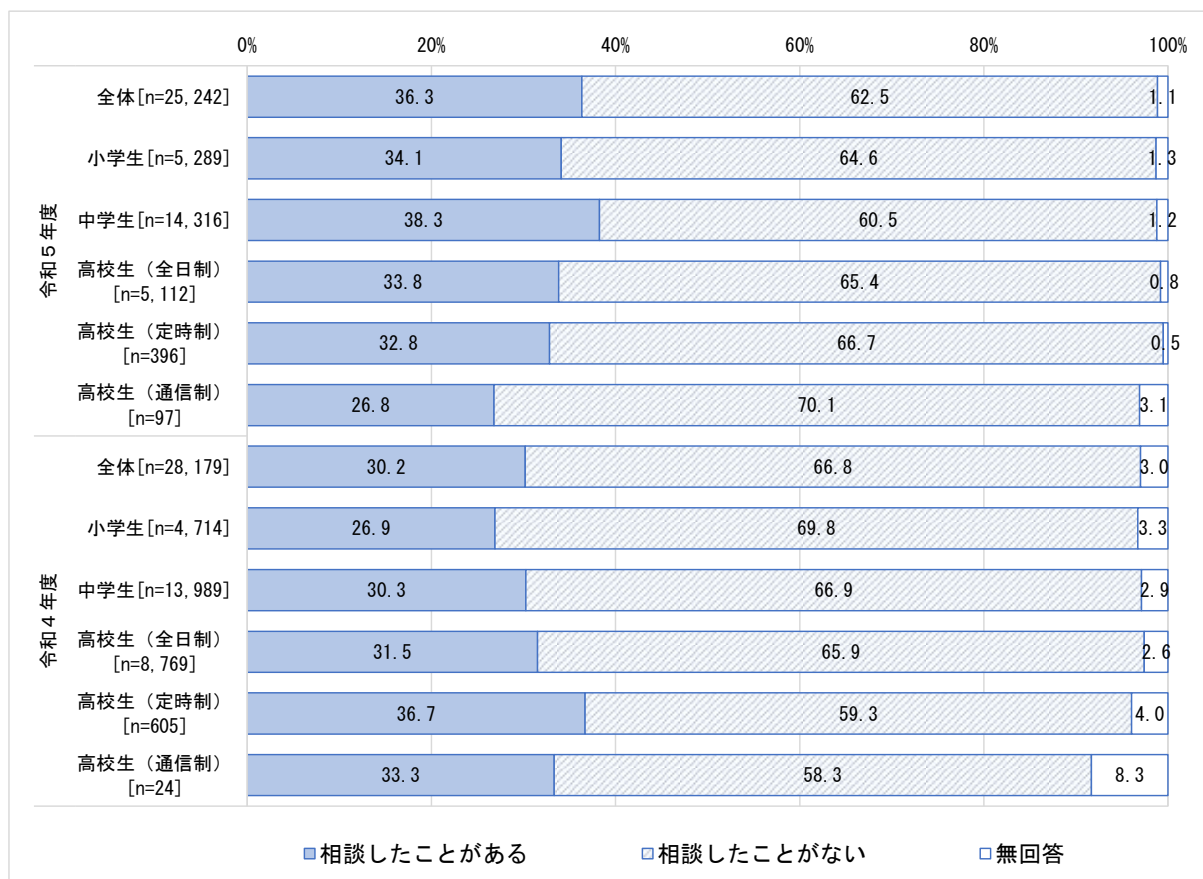
	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	特にない	その他	無回答
全体	4.9	3.7	1.2	3.9	40.4	0.7	2.0
小学生	5.2	3.7	1.4	2.9	58.0	1.3	2.5
中学生	5.2	3.9	1.2	3.4	39.0	0.6	2.3
高校生（全日制）	4.0	3.3	1.0	5.0	33.3	0.4	1.1
高校生（定時制）	7.1	4.5	2.8	5.5	36.5	1.3	1.2
高校生（通信制）	12.5	8.3	12.5	16.7	25.0	0.0	8.3

## (2) この1年間で学校で大人に相談したこと

この1年間で、悩んだり困ったりしていることなどについて、学校で大人（先生など）に「相談したことがある」のは、小学生で34.1%、高校生（全日制）で33.8%、高校生（定時制）で32.8%となっている。他の学年に比べて、中学生は38.3%と高く、高校生（通信制）は26.8%と低くなっている。

令和4年度と比較すると、全体の「相談したことがある」が6ポイント増加しており、小学生および中学生で7～8ポイント程度増加している。

図表 8 この1年間で学校で大人に相談したこと

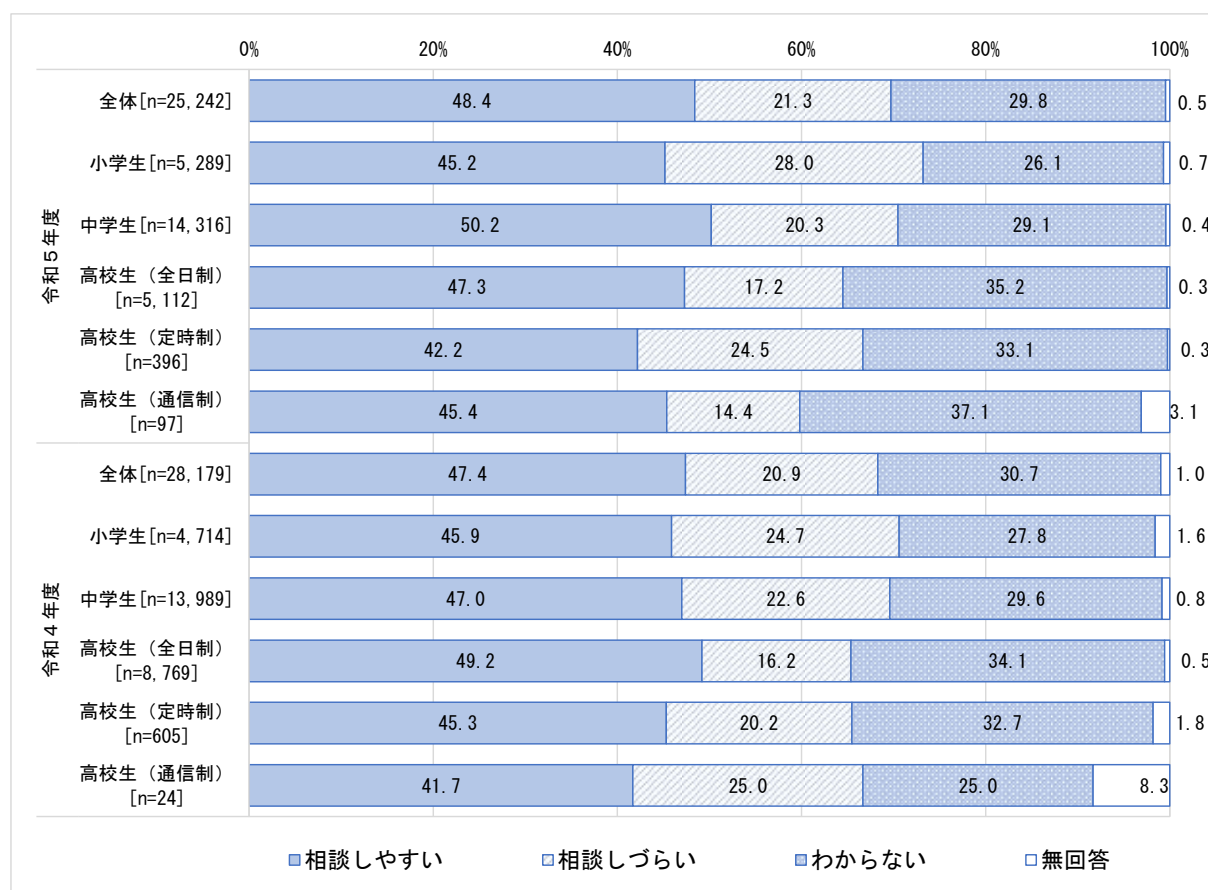


### (3) 先生への相談のしやすさ

先生への相談のしやすさについて、「担任の先生」に「相談しやすい」のは、小学生で 45.2%、中学生で 50.2%、高校生（全日制）で 47.3%、高校生（通信制）で 45.4%となっている。一方、高校生（定時制）では 42.2%と高校生（全日制）に比べて低くなっている。

令和 4 年度と比較して、中学生では 3 ポイント増加し、高校生（定時制）では 3 ポイント減少している。

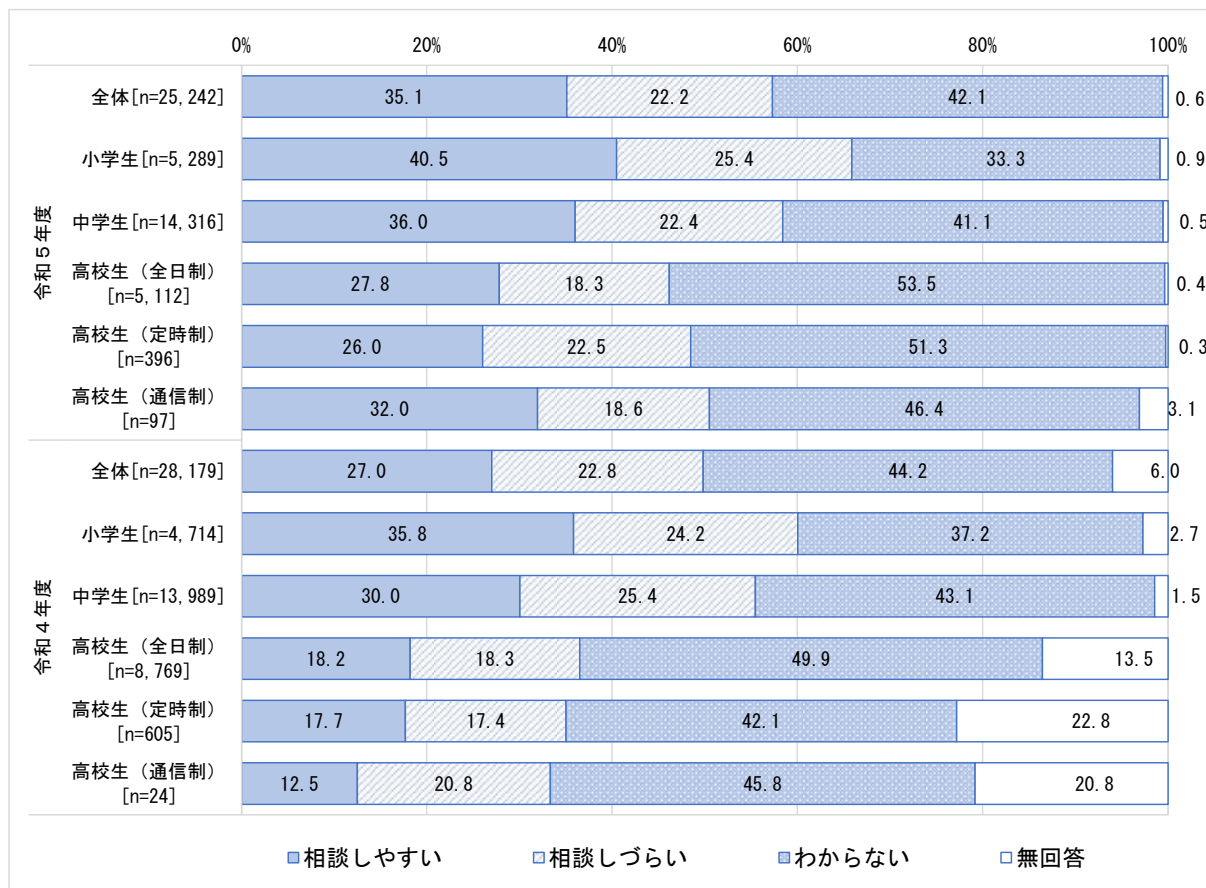
図表 9 先生への相談のしやすさ <担任の先生>



「保健室の先生」に「相談しやすい」のは、小学生で 40.5%、中学生で 36.0%であるが、高校生（全日制）は 27.8%、高校生（定時制）は 26.0%、高校生（通信制）は 32.0%と全体よりも低い。

令和 4 年度と比べると、「相談しやすい」の割合は全体で 6 ポイント上がっており、いずれの層ともが増加している。

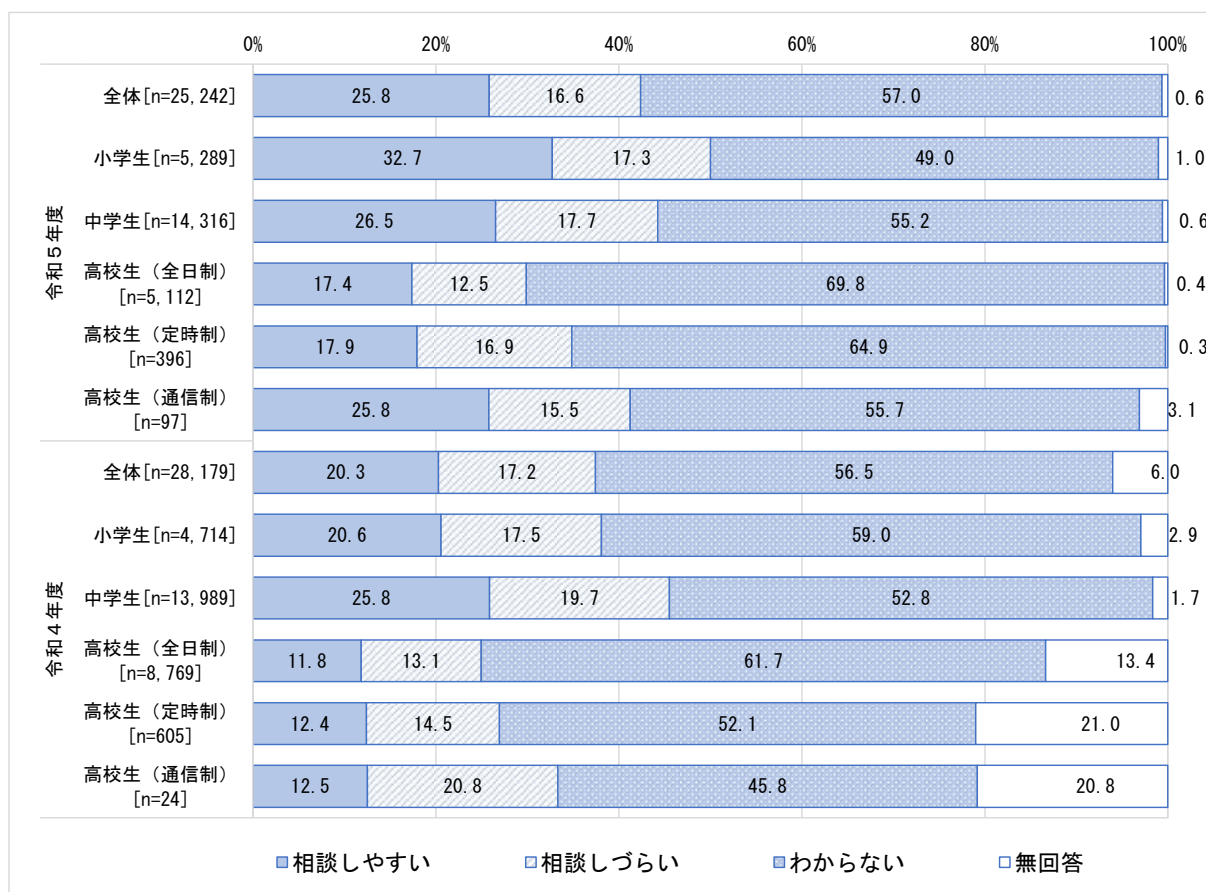
図表 10 先生への相談のしやすさ <保健室の先生(養護教諭)>



「カウンセラーの先生」に「相談しやすい」のは、小学生で 32.7%、中学生で 26.5%、高校生（通信制）で 25.8%となっている。高校生（全日制）は 17.4%、高校生（定時制）は 17.9%と、全体よりも低くなっている。いずれの学年も、「わからない」の割合が 5～6 割と高い。

令和 4 年度と比較すると、小学生で 1 割程度、高校生（全日制）・高校生（定時制）で 5 ポイント程度、「相談しやすい」の割合が増加している。

図表 11 先生への相談のしやすさ <カウンセラーの先生>



#### (4) 今の生活への満足度

今の生活（学校生活や家族のことを含めて）にどのくらい満足しているかについて、たいへん満足を10点、まったく満足していないを0点として聞いたところ、小学生と中学生では「10点」が、高校生（全日制）と高校生（定時制）では「8点」が最も高くなっている。

図表 12 今の生活への満足度 (%)

	全体 (n)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均	標準偏差
全体	25,242	0.7	0.5	1.1	2.5	3.9	10.0	7.7	14.7	20.7	14.1	24.0	0.1	7.6	2.2
小学生	5,289	0.8	0.5	1.0	2.0	3.2	7.0	5.6	11.4	19.2	17.4	31.7	0.2	8.0	2.1
中学生	14,316	0.7	0.5	1.0	2.3	3.8	9.8	7.6	14.8	20.8	14.8	23.7	0.1	7.6	2.1
高校生 (全日制)	5,112	0.7	0.6	1.2	3.2	4.5	13.5	10.2	17.7	21.9	9.5	16.9	0.2	7.1	2.1
高校生 (定時制)	396	1.8	1.0	1.8	3.5	6.8	13.4	9.3	14.1	21.0	7.3	19.4	0.5	7.0	2.4
高校生 (通信制)	97	5.2	0.0	0.0	4.1	3.1	3.1	8.2	21.6	14.4	13.4	26.8	0.0	7.5	2.6

図表 13 今の生活への満足度【令和4年度】 (%)

	全体 (n)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均	標準偏差
全体	28,179	0.7	0.5	1.2	3.2	4.9	10.6	9.1	15.8	19.9	13.3	20.1	0.7	7.4	2.2
小学生	4,714	0.7	0.6	1.0	2.8	4.3	7.9	6.2	11.5	16.9	16.8	30.7	0.6	7.8	2.2
中学生	13,989	0.6	0.5	1.1	3.1	4.7	9.6	7.7	14.4	20.4	15.3	22.0	0.5	7.5	2.2
高校生 (全日制)	8,769	0.7	0.5	1.4	3.4	5.4	13.5	12.7	20.1	21.0	8.7	11.8	0.7	6.9	2.1
高校生 (定時制)	605	2.0	2.0	2.0	5.5	5.0	15.5	11.9	19.2	16.4	7.1	11.7	1.8	6.5	2.4
高校生 (通信制)	24	4.2	4.2	4.2	4.2	8.3	8.3	4.2	8.3	16.7	8.3	20.8	8.3	6.5	3.1



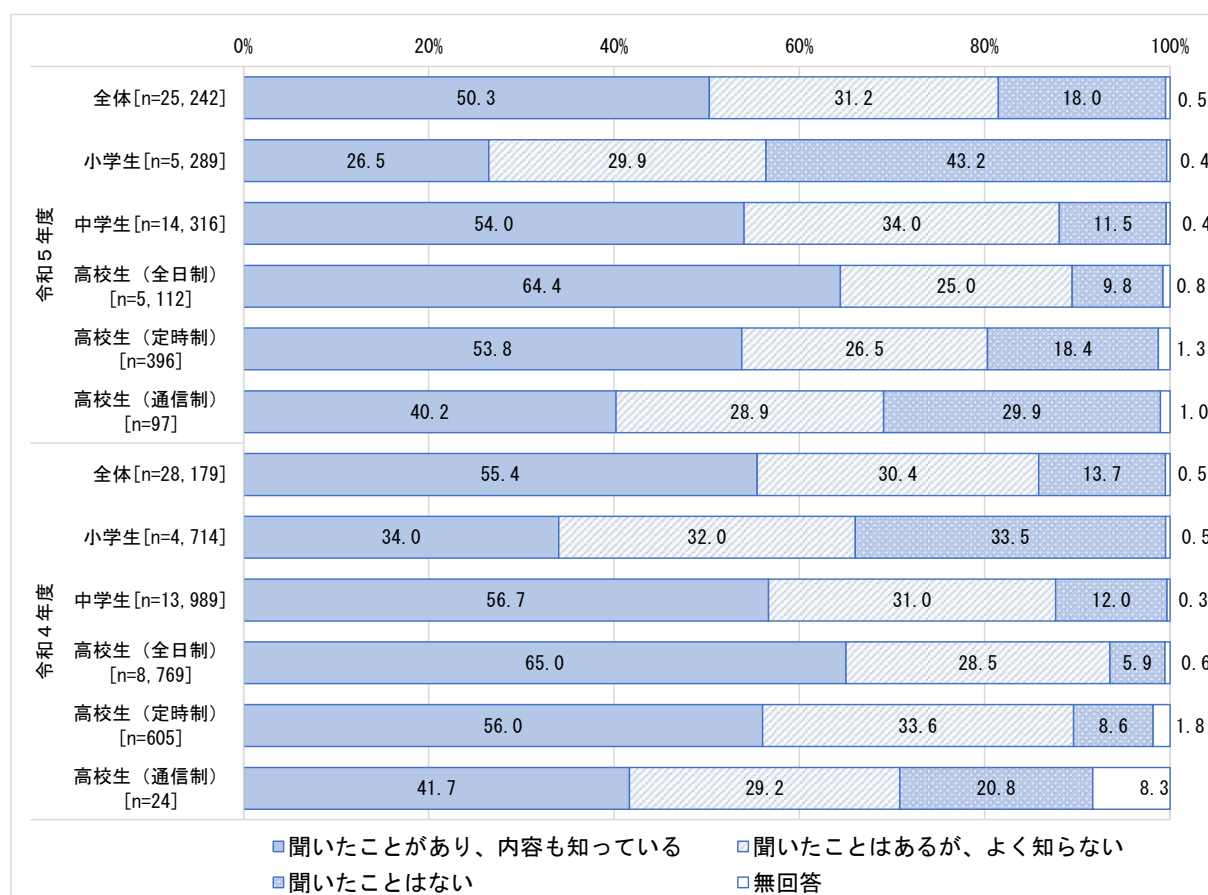
### 3. ヤングケアラーやヤングケアラーへの支援について

#### (1) 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合は、全体で 50.3%となっており、中学生で 54.0%、高校生（全日制）で 64.4%、高校生（定時制）で 53.8%、高校生（通信制）で 40.2%となっている。一方、小学生では 26.5%と他と比べて割合が低くなっている。

令和 4 年度と比較すると、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合は、全体で 5 ポイント減少しており、特に小学生で「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が 1 割程度減少している。

図表 14 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況



## (2) 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した子どもに「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか聞いたところ、小学生と中学生では、「テレビ」が最も高く、次いで「学校」となっている。高校生では、「学校」が最も高く、次いで「テレビ」となっている。小学生では学校が28.9%と、他の学年に比べて低くなっている。

令和4年度と比較すると、「テレビ」と「SNS」は全体的に割合が増加している一方、小学生では「学校」が1割程度減少している。

図表 15 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか（複数回答） (%)

	全体 (n=)	テレビ	新聞	ラジオ	雑誌や本	チラシや掲示物	イベントや交流会	学校
全体	20,565	64.9	12.4	2.9	9.6	15.0	2.1	59.3
小学生	2,983	73.1	12.2	3.6	10.9	14.7	1.4	28.9
中学生	12,606	63.7	11.9	2.7	9.7	15.7	1.8	63.2
高校生(全日制)	4,572	63.3	13.7	2.8	8.9	13.7	3.3	68.0
高校生(定時制)	318	61.9	11.9	1.9	5.0	12.3	2.8	65.7
高校生(通信制)	67	55.2	4.5	3.0	4.5	16.4	3.0	65.7

	インターネットのホームページ	SNS	友人・知人から聞いた	その他	無回答
全体	9.3	23.4	6.5	2.1	1.4
小学生	12.1	20.3	10.5	4.5	1.1
中学生	9.4	23.3	6.3	1.9	1.3
高校生(全日制)	7.3	25.3	4.5	1.2	1.6
高校生(定時制)	6.9	29.6	6.0	2.5	0.6
高校生(通信制)	7.5	17.9	6.0	1.5	1.5

図表 16 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか（複数回答）【令和4年度】 (%)

	全体 (n=)	テレビ	新聞	ラジオ	雑誌や本	チラシや掲示物	イベントや交流会	学校
全体	24,187	57.9	12.2	2.4	8.7	11.5	1.6	62.2
小学生	3,112	68.0	13.2	3.4	11.5	13.2	1.4	38.0
中学生	12,263	58.7	12.3	2.4	9.2	11.9	1.3	63.2
高校生(全日制)	8,201	53.5	11.8	2.1	7.0	10.2	1.9	69.4
高校生(定時制)	542	49.3	10.1	2.0	5.9	10.7	1.7	69.9
高校生(通信制)	17	35.3	23.5	17.6	17.6	29.4	11.8	58.8

	インターネットのホームページ	SNS	友人・知人から聞いた	家族から聞いた	おぼえていない	その他	無回答
全体	7.4	16.6	3.5	10.7	7.4	0.4	0.7
小学生	10.0	12.1	5.3	18.0	9.7	1.3	0.6
中学生	7.9	16.3	3.5	11.8	7.3	0.3	0.9
高校生(全日制)	5.6	18.5	2.9	6.5	6.6	0.3	0.5
高校生(定時制)	5.9	18.1	1.7	8.3	7.4	0.2	0.4
高校生(通信制)	5.9	29.4	11.8	11.8	11.8	0.0	0.0

### (3) 学校で「ヤングケアラー」を知った方法

「ヤングケアラー」という言葉を「学校」で知ったと回答した子どもに、「学校」ではどのような方法で「ヤングケアラー」という言葉を知ったか聞いたところ、小学生以外の学年で「配布されたチラシ」が5割強で最も高く、次いで「授業」が4割～6割となっている。

昨年度と比較すると、全体では「授業」が増加している一方、小学生では「配布されたチラシ」が3割弱減少している。

図表 17 学校で「ヤングケアラー」を知った方法（複数回答） (%)

	全体 (n)	授業	集会	配布された チラシ	掲示物	その他	無回答
全体	12,205	42.4	14.6	56.4	16.8	6.6	1.5
小学生	862	48.7	3.7	37.2	19.8	11.0	2.0
中学生	7,971	41.1	11.6	57.8	15.4	7.8	1.6
高校生(全日制)	3,110	42.7	24.8	58.3	19.1	2.6	1.1
高校生(定時制)	209	51.2	22.5	56.0	20.6	1.9	1.9
高校生(通信制)	44	61.4	20.5	50.0	22.7	6.8	0.0

図表 18 学校で「ヤングケアラー」を知った方法（複数回答）【令和4年度】 (%)

	全体 (n)	授業	集会	配布された チラシ	掲示物	その他	無回答
全体	15,050	35.4	11.2	61.6	10.1	4.3	2.2
小学生	1,182	31.0	1.7	63.5	8.1	4.1	3.6
中学生	7,756	37.4	8.4	61.5	8.9	6.0	2.4
高校生(全日制)	5,690	33.8	16.4	61.5	12.0	2.2	1.7
高校生(定時制)	379	33.8	21.1	57.0	11.3	1.6	2.1
高校生(通信制)	10	20.0	20.0	90.0	10.0	0.0	0.0

#### (4) 自分が「ヤングケアラー」にあてはまるか

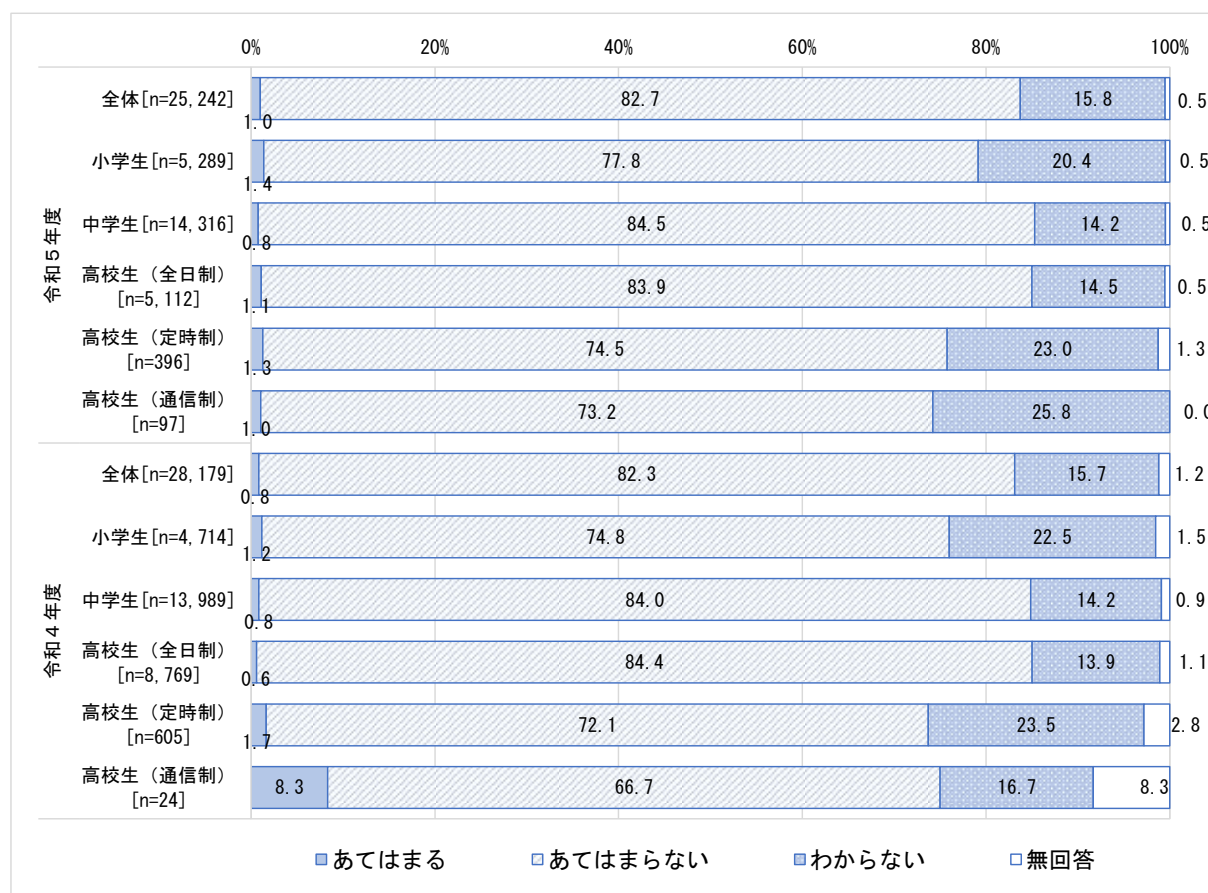
自分が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか聞いたところ、全体では「あてはまる」が 1.0%、「あてはまらない」が 82.7%、「わからない」が 15.8%となっている。

「あてはまる」は小学生で 1.4%、中学生で 0.8%、高校生（全日制）で 1.1%、高校生（定時制）で 1.3%、高校生（通信制）で 1.0%となっている。

小学生と、高校生（定時制）と、高校生（通信制）では、「わからない」が2割以上と、他の学年に比べて高くなっている。

令和4年度と比べると、傾向にほぼ変化はない。

図表 19 自分が「ヤングケアラー」にあてはまるか

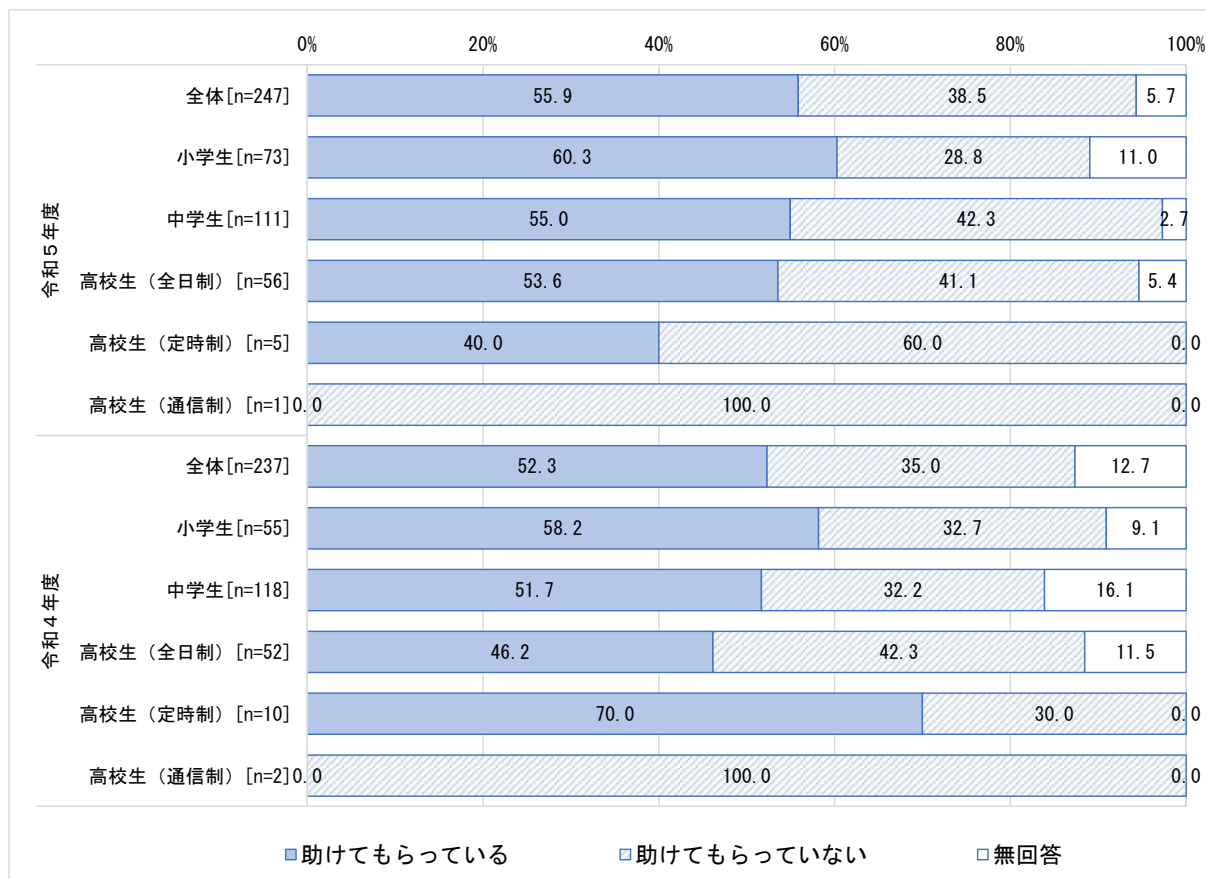


### (5) 家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているか

自分が「ヤングケアラー」に「あてはまる」と回答した子どもに、家事や家族のお世話をすることを、他の人（ヘルパー、親せき、近所の人、友人）に助けてもらっているか聞いたところ、「助けてもらっている」のは全体では 55.9%であり小学生で 60.3%、中学生で 55.0%、高校生（全日制）で 53.6%と、学年があがるにつれ、低くなっている。

令和4年度に比べると、「助けてもらっている」の割合はすべての学年でやや増加している。

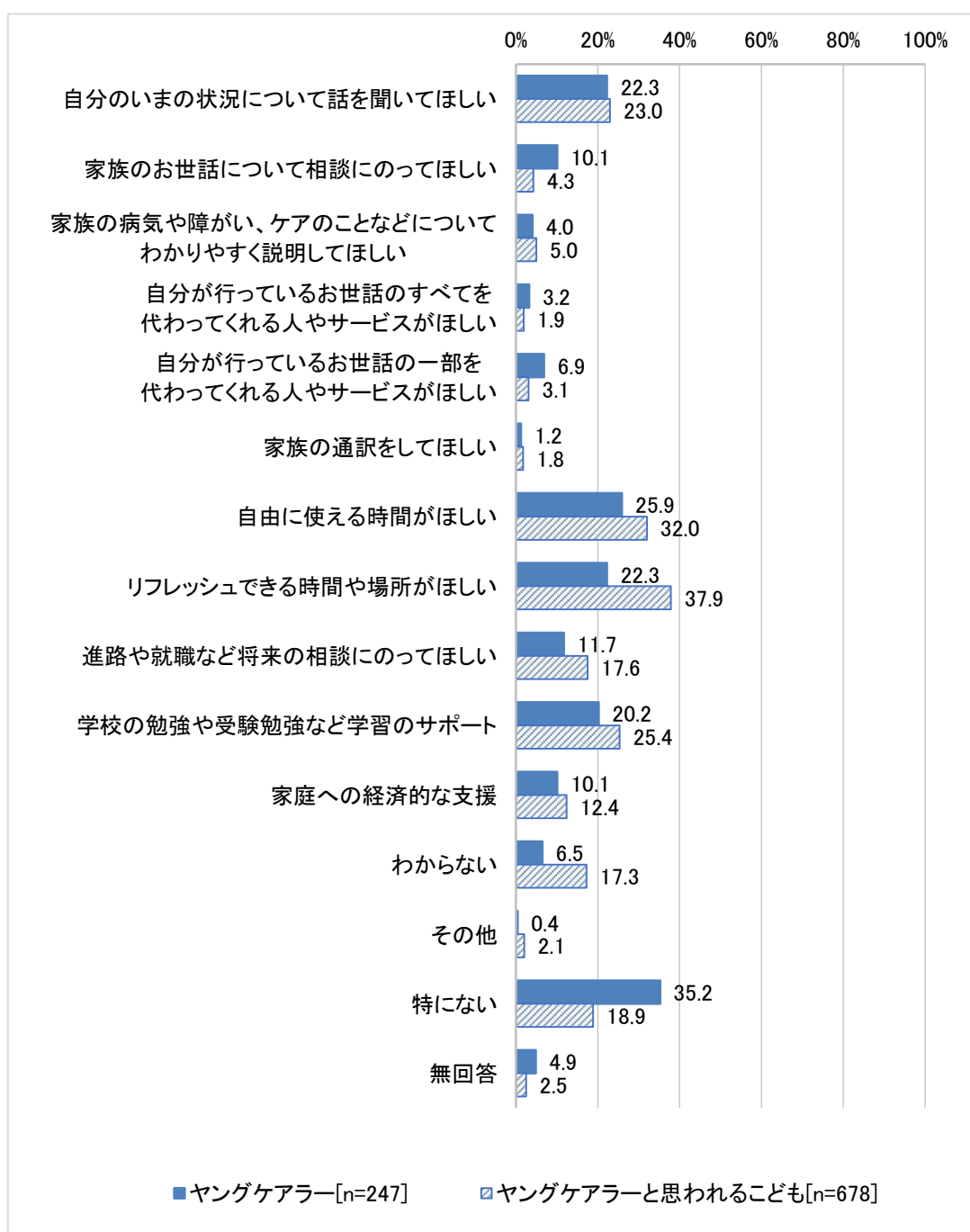
図表 20 家事や家族のお世話を他の人に助けてもらっているか



## (6) 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について

自分が「ヤングケアラー」に「あてはまる」と回答した子どもと「ヤングケアラーと思われる子ども」（自身がヤングケアラーか「わからない」と回答したうち、家族関係等の悩みのある子ども。詳細は次節の「ヤングケアラーについて（追加分析）」をP40参照）に、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について聞いたところ、「あてはまる」と回答した子どもでは「特にない」（35.2%）が最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」（25.9%）、「リフレッシュできる時間や場所がほしい」・「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」（各 22.3%）などとなっている。「ヤングケアラーと思われる子ども」では、「リフレッシュできる時間や場所がほしい」（37.9%）が最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」（32.0%）、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」（25.4%）であり、いずれもヤングケアラーよりも高い。

図表 21 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援（複数回答）



学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について学年別にみると、全体に比べて、小学生では、「ヤングケアラー」で「自由に使える時間がほしい」が高く、「ヤングケアラーと思われる子ども」で「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「リフレッシュできる時間や場所がほしい」が高くなっている。

中学生では、「ヤングケアラー」で「自由に使える時間がほしい」が高くなっている。

高校生（全日制）では、「ヤングケアラー」で「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が高く、「ヤングケアラーと思われる子ども」で「進路や就職など将来の相談にのってほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」「家庭への経済的な支援」が高くなっている。

図表 22 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 必要としている支援

（複数回答）（学年別）（％）

		全体 (n=)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	家族の通訳をしてほしい	自由に使える時間がほしい
全体	ヤングケアラー	247	22.3	10.1	4.0	3.2	6.9	1.2	25.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	23.0	4.3	5.0	1.9	3.1	1.8	32.0
小学生	ヤングケアラー	73	19.2	9.6	4.1	0.0	4.1	0.0	28.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	28.2	3.2	6.4	4.3	3.2	2.7	33.0
中学生	ヤングケアラー	111	19.8	11.7	3.6	5.4	9.0	1.8	28.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	20.7	5.4	3.9	0.5	2.8	1.3	30.7
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	32.1	7.1	5.4	1.8	5.4	1.8	16.1
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	20.7	0.0	7.3	1.2	2.4	1.2	31.7
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	26.7	6.7	0.0	6.7	13.3	0.0	46.7
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0



		全体(n=)	リフレッシュできる時間や場所がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	わからない	その他	特にない	無回答
全体	ヤングケアラー	247	22.3	11.7	20.2	10.1	6.5	0.4	35.2	4.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	37.9	17.6	25.4	12.4	17.3	2.1	18.9	2.5
小学生	ヤングケアラー	73	21.9	8.2	13.7	8.2	5.5	1.4	38.4	6.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	40.4	17.0	27.1	11.2	18.6	2.1	15.4	0.5
中学生	ヤングケアラー	111	26.1	15.3	25.2	11.7	7.2	0.0	30.6	4.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	36.4	16.3	24.5	10.3	16.8	2.3	20.9	4.1
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	16.1	7.1	19.6	8.9	7.1	0.0	35.7	3.6
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	36.6	25.6	29.3	20.7	18.3	1.2	15.9	0.0
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	53.3	13.3	13.3	33.3	13.3	0.0	13.3	0.0
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0

「ヤングケアラー」および「ヤングケアラーと思われる子ども」で、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援について「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「自分が行っているお世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい」、「家族の通訳をしてほしい」と回答した子どもに詳細を聞いたところ、以下のような意見があった。

図表 23 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援（自由意見）

自分のいまの状況について話を聞いてほしい
<p>&lt;具体的に話をしやすい相手、方法、場所・場面など&gt;</p> <p><b>【学校の先生や友達等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセラーや保健室の先生、担任と、空いている時間、空き教室でいいので、対面で話したい</li> <li>・元担任の先生に、相談室で直接聞いてほしい</li> <li>・放課後、学年主任の先生と、1対1で、誰にも聞かれないような場所がいい</li> <li>・中休みや昼休み等に、友達に聞いてほしい</li> <li>・話を聞いた上で、行動してくれる人（役所に繋いでくれたり、お金の書類の手続きをやってくれたり）がいい。できれば学校に来て欲しい</li> </ul> <p><b>【親族・知人】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家で、親と1対1で話したい</li> <li>・おばあちゃんに、直接会って聞いてほしい。親やきょうだいがいない場所がいい</li> <li>・落ち着いた場所で、知人に直接話を聞いてほしい</li> <li>・習い事の先生やコーチに、誰もいないところで面談してほしい</li> <li>・習い事で仲の良い先輩に、世間話みたいなノリで、対面で話したい</li> </ul> <p><b>【専門家等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロの方等、豊富な知識がありしっかりと話を聞いてくれる大人や、自分に寄り添ってくれる友達に、学校帰りに気軽に寄れる場所で聞いてほしい</li> <li>・しっかりとした対処方法を考えてくれ、言葉だけではなく、行動でも提案や励ましをしてくださる方に聞いてほしい。親の目がない、ファミリーレストラン内や喫茶店などで、面談やインターネットでのチャットがよい。時間制限は1～2時間程度</li> <li>・女の人のカウンセラーで、出来るだけ相手から質問してほしい。誰もいないところがいい</li> </ul> <p><b>【関係が近くない人等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休日、優しい人に、別室か電話で話を聞いてほしい</li> <li>・同年代の女性と、休みの日に対面、二人きりの空間で話したい</li> <li>・友達のような感覚で、ただ自分の話をラフに聞いてほしい。聞いてくれる人は年齢層が高めの人がいい</li> <li>・カフェ等、気が休まり、無関係な人が多い所で、話を聞くだけの役割の人に、話だけを聞いてほしい</li> <li>・自分の話に興味を持ってくれる人に、少し静かな場所で聞いてほしい（静かすぎても緊張してしまう）</li> <li>・否定せず決めつけない人、信頼して心を開き安心できる人と、人が居ない静かなところで、手紙・ネット・電話・対面で話したい</li> <li>・相談窓口の知らない相手と、直接会話したい</li> <li>・知らない人と、インターネット上の架空の空間か、椅子と机以外何もない部屋で、対面で話したい</li> </ul>

- ・あまり自分に関係が近くない人で、顔を見ずに、SNS などで会話だと話しやすい
- ・LINE で、似たような状況になった事がある人に聞いてほしい。同性、匿名がいい
- ・人と顔を合わせて話すのが苦手だから、メールなどネットで、一人のときや、夜に聞いてほしい
- ・ゲーム友達に、ゲーム内で話す

【その他】

- ・誰にも秘密を言わない人がいい
- ・同じような人が集まる所があると良いと思う
- ・誰かに自分のことを話したことがないのでわからない
- ・言いたいことがはっきりと言えない。泣きたくなくても泣いてしまう
- ・話を聞いてほしいけど、優しい対応をしているだけで心の中では嫌ってそうで誰にも相談できない

など

**自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい**

<具体的にどんなお世話か、もしくはどんな時かなど>

【家事】

- ・洗濯、買い物、掃除、料理
- ・洗濯物、ご飯作りをやってほしい、宿題をやる時間が遅くなってしまっからもっと寝たい
- ・洗濯のせいで夜遅くまで起きなくてはいけなくて、手伝ってほしい
- ・料理や掃除
- ・夜の家事をする時
- ・自分の服は自分で洗濯する、食器洗い、トイレ掃除、たまに自分でご飯を作る
- ・料理を作ってほしい、話し相手になってほしい

【介護やお世話】

- ・介護が必要なとき【例：お風呂に入るとき、トイレに行くとき】
- ・トイレや食事の世話
- ・ペットのお世話、犬のさんぽ
- ・友達の小さな子供の面倒

【兄弟姉妹の面倒】

- ・弟の面倒を見てほしい、自分の時間の大半がなくなってしまい、夜に眠れません
- ・父が夜いなくて妹と寝なければいけなく、父は朝帰ってくるため、妹の面倒を見てほしい。
- ・弟の家庭教師
- ・妹の世話 自分が勉強する時

【勉強について】

- ・勉強したいとき
- ・授業、勉強を教えること
- ・学校や塾、部活動などで自分が家にいない時
- ・テストで教えてくれるサービスがほしい

など

## 家族の通訳をしてほしい

<具体的にどんな時か、どんなことに困っているかなど>

- ・進路などを親に相談できない。また、難しい会話が通じないため、書類や講習などの内容をどう伝えればいいのか分からない
- ・兄弟とのけんか
- ・家族との関係がうまくいってないとき
- ・出かけた時
- ・学校からの連絡や書いてもらわないといけない書類の内容がうまく親に伝えられないこと
- ・三者面談、学校から来た書類（アンケートなど）、奨学金の書類、書類（スマホでやるの手続き）、病院（自分の症状を伝える）などたくさん
- ・わたしがイライラしている時

など

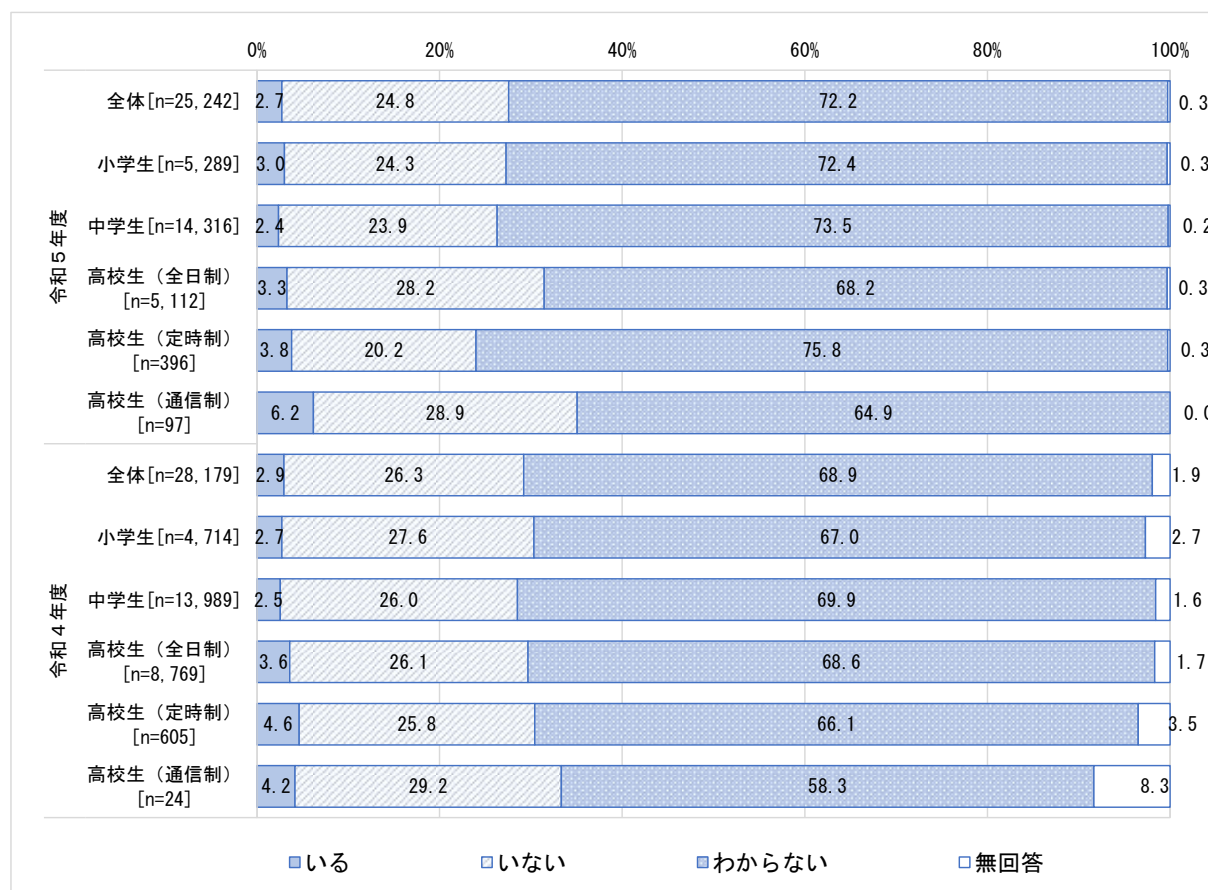
## (7) 友人や周りに「ヤングケアラー」にあてはまる子どもはいるか

友人や周り（クラスメイト、違うクラスの子、違う学年の子、他の学校の友人）に「ヤングケアラー」にあてはまる子どもがいるか聞いたところ、「いる」は小学生で3.0%、中学生で2.4%、高校生（全日制）で3.3%、高校生（定時制）で3.8%、高校生（通信制）で6.2%となっている。

一方、「わからない」が、いずれの学年においても7割程度となっている。

令和4年度と比べて、「いる」の割合にほぼ変化はない。

図表 24 友人や周りに「ヤングケアラー」にあてはまる子どもはいるか



## (8) 「ヤングケアラー」の子どもがいた場合、どうするか

友人や周りに、「ヤングケアラー」にあてはまる子どもがいた場合、どうするか聞いたところ、いずれの学年でも、「相談によってあげる、困っていることがないか聞いてみる」が最も高く、6～7割程度となっている。高校生では「わからない」が2割前後と他と比べて高くなっている。

令和4年度に比べて、高校生（定時制）で、「相談によってあげる、困っていることがないか聞いてみる」「学校の先生に相談する」が増加している。

図表 25 「ヤングケアラー」の子どもがいた場合、どうするか（複数回答） (%)

	全体 (n=)	相談によってあげる、困っていることがないか聞いてみる	学校の先生に相談する	家族（親、きょうだいなど）に相談する	知り合いの大人（学童の先生、近所の人、スポーツのコーチ、じゅく先生など）に相談する	別の友人に相談する	相談できる場所（相談窓口など）を教えてあげる	何もしない	わからない	その他	無回答
全体	25,242	71.2	19.2	19.2	5.1	10.3	19.1	5.0	12.8	0.8	0.8
小学生	5,289	75.1	23.7	23.0	6.9	14.8	22.3	3.6	10.6	1.2	0.7
中学生	14,316	71.8	20.0	19.7	5.3	10.0	19.9	4.9	12.4	0.8	0.8
高校生（全日制）	5,112	66.7	13.1	14.3	3.1	7.2	14.1	6.4	15.1	0.6	1.0
高校生（定時制）	396	57.6	9.6	11.9	2.8	4.8	12.4	10.6	20.7	1.0	1.0
高校生（通信制）	97	56.7	17.5	13.4	4.1	7.2	12.4	9.3	22.7	1.0	2.1

図表 26 「ヤングケアラー」の子どもがいた場合、どうするか（複数回答）【令和4年度】 (%)

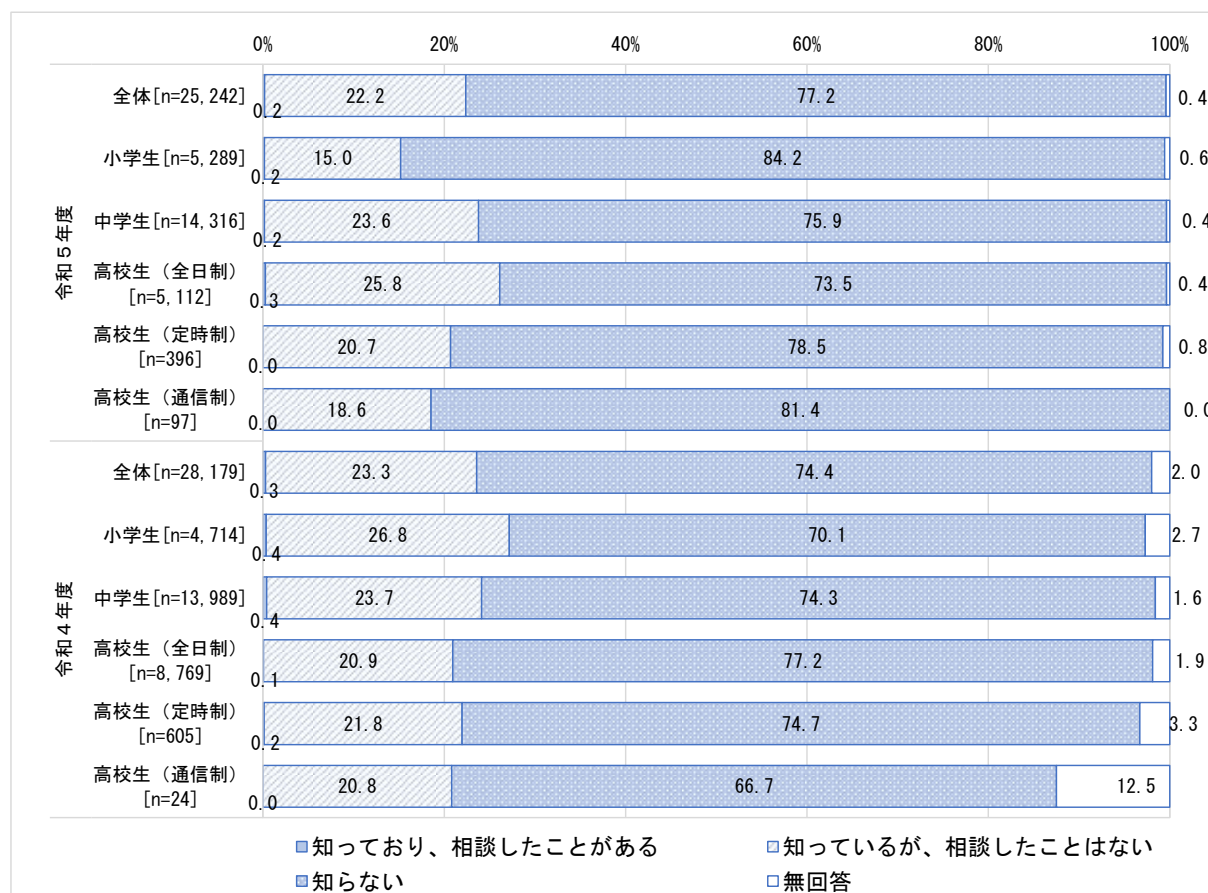
	全体 (n=)	相談にのってあげる、 困っていることがないか 聞いてみる	学校の先生に相談する	家族（親、きょうだいなど） に相談する	知り合いの大人（学童の先生、 近所の人、スポ少のコーチ、じゅく の先生など）に相談する	別の友人に相談する	相談できる場所（相談窓口など） を教えてあげる	何もしない	わからない	その他	無回答
全体	28,179	71.7	18.1	18.0	4.6	9.4	17.5	4.4	12.8	0.3	2.1
小学生	4,714	73.8	23.3	24.4	6.2	14.0	23.3	2.9	12.0	0.5	2.6
中学生	13,989	73.1	20.5	19.4	5.6	10.3	19.5	4.0	12.0	0.3	1.6
高校生 (全日制)	8,769	69.4	11.9	12.9	2.3	5.8	11.5	5.5	14.1	0.2	2.0
高校生 (定時制)	605	62.0	12.1	9.9	2.0	5.1	13.2	6.9	18.2	0.0	4.3
高校生 (通信制)	24	29.2	16.7	4.2	4.2	8.3	20.8	20.8	16.7	0.0	16.7

## (9) 「24 時間電話相談窓口」の認知状況

「24 時間電話相談窓口（0120-189-783、0120-0-78310）」について知っているか聞いたところ、知っている子ども（「知っており、相談したことがある」と「知っているが、相談したことはない」の合計）がいずれの学年も2割強となっている。

令和4年度と比べると、知っている割合は全体では大きな変化はないが、中学生では横ばい、小学生で減少、高校生では増加している。

図表 27 「24 時間電話相談窓口」の認知状況



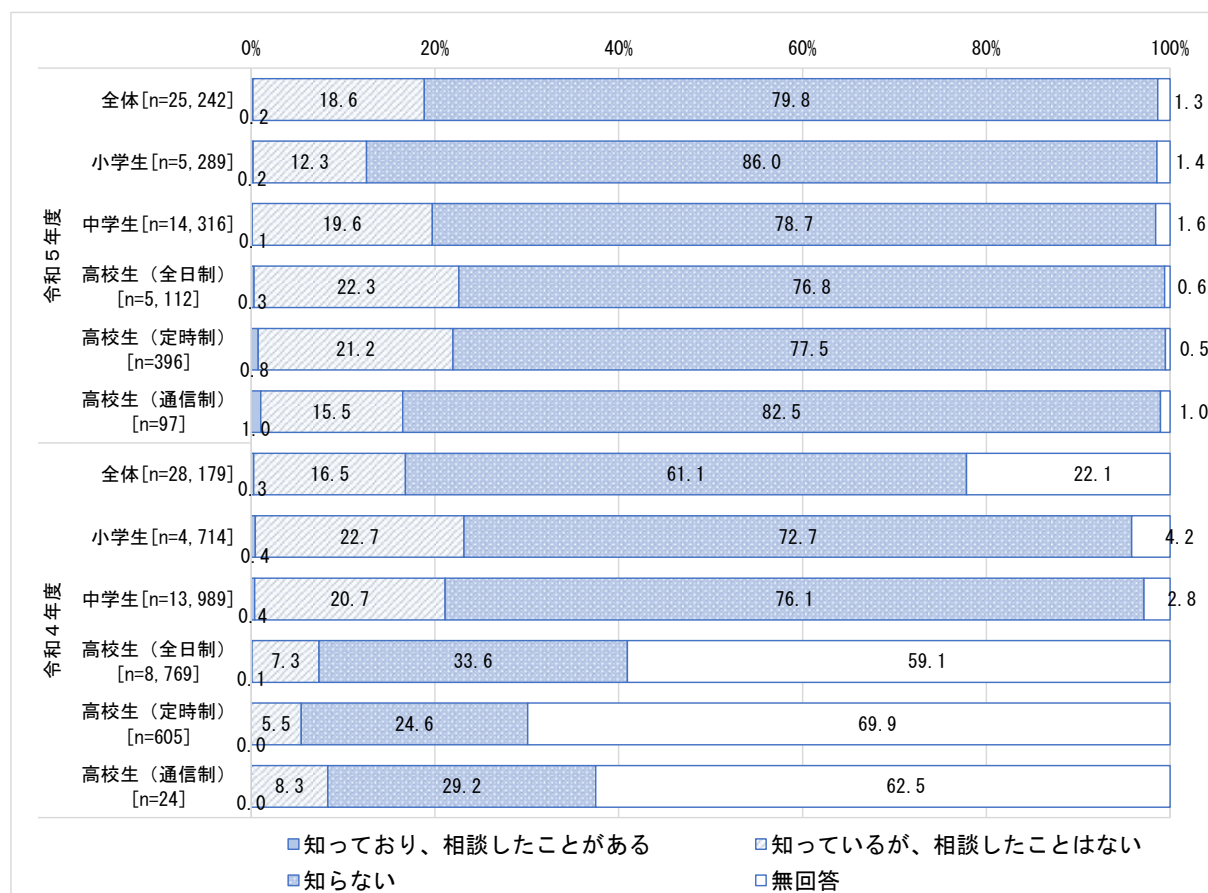


## (10) 「相談支援センター（山梨県総合教育センター）」の認知状況

「相談支援センター（山梨県総合教育センター）」について知っているか聞いたところ、知っている子ども（「知っており、相談したことがある」と「知っているが、相談したことはない」の合計）が中学生と高校生で2割前後となっている。小学生では1割程度となっている。

令和4年度と比較すると、知っている割合は全体では大きな変化はないが、中学生では横ばい、小学生で減少している。

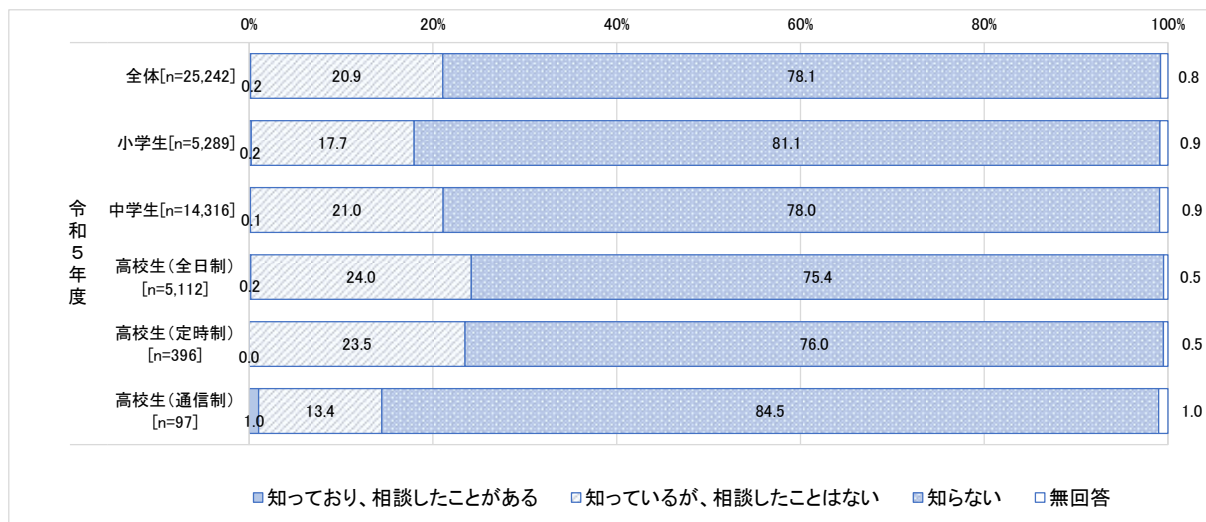
図表 28 「相談支援センター（山梨県総合教育センター）」の認知状況



## (11) 「SNS 相談窓口」の認知状況

「SNS 相談窓口」について知っているか聞いたところ、知っている子ども（「知っており、相談したことがある」と「知っているが、相談したことはない」の合計）が中学生と高校生で 2 割強となっている。小学生では 2 割弱となっている。

図表 29 「SNS 相談窓口」の認知状況



## (12) 「24 時間電話相談窓口」に相談したことがない理由

「24 時間電話相談窓口」について、「知っているが、相談したことはない」と回答した子どもの、相談したことがない理由は、どの学年も「特に相談する必要があるから」が最も高く、小学生で 84.0%、中学生で 88.5%、高校生（全日制）で 90.2%、高校生（定時制）で 86.6%となっている。

令和 4 年度に比べ、小学生、中学生、高校生（定時制）で「特に相談する必要があるから」が増加している。

図表 30 「24 時間電話相談窓口」に相談したことがない理由（複数回答） (%)

	全体 (n=)	特に相談する必要があるから	何を話したらよいかかわらないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	電話で話をするのが苦手だから	電話で相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	相談しても何もかわらないと思うから	相談する時間がないから	その他	無回答
全体	5,600	88.2	8.5	3.5	5.8	5.6	4.6	5.0	3.0	0.7	3.2
小学生	794	84.0	12.0	6.0	10.5	7.4	7.8	6.9	4.7	1.4	3.7
中学生	3,378	88.5	9.0	3.6	6.1	6.2	5.0	5.2	3.1	0.7	2.9
高校生(全日制)	1,320	90.2	5.0	1.7	2.2	2.9	1.8	3.5	1.9	0.1	3.5
高校生(定時制)	82	86.6	9.8	1.2	4.9	3.7	2.4	3.7	3.7	1.2	2.4
高校生(通信制)	18	88.9	11.1	11.1	11.1	5.6	5.6	11.1	5.6	0.0	11.1

図表 31 「24 時間電話相談窓口」に相談したことがない理由（複数回答）【令和 4 年度】 (%)

	全体 (n=)	特に相談する必要があるから	何を話したらよいかかわらないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	電話で話をするのが苦手だから	電話で相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	相談しても何もかわらないと思うから	相談する時間がないから	その他	無回答
全体	6,560	83.4	8.6	3.6	6.8	6.1	5.4	5.9	2.8	0.5	6.2
小学生	1,264	76.4	12.1	7.3	11.5	9.3	10.1	6.7	3.9	1.0	7.7
中学生	3,314	82.3	9.7	3.8	7.5	6.6	6.0	7.0	3.0	0.4	7.1
高校生(全日制)	1,831	90.2	4.3	0.9	2.4	3.3	1.4	3.5	1.9	0.2	3.6
高校生(定時制)	132	81.8	7.6	2.3	4.5	1.5	0.8	6.8	0.8	0.0	5.3
高校生(通信制)	5	80.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

### (13) 「相談支援センター」に相談したことがない理由

「相談支援センター」について、「知っているが、相談したことはない」と回答した子どもの、相談したことがない理由は、どの学年も「特に相談する必要があるから」が最も高く、小学生で 84.5%、中学生で 88.4%、高校生（全日制）で 90.4%、高校生（定時制）で 89.3%となっている。

令和4年度と比べて、小学生と中学生で「特に相談する必要があるから」が増加している。

図表 32 「相談支援センター」に相談したことがない理由（複数回答） (%)

	全体 (n=)	から 特に 相談 する 必要 が ない	何 を 話 し た ら よ い か わ か ら ない か ら	安 だ か ら	話 を 聞 い て も ら え る か 不 安	話 を 聞 い て く れ る 人 が ど んな 人 か わ か ら ない か ら	苦 手 だ か ら	直 接 会 っ て、 話 を す る の が	直 接 会 っ て、 相 談 し て い る こ と を 親 や 友 人 な ど 周 り の 人 に 知 ら れ た く な い か	直 接 会 っ て、 相 談 し て い る こ と を 親 や 友 人 な ど 周 り の 人 に 知 ら れ た く な い か	相 談 し て も 何 も か わ ら な い と 思 う か ら	相 談 す る 時 間 が な い か ら	そ の 他	無 回 答
全体	4,707	88.4	8.7	3.6	5.4	5.1	4.7	4.8	3.2	0.3	2.7			
小学生	653	84.5	13.0	6.3	9.5	8.6	8.1	7.0	5.7	0.3	2.5			
中学生	2,809	88.4	9.1	3.7	6.1	5.6	5.1	5.1	3.2	0.5	2.7			
高校生(全日制)	1,139	90.4	4.8	1.8	1.8	2.2	1.8	2.5	2.1	0.1	2.7			
高校生(定時制)	84	89.3	10.7	0.0	1.2	2.4	3.6	6.0	1.2	0.0	2.4			
高校生(通信制)	15	93.3	13.3	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7			

図表 33 「相談支援センター」に相談したことがない理由（複数回答）【令和4年度】 (%)

	全体 (n=)	から 特に 相談 する 必要 が ない	何 を 話 し た ら よ い か わ か ら ない か ら	安 だ か ら	話 を 聞 い て も ら え る か 不 安	話 を 聞 い て く れ る 人 が ど んな 人 か わ か ら ない か ら	苦 手 だ か ら	直 接 会 っ て、 話 を す る の が	直 接 会 っ て、 相 談 し て い る こ と を 親 や 友 人 な ど 周 り の 人 に 知 ら れ た く な い か	直 接 会 っ て、 相 談 し て い る こ と を 親 や 友 人 な ど 周 り の 人 に 知 ら れ た く な い か	相 談 し て も 何 も か わ ら な い と 思 う か ら	相 談 す る 時 間 が な い か ら	そ の 他	無 回 答
全体	4,652	81.2	9.4	4.4	7.3	7.1	6.2	6.0	3.2	0.3	8.1			
小学生	1,070	73.6	12.1	6.8	10.5	10.5	9.4	6.1	4.3	0.6	10.8			
中学生	2,898	81.5	9.3	4.2	7.1	6.5	5.8	6.4	3.1	0.2	8.5			
高校生(全日制)	640	92.7	5.2	1.1	3.3	4.4	2.3	3.4	2.0	0.2	1.7			
高校生(定時制)	33	78.8	9.1	6.1	9.1	9.1	9.1	12.1	3.0	0.0	6.1			
高校生(通信制)	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0			

#### (14) 「SNS相談窓口(LINE)」に相談したことがない理由

「SNS相談窓口(LINE)」について、「知っているが、相談したことはない」と回答した子どもの、相談したことがない理由は、どの学年も「特に相談する必要があるから」が最も高く、小学生で86.1%、中学生で89.5%、高校生(全日制)で92.7%、高校生(定時制)で81.7%となっている。

図表 34 「SNS相談窓口(LINE)」に相談したことがない理由(複数回答) (%)

	全体(n=)	特に相談する必要があるから	何を話したらよいかわからないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	SNS(LINE)で相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	相談しても何もかわらないと思うから	相談する時間がないから	SNS(LINE)を使っていないから	その他	無回答
全体	5,279	89.5	8.8	4.0	5.7	5.0	4.8	2.9	2.8	0.5	1.8
小学生	938	86.1	13.9	7.5	9.2	8.2	7.4	5.0	9.1	0.7	1.8
中学生	3,003	89.5	9.0	3.8	6.2	5.2	5.1	2.7	2.0	0.7	1.6
高校生(全日制)	1,227	92.7	4.2	1.5	2.0	2.1	1.9	1.7	0.1	0.1	1.9
高校生(定時制)	93	81.7	10.8	4.3	4.3	2.2	8.6	3.2	0.0	0.0	3.2
高校生(通信制)	13	92.3	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7

### (15) 知っている啓発の取組

知っているヤングケアラーの啓発の取組を聞いたところ、小学生で 10.4%、中学生で 10.3%が、「TikTok『【山梨県公式】山梨コネクトヤングケアラー』」を知っていると回答している。高校生（全日制）では「『山梨コネクトヤングケアラー』相談促進啓発カード」が 8.9%と高くなっている。一方、「特になし」が、いずれの学年においても 8 割程度となっている。

図表 35 知っている啓発の取組（複数回答） (%)

	全体 (n=)	TikTok 【山梨県公式】 山梨コネクトヤングケアラー	X (旧 Twitter) 【山梨県公式】 山梨コネクトヤングケアラー	YouTube 動画 「山梨コネクトヤングケアラー」	「山梨コネクトヤングケアラー」 相談促進啓発カード	特になし	無回答
全体	25,242	9.9	4.6	8.6	7.6	79.3	0.7
小学生	5,289	10.4	5.1	9.4	5.7	80.9	0.6
中学生	14,316	10.3	5.1	9.4	7.8	78.4	0.7
高校生(全日制)	5,112	8.2	3.0	5.9	8.9	79.7	0.8
高校生(定時制)	396	7.6	2.5	6.3	8.1	81.8	0.3
高校生(通信制)	97	8.2	4.1	6.2	4.1	84.5	2.1

### (16) この1年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うこと

県のヤングケアラーの啓発の取組が進むなかで、この1年間において、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うことを聞いたところ、いずれの学年も「自分が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」が3割前後と高くなっている。一方、「特になし」は全体では48.7%と半数近くとなっている。

図表 36 この1年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うこと（複数回答） (%)

	全体(n=)	自分が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった	ヤングケアラーについてもっと知りたいと思った	家族や周りの人へ、ヤングケアラーについて教えてあげた	周りの人とヤングケアラーについて話をすることが増えた	ヤングケアラーの相談窓口を見ることが増えた	ヤングケアラーで困っている人がいないか気にするようになった	ヤングケアラーかもしれない人に声をかけた
全体	25,242	33.5	14.6	3.7	1.8	4.5	8.7	0.8
小学生	5,289	30.2	17.6	3.6	1.2	3.2	9.7	1.1
中学生	14,316	36.5	14.4	4.0	1.9	4.7	8.9	0.7
高校生(全日制)	5,112	29.4	12.2	3.1	2.1	5.2	7.2	0.7
高校生(定時制)	396	26.8	11.1	3.5	2.0	4.0	7.1	0.8
高校生(通信制)	97	24.7	15.5	4.1	3.1	4.1	12.4	1.0

	自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めようと思った	特になし	その他	無回答
全体	1.9	48.7	0.3	0.7
小学生	2.9	51.4	0.4	0.7
中学生	1.8	45.9	0.4	0.8
高校生(全日制)	1.1	52.9	0.1	0.6
高校生(定時制)	2.0	55.3	0.0	0.8
高校生(通信制)	3.1	58.8	1.0	0.0

## 4. ヤングケアラーについて（追加分析）

### （1）自身がヤングケアラーか自己認識別の「ヤングケアラー」という言葉の認知状況

自身が「ヤングケアラー」にあてはまるか自己認識別の「ヤングケアラー」の認知状況をみると、小学生から高校生まで共通して、自身が「ヤングケアラー」に「あてはまらない」とする子どもは「聞いたことがあり、内容も知っている」割合が高くなっている。

小学生・中学生では、自身が「ヤングケアラー」にあてはまるか「わからない」と回答した子どもの大半が、「聞いたことはあるが、よく知らない」「聞いたことはない」としている。

一方、高校生では、自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」子どもは「ヤングケアラー」のことを「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答している割合が高くなっている。

また、「わからない」と回答している子どもの5割程度は「聞いたことはあるが、よく知らない」としている。ただし、中学生以上で「わからない」と回答しているそれぞれ2割の子どもは「ヤングケアラー」のことを「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答しているにもかかわらず、「わからない」と回答している。

図表 37 自身がヤングケアラーであるかの自己認識別 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況（％）

		全体 (n=)	聞いたこ とがあ り、内容 も知っ ている	聞いたこ とはある が、よく 知らない	聞いたこ とはない	無回答
全体	あてはまる	247	27.5	31.6	40.5	0.4
	わからない	3,983	18.4	46.7	34.4	0.5
	あてはまらない	20,886	56.7	28.3	14.6	0.4
小学生	あてはまる	73	11.0	26.0	61.6	1.4
	わからない	1,078	10.4	34.0	55.0	0.6
	あてはまらない	4,113	31.0	28.9	39.8	0.3
中学生	あてはまる	111	27.0	34.2	38.7	0.0
	わからない	2,040	21.4	53.2	25.0	0.4
	あてはまらない	12,098	59.9	30.8	8.9	0.3
高校生(全日制)	あてはまる	56	46.4	35.7	17.9	0.0
	わからない	740	22.2	48.2	29.1	0.5
	あてはまらない	4,289	72.1	20.8	6.4	0.7
高校生(定時制)	あてはまる	5	80.0	0.0	20.0	0.0
	わからない	91	17.6	40.7	40.7	1.1
	あてはまらない	295	64.7	22.4	11.5	1.4
高校生(通信制)	あてはまる	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	わからない	25	24.0	32.0	44.0	0.0
	あてはまらない	71	46.5	28.2	23.9	1.4



## (2) 自身が「ヤングケアラー」か自己認識別の現在、悩んだり困っていること

現在、悩んだり困っていることは、自身の「ヤングケアラー」かどうかの自己認識にかかわらず、上位は同じ傾向となっているが、自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」とする子どもは、他に比べて「自分と家族との関係のこと」「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」「病気や障がいのある家族のこと」「自分のために使える時間が少ない」をあげる割合が高く、「特にない」とする割合は低くなっている。また、自身が「ヤングケアラー」にあてはまるか「わからない」とする子どもも、「あてはまらない」とする子どもに比べて、「自分と家族との関係のこと」「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」「病気や障がいのある家族のこと」「自分のために使える時間が少ない」をあげる割合が高く、「特にない」とする割合は低くなっているものが多い。

図表 38 自身が「ヤングケアラー」かの自己認識別 現在、悩んだり困っていること（複数回答） (%)

		全体 (n=)	友人との関係のこと	勉強のこと（学校の成績など）	しょうらいの夢や進路のこと	部活動のこと	じゆくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと（学費、集金など）	家庭のお金のこと（食べ物を買うお金や必要なものを買うお金が足りないことなど）
全体	あてはまる	247	30.0	51.0	34.8	18.6	8.1	8.1	10.9
	わからない	3,983	20.4	45.5	34.9	15.6	2.3	3.9	5.1
	あてはまらない	20,886	16.2	41.9	35.9	11.8	1.0	2.4	1.8
小学生	あてはまる	73	31.5	43.8	30.1	20.5	4.1	8.2	6.8
	わからない	1,078	23.4	37.9	29.9	19.7	2.8	4.2	4.5
	あてはまらない	4,113	17.8	26.3	22.9	14.3	1.3	1.9	1.7
中学生	あてはまる	111	34.2	61.3	39.6	16.2	13.5	6.3	13.5
	わからない	2,040	21.8	54.7	38.2	13.9	2.6	3.3	4.9
	あてはまらない	12,098	17.4	48.1	36.8	10.6	1.1	1.7	1.6
高校生 (全日制)	あてはまる	56	23.2	42.9	30.4	21.4	3.6	8.9	8.9
	わからない	740	12.8	34.3	34.5	15.3	0.5	5.0	5.7
	あてはまらない	4,289	11.6	39.6	45.3	13.0	0.5	4.6	2.4
高校生 (定時制)	あてはまる	5	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	40.0	40.0
	わからない	91	16.5	20.9	28.6	9.9	2.2	6.6	11.0
	あてはまらない	295	12.2	38.3	44.7	10.2	1.4	5.8	4.1
高校生 (通信制)	あてはまる	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	わからない	25	12.0	40.0	20.0	12.0	4.0	8.0	12.0
	あてはまらない	71	16.9	43.7	35.2	12.7	1.4	2.8	2.8

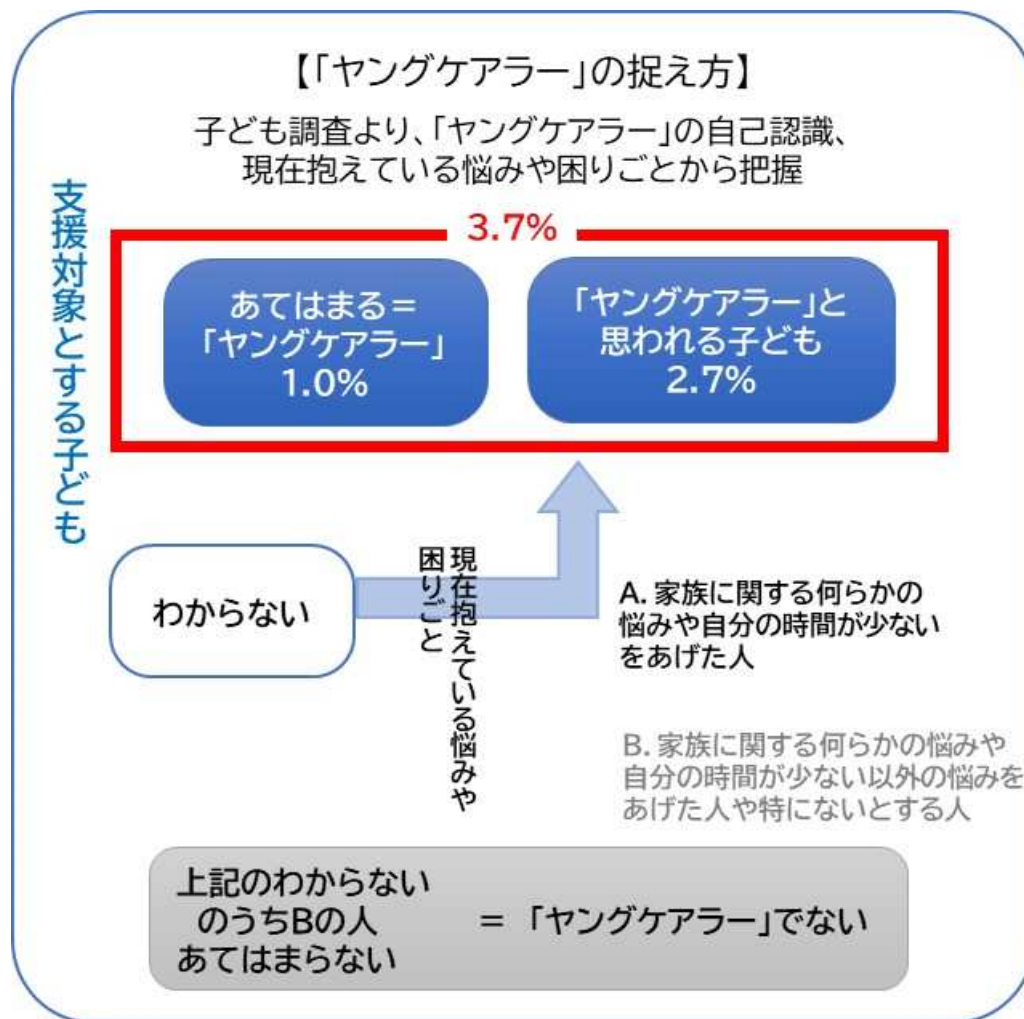
		全体 (n=)	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	家族の通訳のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
全体	あてはまる	247	15.0	10.9	7.3	0.8	14.6	3.2	24.3	1.2
	わからない	3,983	9.3	6.5	3.2	0.5	5.5	2.0	34.2	1.7
	あてはまらない	20,886	4.2	3.1	1.0	0.1	2.2	1.4	39.4	1.8
小学生	あてはまる	73	15.1	6.8	4.1	0.0	12.3	4.1	27.4	1.4
	わからない	1,078	9.6	6.5	3.4	0.7	5.3	2.2	37.1	1.5
	あてはまらない	4,113	3.8	2.9	1.1	0.2	2.0	1.8	50.1	1.7
中学生	あてはまる	111	17.1	14.4	9.0	0.9	15.3	2.7	19.8	0.9
	わからない	2,040	10.8	7.4	3.5	0.6	5.8	1.8	29.3	1.8
	あてはまらない	12,098	4.6	3.2	0.9	0.1	2.0	1.2	36.9	2.1
高校生 (全日制)	あてはまる	56	10.7	7.1	7.1	0.0	16.1	3.6	30.4	1.8
	わからない	740	4.2	4.1	1.9	0.1	5.0	2.2	41.6	1.6
	あてはまらない	4,289	3.4	3.1	0.9	0.1	2.8	1.5	36.2	1.1
高校生 (定時制)	あてはまる	5	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	わからない	91	12.1	7.7	5.5	0.0	4.4	1.1	46.2	2.2
	あてはまらない	295	4.7	3.1	0.3	0.0	3.7	1.4	36.9	0.3
高校生 (通信制)	あてはまる	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	わからない	25	8.0	4.0	0.0	0.0	8.0	4.0	48.0	0.0
	あてはまらない	71	8.5	4.2	1.4	1.4	5.6	4.2	35.2	5.6

### (3) 自身が「ヤングケアラー」および、自身では「ヤングケアラー」かわからないが「ヤングケアラー」と思われる子ども

前述の通り、自身が「ヤングケアラー」かの自己認識で「わからない」と回答した子どもについて、さらに分析を行ったところ、実際に家族のことや、自分自身に使える時間のことで悩んだり困ったりしている子どもが多いことが明らかとなった。

山梨県ヤングケアラー支援計画ではこうした子どもを「ヤングケアラーと思われる子ども」として整理し、支援の対象に含めている。（詳細は下記参照）

ヤングケアラーは全体の 1.0%、ヤングケアラーと思われる子どもは 2.7%で、支援対象する子ども全体は 3.7%となっており、令和 4 年度（3.6%）と大きな変化はみられない。



\*「ヤングケアラーと思われる子ども」・・・自身が「ヤングケアラー」に「あてはまる」か「わからない」と回答した子どものうち、現在悩んだり困っていることとして、「自分と家族との関係のこと」「家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）」「病気や障がいのある家族のこと」「家族の通訳のこと」「自分のために使える時間が少ない」のいずれか 1 つ以上選んだ子ども

### ① 家族構成

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、「ひとり親世帯」の割合が高くなっている。

図表 39 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 家族構成 (%)

		全体 (n <sub>II</sub> )	一 般 世 帯 ( 親 と 子 )	三 世 代	ひ と り 親 世 帯	そ の 他 の 世 帯	無 回 答
全体	ヤングケアラー	247	49.4	22.3	21.5	6.1	0.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	57.4	22.1	13.7	6.6	0.1
	ヤングケアラーではない	24,191	67.7	20.2	9.4	2.6	0.1
小学生	ヤングケアラー	73	50.7	21.9	21.9	5.5	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	56.4	23.4	12.2	8.0	0.0
	ヤングケアラーではない	5,003	70.9	18.7	8.1	2.1	0.1
中学生	ヤングケアラー	111	54.1	15.3	25.2	5.4	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	59.2	21.4	13.2	6.2	0.0
	ヤングケアラーではない	13,751	68.2	19.7	9.6	2.3	0.1
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	39.3	37.5	12.5	7.1	3.6
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	53.7	24.4	17.1	3.7	1.2
	ヤングケアラーではない	4,947	64.0	22.7	9.5	3.6	0.2
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	40.0	13.3	33.3	13.3	0.0
	ヤングケアラーではない	371	58.5	20.8	15.1	5.4	0.3
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	ヤングケアラーではない	92	64.1	21.7	10.9	3.3	0.0

## ② 健康状態

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、健康状態が「あまりよくない」「よくない」といった割合が高くなっており、特にヤングケアラーと思われる子どもで高い。

図表 40 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 自身の健康 (%)

		全体 (n   )	よい	まあよい	ふつう	あまり よくない	よくない	無回答
全体	ヤングケアラー	247	46.6	20.6	22.7	6.9	3.2	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	27.7	21.2	35.1	13.1	2.8	0.0
	ヤングケアラーではない	24,191	62.6	19.4	15.3	2.4	0.3	0.0
小学生	ヤングケアラー	73	50.7	15.1	23.3	6.8	4.1	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	28.7	18.6	37.2	12.8	2.7	0.0
	ヤングケアラーではない	5,003	62.8	19.6	15.1	2.1	0.3	0.1
中学生	ヤングケアラー	111	42.3	25.2	24.3	5.4	2.7	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	28.2	22.7	34.1	12.9	2.1	0.0
	ヤングケアラーではない	13,751	62.4	19.6	15.4	2.3	0.3	0.0
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	48.2	21.4	19.6	7.1	3.6	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	25.6	19.5	34.1	14.6	6.1	0.0
	ヤングケアラーではない	4,947	62.9	18.9	15.2	2.7	0.3	0.0
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	40.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	13.3	26.7	46.7	13.3	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	371	61.7	16.7	17.5	3.0	0.8	0.3
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	ヤングケアラーではない	92	70.7	19.6	7.6	1.1	1.1	0.0

### ③ 現在、悩んだり困っていること

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに学年を問わず、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）子ども」に比べて、「自分と家族との関係」「家族内の人間関係」「病気や障がいのある家族のこと」「家族の通訳のこと」「自分の時間のこと」をあげる割合が高く、中でも、「ヤングケアラー」と思われる子どもはヤングケアラーよりも高い。

図表 41 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 現在、悩んだり困っていること

(複数回答) (%)

		全体 (n=)	友人との関係のこと	勉強のこと(学校の成績など)	しょうらいの夢や進路のこと	部活動のこと	じゆくや習い事ができないこと	学校に支払うお金のこと(学費、集金など)	家庭のお金のこと(食べ物を買うお金や必要なものを買うお金がたりないことなど)
全体	ヤングケアラー	247	30.0	51.0	34.8	18.6	8.1	8.1	10.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	45.4	70.2	58.6	31.9	7.1	12.7	18.9
	ヤングケアラーではない	24,191	16.1	41.7	35.1	11.9	1.1	2.3	1.9
小学生	ヤングケアラー	73	31.5	43.8	30.1	20.5	4.1	8.2	6.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	48.9	60.1	58.5	34.0	10.6	14.9	18.1
	ヤングケアラーではない	5,003	17.8	27.5	23.0	14.7	1.3	1.9	1.7
中学生	ヤングケアラー	111	34.2	61.3	39.6	16.2	13.5	6.3	13.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	47.0	76.7	58.9	32.0	5.7	9.8	15.8
	ヤングケアラーではない	13,751	17.2	48.3	36.4	10.5	1.2	1.7	1.7
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	23.2	42.9	30.4	21.4	3.6	8.9	8.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	30.5	68.3	56.1	29.3	4.9	17.1	28.0
	ヤングケアラーではない	4,947	11.5	38.3	43.5	13.1	0.4	4.5	2.5
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	40.0	40.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	46.7	46.7	66.7	20.0	6.7	26.7	46.7
	ヤングケアラーではない	371	11.9	33.7	39.9	9.7	1.3	5.1	4.0
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	25.0	50.0	50.0	0.0	25.0	50.0	75.0
	ヤングケアラーではない	92	15.2	42.4	30.4	13.0	1.1	2.2	2.2

		全体(n=)	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	家族の通訳のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
全体	ヤングケアラー	247	15.0	10.9	7.3	0.8	14.6	3.2	24.3	1.2
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	54.4	38.2	18.9	3.1	32.2	2.5	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	24,191	3.7	2.7	0.8	0.1	1.9	1.4	39.6	1.8
小学生	ヤングケアラー	73	15.1	6.8	4.1	0.0	12.3	4.1	27.4	1.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	54.8	37.2	19.7	4.3	30.3	2.1	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	5,003	3.1	2.4	0.9	0.2	1.7	1.9	49.2	1.7
中学生	ヤングケアラー	111	17.1	14.4	9.0	0.9	15.3	2.7	19.8	0.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	57.1	38.8	18.6	3.1	30.5	3.1	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	13,751	4.1	2.8	0.8	0.1	1.7	1.2	36.8	2.1
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	10.7	7.1	7.1	0.0	16.1	3.6	30.4	1.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	37.8	36.6	17.1	1.2	45.1	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	4,947	2.9	2.6	0.8	0.1	2.4	1.7	37.6	1.2
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	73.3	46.7	33.3	0.0	26.7	6.7	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	371	3.8	2.4	0.3	0.0	3.0	1.1	40.7	0.8
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	50.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	92	6.5	3.3	1.1	1.1	4.3	4.3	40.2	4.3

#### ④ この1年間で学校で大人に相談したこと

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、学年を問わず、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、この1年間で学校で大人に「相談したことがある」割合が高くなっている。

図表 42 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 この1年間で学校で大人に相談したこと (%)

		全体 (n=)	相談したこ とがある	相談したこ とがない	無回答
全体	ヤングケアラー	247	44.5	53.4	2.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	44.4	55.5	0.1
	ヤングケアラーではない	24,191	36.1	62.8	1.1
小学生	ヤングケアラー	73	43.8	52.1	4.1
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	39.9	60.1	0.0
	ヤングケアラーではない	5003	33.6	65.1	1.2
中学生	ヤングケアラー	111	45.9	52.3	1.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	47.8	51.9	0.3
	ヤングケアラーではない	13,751	38.0	60.8	1.2
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	42.9	57.1	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	37.8	62.2	0.0
	ヤングケアラーではない	4,947	33.7	65.6	0.8
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	60.0	40.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	46.7	53.3	0.0
	ヤングケアラーではない	371	31.8	67.7	0.5
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	100.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	50.0	50.0	0.0
	ヤングケアラーではない	92	26.1	70.7	3.3



### ⑤ 学校の大人への相談のしやすさ

学校の大人への相談のしやすさについて「相談しやすい」とあげた割合をみると、「ヤングケアラー」ではいずれも4割以上と高いものの、「ヤングケアラー」と思われる子どもではいずれも3割以下となっている。

図表 43 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 悩んだり困ったりしたことを相談しやすいか\_「相談しやすい」割合 (%)

		全体 (n=)	担任の先生	保健室の先生 (養護教諭)	カウンセラー の先生
全体	ヤングケアラー	247	45.7	47.4	40.1
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	30.2	28.8	22.3
	ヤングケアラーではない	24,191	49.0	35.2	25.8
小学生	ヤングケアラー	73	41.1	43.8	37.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	22.9	26.6	18.6
	ヤングケアラーではない	5,003	46.1	41.0	33.3
中学生	ヤングケアラー	111	43.2	48.6	40.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	33.9	30.7	26.6
	ヤングケアラーではない	13,751	50.7	36.1	26.4
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	57.1	50.0	41.1
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	29.3	25.6	8.5
	ヤングケアラーではない	4,947	47.6	27.7	17.3
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	20.0	20.0	40.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	33.3	20.0	33.3
	ヤングケアラーではない	371	42.6	25.9	16.4
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	100.0	100.0	100.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	50.0	50.0	25.0
	ヤングケアラーではない	92	44.6	30.4	25.0

## ⑥「ヤングケアラー」の言葉の認知度

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、「聞いたことはない」割合が高くなっている。

図表 44 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「ヤングケアラー」の言葉の認知度 (%)

		全体 (n=)	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 よく知らない	聞いたことはない	無回答
全体	ヤングケアラー	247	27.5	31.6	40.5	0.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	37.2	38.3	23.9	0.6
	ヤングケアラーではない	24,191	51.0	31.0	17.6	0.4
小学生	ヤングケアラー	73	11.0	26.0	61.6	1.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	25.5	31.4	42.0	1.1
	ヤングケアラーではない	5,003	26.8	29.9	43.0	0.3
中学生	ヤングケアラー	111	27.0	34.2	38.7	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	39.8	43.4	16.3	0.5
	ヤングケアラーではない	13,751	54.8	33.8	11.1	0.3
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	46.4	35.7	17.9	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	48.8	32.9	18.3	0.0
	ヤングケアラーではない	4,947	65.0	24.7	9.6	0.7
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	80.0	0.0	20.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	40.0	26.7	33.3	0.0
	ヤングケアラーではない	371	54.2	26.7	17.8	1.3
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	100.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	92	38.0	30.4	30.4	1.1

⑦「ヤングケアラー相談窓口」について「知っており、相談したことのある」子ども

「ヤングケアラー相談窓口」である、「24 時間電話相談窓口」「相談支援センター」「SNS 相談窓口 (LINE)」ともに、「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども、「ヤングケアラーではない (ヤングケアラーにあてはまらない)」のいずれも学年を問わず、「知っており、相談したことのある」子どもは少なかった。

図表 45 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「ヤングケアラー相談窓口」について  
「知っており、相談したことがある」 (%)

		全体(n=)	24 時間電話 相談窓口	相談支援 センター	SNS 相談 窓口(LINE)
全体	ヤングケアラー	247	5.7	3.6	4.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	0.3	0.4	0.7
	ヤングケアラーではない	24,191	0.1	0.1	0.1
小学生	ヤングケアラー	73	6.8	4.1	6.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	5,003	0.1	0.1	0.1
中学生	ヤングケアラー	111	3.6	0.9	0.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	0.5	0.5	1.0
	ヤングケアラーではない	13,751	0.1	0.1	0.1
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	8.9	8.9	8.9
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	4,947	0.2	0.2	0.1
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	371	0.0	0.8	0.0
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	0.0	25.0	25.0
	ヤングケアラーではない	92	0.0	0.0	0.0

⑧ 「24 時間電話相談窓口」、「相談支援センター」「SNS 相談窓口」へ相談したことがない理由

「24 時間電話相談窓口」、「相談支援センター」「SNS 相談窓口」へ相談したことがない理由については、どちらも、「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに「特に相談する必要がないから」が比較的高くなっている。また、「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、「相談しても何もかわらないと思うから」も2～3割となっている。

図表 46 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「24 時間電話相談窓口」相談したことがない理由（複数回答） (%)

		全体 (n=)	特に相談する必要がないから	何を話したらよいかわからないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	電話で話をするのが苦手だから
全体	ヤングケアラー	53	52.8	34.0	13.2	15.1	20.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	191	40.3	39.8	22.5	29.3	32.5
	ヤングケアラーではない	5,335	90.3	7.1	2.7	4.9	4.5
小学生	ヤングケアラー	12	58.3	25.0	8.3	25.0	16.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	37	43.2	40.5	37.8	43.2	40.5
	ヤングケアラーではない	743	86.4	10.4	4.4	8.6	5.7
中学生	ヤングケアラー	18	44.4	33.3	22.2	27.8	27.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	123	35.8	43.9	21.1	29.3	30.9
	ヤングケアラーではない	3,220	90.9	7.5	2.8	5.1	5.2
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	20	65.0	30.0	5.0	0.0	20.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	27	59.3	18.5	11.1	7.4	25.9
	ヤングケアラーではない	1,272	91.3	4.3	1.4	2.1	2.1
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	0.0	100.0	33.3	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	1	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0
	ヤングケアラーではない	78	91.0	5.1	0.0	3.8	2.6
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	16	93.8	12.5	12.5	12.5	6.3

		全体(n=)	電話で相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	相談しても何もかわらないと思うから	相談する時間がないから	その他	無回答
全体	ヤングケアラー	53	20.8	30.2	22.6	9.4	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	191	30.9	33.5	19.4	2.6	2.1
	ヤングケアラーではない	5,335	3.5	3.8	2.3	0.5	3.3
小学生	ヤングケアラー	12	8.3	25.0	16.7	16.7	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	37	43.2	32.4	18.9	2.7	2.7
	ヤングケアラーではない	743	6.1	5.4	3.8	1.1	3.8
中学生	ヤングケアラー	18	38.9	44.4	22.2	11.1	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	123	29.3	33.3	20.3	3.3	1.6
	ヤングケアラーではない	3,220	3.9	3.9	2.3	0.6	3.0
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	20	10.0	20.0	30.0	5.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	27	18.5	33.3	14.8	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	1,272	1.3	2.6	1.2	0.0	3.6
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	78	0.0	1.3	2.6	1.3	2.6
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	ヤングケアラーではない	16	6.3	12.5	6.3	0.0	6.3

図表 47 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「相談支援センター」相談したことがない理由（複数回答） (%)

		全体 (n=)	特に相談する必要がないから	何を話したらよいかわからないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	直接会って、話をするのが苦手だから
全体	ヤングケアラー	58	51.7	31.0	19.0	15.5	15.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	155	33.5	41.9	25.8	31.0	32.3
	ヤングケアラーではない	4,474	90.7	7.2	2.6	4.4	4.0
小学生	ヤングケアラー	15	40.0	26.7	20.0	26.7	13.3
	ヤングケアラーと思われる子ども	31	32.3	35.5	41.9	38.7	41.9
	ヤングケアラーではない	605	88.4	11.4	4.0	7.4	6.8
中学生	ヤングケアラー	22	54.5	36.4	18.2	13.6	18.2
	ヤングケアラーと思われる子ども	101	31.7	47.5	23.8	31.7	29.7
	ヤングケアラーではない	2,668	90.8	7.4	2.8	5.0	4.5
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	18	66.7	22.2	22.2	11.1	16.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	19	47.4	10.5	10.5	10.5	26.3
	ヤングケアラーではない	1,102	91.6	4.4	1.4	1.5	1.5
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	3	33.3	100.0	0.0	33.3	33.3
	ヤングケアラーではない	78	94.9	5.1	0.0	0.0	1.3
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	15	93.3	13.3	13.3	6.7	6.7

(%)

		全体(n=)	直接会って、相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから	相談しても何もかわらないと思うから	相談する時間がないから	その他	無回答
全体	ヤングケアラー	58	13.8	24.1	20.7	0.0	1.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	155	34.8	32.3	17.4	0.6	1.3
	ヤングケアラーではない	4,474	3.5	3.6	2.5	0.3	2.7
小学生	ヤングケアラー	15	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	31	48.4	32.3	9.7	0.0	3.2
	ヤングケアラーではない	605	5.6	5.3	5.1	0.3	2.5
中学生	ヤングケアラー	22	13.6	31.8	27.3	0.0	4.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	101	29.7	31.7	19.8	1.0	1.0
	ヤングケアラーではない	2,668	4.1	3.9	2.4	0.4	2.7
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	18	11.1	16.7	16.7	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	19	31.6	26.3	21.1	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	1,102	1.1	1.9	1.5	0.1	2.8
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	78	1.3	2.6	1.3	0.0	2.6
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	15	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7

図表 48 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「SNS相談窓口（LINE）」相談したことがない理由（複数回答） (%)

		全体 (n=)	特に相談する必要がないから	何を話したらよいかわからないから	話を聞いてもらえるか不安だから	話を聞いてくれる人がどんな人かわからないから	SNS(LINE)で相談していることを親や友人など周りの人に知られたくないから
全体	ヤングケアラー	50	50.0	34.0	20.0	16.0	14.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	189	40.2	39.2	27.5	31.7	32.8
	ヤングケアラーではない	5,021	91.8	7.3	2.9	4.6	3.8
小学生	ヤングケアラー	11	54.5	36.4	18.2	27.3	9.1
	ヤングケアラーと思われる子ども	51	37.3	43.1	41.2	41.2	43.1
	ヤングケアラーではない	874	89.5	11.9	5.3	7.1	6.1
中学生	ヤングケアラー	22	50.0	36.4	22.7	18.2	22.7
	ヤングケアラーと思われる子ども	111	40.5	39.6	23.4	29.7	29.7
	ヤングケアラーではない	2,854	91.7	7.5	2.9	5.2	4.2
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	14	57.1	21.4	21.4	7.1	7.1
	ヤングケアラーと思われる子ども	20	55.0	15.0	5.0	15.0	25.0
	ヤングケアラーではない	1,193	93.7	3.8	1.2	1.7	1.7
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	6	16.7	66.7	50.0	33.3	16.7
	ヤングケアラーではない	83	89.2	4.8	1.2	2.4	1.2
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	13	92.3	15.4	15.4	7.7	0.0



(%)

		全体(n=)	相談しても何もかわらないと思うから	相談する時間がないから	SNS(LINE)を使っていないから	その他	無回答
全体	ヤングケアラー	50	28.0	18.0	2.0	4.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	189	28.0	16.9	7.4	3.2	0.5
	ヤングケアラーではない	5,021	3.7	2.2	2.6	0.4	1.8
小学生	ヤングケアラー	11	27.3	18.2	9.1	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	51	23.5	21.6	13.7	5.9	0.0
	ヤングケアラーではない	874	6.2	3.9	8.8	0.5	1.9
中学生	ヤングケアラー	22	31.8	13.6	0.0	9.1	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	111	30.6	15.3	6.3	2.7	0.9
	ヤングケアラーではない	2,854	3.9	2.2	1.9	0.6	1.7
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	14	21.4	28.6	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	20	10.0	15.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	1,193	1.5	1.2	0.1	0.1	1.9
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	6	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	83	3.6	1.2	0.0	0.0	3.6
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーではない	13	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7

⑨ 今の生活の満足度

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子どもともに、「ヤングケアラーではない（ヤングケアラーにあてはまらない）」に比べて、今の生活の満足度の平均点が低く、中でも、「ヤングケアラー」と思われる子どもの平均点は5点前後と、他に比べて1点以上の差がある。

図表 49 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 今の生活の満足度 (%)

		全体 (n=)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点
全体	ヤングケアラー	247	5.3	2.8	3.2	10.1	8.1	11.3	8.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	4.1	3.2	6.5	9.9	14.3	19.0	10.2
	ヤングケアラーではない	24,191	0.6	0.4	0.9	2.2	3.5	9.7	7.7
小学生	ヤングケアラー	73	8.2	2.7	5.5	5.5	4.1	6.8	6.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	5.9	2.7	5.9	11.7	11.7	17.0	7.4
	ヤングケアラーではない	5,003	0.5	0.4	0.8	1.6	2.8	6.7	5.5
中学生	ヤングケアラー	111	3.6	2.7	2.7	9.9	11.7	10.8	7.2
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	3.9	3.9	6.2	9.6	15.2	19.4	9.6
	ヤングケアラーではない	13,751	0.6	0.4	0.9	2.1	3.4	9.5	7.5
高校生(全日制)	ヤングケアラー	56	5.4	3.6	1.8	16.1	7.1	17.9	12.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	1.2	1.2	9.8	7.3	17.1	22.0	15.9
	ヤングケアラーではない	4,947	0.7	0.5	1.0	3.0	4.2	13.3	10.1
高校生(定時制)	ヤングケアラー	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	0.0	6.7	6.7	6.7	6.7	26.7	20.0
	ヤングケアラーではない	371	1.9	0.8	1.6	3.2	6.7	12.4	8.6
高校生(通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	ヤングケアラーではない	92	4.3	0.0	0.0	4.3	3.3	3.3	6.5

(%)

		全体 (n=)	7点	8点	9点	10点	無回答	平均
全体	ヤングケアラー	247	13.0	14.2	6.5	17.0	0.0	6.12
	ヤングケアラーと 思われる子ども	678	14.9	9.3	4.1	4.3	0.1	5.19
	ヤングケアラー ではない	24,191	14.7	21.1	14.5	24.6	0.1	7.66
小学生	ヤングケアラー	73	13.7	13.7	12.3	20.5	0.0	6.44
	ヤングケアラーと 思われる子ども	188	16.5	9.6	5.9	5.9	0.0	5.29
	ヤングケアラー ではない	5,003	11.2	19.6	17.9	32.9	0.1	8.11
中学生	ヤングケアラー	111	14.4	16.2	3.6	17.1	0.0	6.16
	ヤングケアラーと 思われる子ども	387	14.7	9.8	3.6	3.9	0.3	5.15
	ヤングケアラー ではない	13,751	14.9	21.2	15.2	24.3	0.1	7.69
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	7.1	12.5	3.6	12.5	0.0	5.55
	ヤングケアラーと 思われる子ども	82	14.6	7.3	2.4	1.2	0.0	5.11
	ヤングケアラー ではない	4,947	17.9	22.4	9.8	17.1	0.1	7.19
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	6.40
	ヤングケアラーと 思われる子ども	15	6.7	0.0	6.7	13.3	0.0	5.60
	ヤングケアラー ではない	371	14.3	22.4	7.5	19.9	0.5	7.05
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	9.00
	ヤングケアラーと 思われる子ども	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	5.00
	ヤングケアラー ではない	92	22.8	14.1	13.0	28.3	0.0	7.54

「ヤングケアラー」と「ヤングケアラー」と思われる子どもを合わせた今の生活の満足度の平均は 5.4 点となっている。

図表 50 「ヤングケアラー」 + 「ヤングケアラー」と思われる子どもの今の生活の満足度 (%)

	全体	小学生	中学生	高校生 (全日制)	高校生 (定時制)	高校生 (通信制)
全体 (n=)	925	261	498	138	396	5
ヤングケアラー＋ ヤングケアラーと 思われる子ども	5.44	5.61	5.37	5.29	5.80	5.80

⑩ この1年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うこと

この1年間で、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うことは、「自分が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」はいずれの学年・ヤングケアラーか否かに関わらず2～3割程度となっている。「自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めてよいとわかった」は、「ヤングケアラー」で学年を問わず1割程度となっている。

図表 51 「ヤングケアラー」、「ヤングケアラー」と思われる子ども別 「24時間電話相談窓口」相談したことがない理由（複数回答） (%)

		全体 (n=)	自分が、ヤングケアラーについてよく理解できなくなった	ヤングケアラーについてもっと知りたいと思った	家族や周りの人について、ヤングケアラーについて教えてあげた	周りの人とヤングケアラーについて話をすることが増えた	ヤングケアラーの相談窓口を見ることが増えた
全体	ヤングケアラー	247	29.1	12.6	4.5	2.4	5.3
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	24.8	16.2	4.4	2.7	7.4
	ヤングケアラーではない	24,191	33.9	14.6	3.7	1.8	4.4
小学生	ヤングケアラー	73	31.5	16.4	5.5	2.7	1.4
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	22.9	20.7	4.8	2.7	6.4
	ヤングケアラーではない	5,003	30.6	17.5	3.6	1.2	3.1
中学生	ヤングケアラー	111	28.8	11.7	2.7	1.8	3.6
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	26.1	14.5	4.1	2.1	7.8
	ヤングケアラーではない	13,751	36.9	14.4	4.0	1.9	4.6
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	28.6	10.7	7.1	3.6	14.3
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	23.2	12.2	2.4	2.4	7.3
	ヤングケアラーではない	4,947	29.6	12.2	3.0	2.0	5.1
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	20.0	20.0	6.7	6.7	0.0
	ヤングケアラーではない	371	27.5	11.1	3.2	1.9	4.3
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	ヤングケアラーではない	92	23.9	14.1	2.2	1.1	2.2

		全体(n=)	ヤングケアラーで困っている人がいないか気にするようになった	ヤングケアラーかもしれない人に声をかけた	自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めてよいとわかった	その他	特になし	無回答
全体	ヤングケアラー	247	8.1	2.4	8.9	0.0	48.2	3.6
	ヤングケアラーと思われる子ども	678	12.5	3.2	3.8	0.7	50.4	1.3
	ヤングケアラーではない	24,191	8.6	0.7	1.8	0.3	48.6	0.6
小学生	ヤングケアラー	73	8.2	1.4	12.3	0.0	42.5	5.5
	ヤングケアラーと思われる子ども	188	17.6	5.9	4.8	1.1	51.1	1.1
	ヤングケアラーではない	5,003	9.5	1.0	2.8	0.4	51.6	0.6
中学生	ヤングケアラー	111	8.1	1.8	7.2	0.0	47.7	3.6
	ヤングケアラーと思われる子ども	387	10.6	2.3	3.6	0.5	49.6	1.3
	ヤングケアラーではない	13,751	8.9	0.7	1.7	0.4	45.7	0.7
高校生 (全日制)	ヤングケアラー	56	8.9	5.4	8.9	0.0	51.8	1.8
	ヤングケアラーと思われる子ども	82	8.5	0.0	0.0	0.0	54.9	2.4
	ヤングケアラーではない	4,947	7.2	0.6	1.1	0.1	53.0	0.3
高校生 (定時制)	ヤングケアラー	5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	15	6.7	6.7	6.7	0.0	46.7	0.0
	ヤングケアラーではない	371	7.0	0.5	1.6	0.0	55.3	0.8
高校生 (通信制)	ヤングケアラー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	ヤングケアラーと思われる子ども	4	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0
	ヤングケアラーではない	92	10.9	0.0	1.1	0.0	59.8	0.0

## 5. 自由意見

ヤングケアラーを助けるため必要なこと、助けてほしいことについて主な意見は以下のとおり。

<小学生>

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
困り事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょっとしたことで泣いてしまったり、やめると言っても聞いてくれない人がいて学校に行きたくないことが増えた</li> <li>・人とちょっと違うとからかったり、いじめたり、無視したり、普通の人より弱いという印象をつけたりするのをやめてほしい</li> <li>・助けを求めた時、「気にし過ぎ」「お前が思っているだけだろ」と決めつけないでほしい</li> <li>・人任せや、一度に押し付けるのをやめてほしい</li> <li>・障がいのある家族が、機嫌が悪い日はモノを壊したり暴力をふるうので悩んでいる</li> </ul>
経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭的援助</li> </ul>

「ヤングケアラー」と思われる子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
困り事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談するのが怖い、しづらい</li> <li>・お母さんが怖い。妹が何か悪いことをして頬を引っ張ったりする。「自分もされたらどうしよう」と考える。親との関係は壊したくないし、妹の泣き顔も見たくない</li> </ul>
助言、手伝い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスがほしい</li> <li>・大人に相談に乗ってもらったり、手伝ってもらいたい</li> </ul>
相談できる場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートできるような、悩んでも人も安心して話せる場所がほしい</li> <li>・学校の近くに児童相談所をおいてほしい</li> </ul>
勉強時間や自由時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習い事が多くて自分の時間がない。やめたくてもダメと言われ、帰ったら家事をしないといけな。自由がほしい</li> </ul>
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このようなアンケートを定期的に行ってほしい</li> </ul>

自身がヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
話を聞く、声をかける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に挨拶やコミュニケーションを取って、友達になにか困っていないかを聞いてみる</li> <li>・様子が変わっていたら、自分から声をかけてあげる</li> <li>・困っていたら相談に乗ってあげて、それでも解決しなかったら大人(親とか先生)に相談する</li> </ul>
相談できる場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラーについての情報、相談できるところを教えてあげる</li> <li>・大人に、匿名などで相談できる環境があればいい</li> <li>・話しやすい雰囲気や、気軽に話せる環境をつくる</li> </ul>
寄り添い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の支えになれるように、解決策を一緒に考えてあげる</li> <li>・その人に寄り添い、一緒にいる時間が少なくても、その時間はヤングケアラーが楽しめるようにしたい。一人で抱え込んでしまうとストレスなど溜まってしまう</li> </ul>
地域での支え合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や周りの大人に相談しやすく手伝ってもらいやすい環境を作る</li> <li>地域の人がヤングケアラーの人の手伝いをする</li> <li>・ご近所付き合いをする。その子の親が病気で助けてほしいとき、頼れる人がいないと大変だし、ご飯をおすそ分けしてくれるかもしれないから</li> </ul>
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事の代行サービスや、生活必需品を届けたりするサービス</li> <li>・ヤングケアラーの家に行って、そうじやご飯を作るなどを週に3、4回する</li> <li>・無料で、市・県のほうからヤングケアラーで困っている人たちに大人を派遣し、勉強などを助けてあげる</li> </ul>

項目	主な意見(抜粋)
経済的支援	・ヤングケアラーのための補助制度のようなものを作る ・食料などの生活費を出してあげる
安心できる場所	・安心できるような場所を作ったほうがいい
啓発	・「ヤングケアラー相談窓口」などに関して、全く知らなかった。知名度が低いまま活動しても意味がないと思うので、テレビなどでの宣伝の機会をもっと増やしたほうがいい ・気楽に、緊張せずに相談できる窓口があることを知ってもらうために、学校でチラシを配ったり、色々なところにヤングケアラーのポスターを貼ったほうが良い ・Tiktok を見ていると、おすすめという欄の広告に流れてくる。そのまま、Tiktok や X(旧 Twitter)、YouTube など、SNS での活動を続けたい

### <中学生>

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
困り事	・家事が大変 ・友達のことによって不安
相談	・相談に乗って欲しい、自分についての悩みを聞いてほしい ・ケアしていた人が亡くなったことに対して助けてほしい
勉強時間や自由時間の確保	・祖父の面倒を祖母が見られない時に代わっている。そんなに時間がかかることはしていないが、何度も呼ばれると、勉強ができなかったりやる気が落ちてしまう。 ・勉強ができないけど、家庭教師などは少し嫌 ・自由に何でもできる時間、一人の時間がほしい

「ヤングケアラー」と思われる子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
困り事	・飲酒すると気持ちのコントロールができなくなる親がいる
声掛け、寄り添い	・恥ずかしくて言えない時があるから、もしなにか元気なときは声をかけてほしい ・優しく声をかけて、相談にのってほしい ・そばにいてほしい。裏切らないでほしい ・自分自身ヤングケアラーなのかはわからないが、話は聞いてほしい
相談できる場	・介護を手伝う中で、悩んでいることを家庭外(学校等)に相談すると親に怒られる。相談していることがわからないような相談口があればいい ・インターネットに気軽に相談できる窓口 ・いじめ相談の名刺(カード)のようなものを、ヤングケアラーでも作って欲しい
居場所づくり	・好きな時に逃げてこられる場所がほしい。好きなことができるように学校でもちよっとでもいいから時間を作ってほしい ・家族に理不尽にストレスをぶつけられたり、強く怒られたりと、家に居場所がない。友達の家にいると楽になる
経済的支援	・経済的な支援 ・家族の経済的負担を減らしてほしい ・ヤングケアラーがいる家庭への支援金があれば、学費や家事等代行費に使える
家事等の手伝い	・ヤングケアラーの人の家庭に県から一人介護のできる人を配属 ・手伝ってくれる人がいてほしい ・家事の回数を少し減らしてほしいけれど、家族に負担をかけたくない ・通訳
アンケート	・ヤングケアラーは、たぶん周りを気にしてしまうので、アンケートは、個室で一人で答えられる環境があるといい
その他	・認知症の対策強化 ・親が身体障害者で、家族関係もあまり良いとは言えない。一人で何かをするという日も少なくないが、「ヤングケアラー」にあてはまるのか

自身がヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
話を聞く、声を掛ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞くだけでもその人にとってはすごくありがたいことだと思うから、話を聞いてあげるだけでも助けることにつながると思う</li> <li>・友達などの異変を少しでも見つけたら積極的に声をかけ話を聞き相談に乗る。自分で解決できそうな場合はアドバイスなどをする。しかし、できない場合はその人の許可を取ってから自分の信頼できる人や先生、親などに相談を試みる。それで「相談所に行ってみるといい」と言われてその人が嫌がる場合には自分がその人の支援をする</li> </ul>
相談できる場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校など公共施設での相談場所の設置してもらうこと</li> <li>・悩みを抱える人は、周りの目を気にしてしまうことによって相談しづらくなってしまっているように感じます。もっと積極的に話ができるような環境(定期的なカウンセリングなど)を整えてほしいです</li> <li>・誰でも相談のしやすい窓口を増やしたり、ヤングケアラーについて他の人が理解しやすいものを作る</li> </ul>
自分ができることをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談に乗ってあげたり、他の人への相談を薦めたりしてあげたりしてあげたり他にも、このヤングケアラーの窓口について教えてあげたりして自分のできることをやれるだけ尽くしてあげるのが一番最善だと思います</li> <li>・相談にのりボランティアで助ける</li> </ul>
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の人をヤングケアラーのいる家庭に派遣する</li> <li>・おせっかいな街みたいなもので、大変なことを地域などで解決するという地域活動をインターネットでみたことがある。ヤングケアラーの人も地域の人達で少しでも話せる人がいたら、なにか解決するかもしれないので、その地域活動を山梨県全体で行えばいいと思う</li> <li>・ヤングケアラーの人がやる家事などを無償でやってもらう制度を作るなどをやったら少しでもヤングケアラーの人が楽になるのではないのでしょうか</li> </ul>
経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金を政府が出し、子どもが不自由のない(ヤングケアラーではない人と同じ)生活を営めるようにする</li> <li>・支援金や生活の分も含めた奨学金など。奨学金の場合は利子なしや返済の見通しが立たない場合の支援措置(仕事の提供や減額など)を出すなどがあると良いかもしれないと思った</li> <li>・親が仕事が忙しくて、自分が家事をしたりしているのならば、食料を寄付してあげたり、そういう生活用品を買えるようなお金を募金してあげたりするなどのことをしていけば良いと思う</li> </ul>
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私がいももしヤングケアラーだったら親や先生には直接話づらいので、定期的にアンケートを実施する必要があると思う</li> </ul>
自分の時間がもてる場所、精神的なケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の時間が得られる場所をつくる</li> <li>・心のケアをすること</li> </ul>
福祉サービス等の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・託児所や介護施設などのサービスを充実させる</li> <li>・福祉、介護、教育などの現場でのヤングケアラーに関する研修の促進すること</li> </ul>
啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な SNS にヤングケアラーの相談があることを知らせてほしい</li> <li>・交流会などのイベントを開く</li> <li>・言いつらい人がほとんどだと思うし、相談できる人が周りにいないのも事実だと思う。一人ひとりの理解を深めるとことから始めるのが一番いいと思う</li> </ul>



<高校生（全日制）>

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とする子どもの意見

項目	主な意見(抜粋)
経済的支援	・経済的支援
自分時間の確保	・自分の時間が確保できない日がある
家族関係の困り事	・家族と交代で祖母を見てはいるが互いにギクシャクしたりする時がある。家族で話し合い分担を決めるなど一人一人の負担を減らせるように努力している

「ヤングケアラー」と思われる子どもの意見

項目	主な意見(抜粋)
必要な支援	・相談しやすい関係作り ・本当に親身に寄り添ってくれる、信用・信頼できる人
その他	・どうすれば少しは楽になるのか

自身がヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
話を聞く、声を掛ける	・話をしていたりしてヤングケアラーかもしれないと思った時に、すぐに辛いことはないか、助けの手を差し伸べることが必要だと思う。私がヤングケアラーだったら、助けを求めるべき場所や方法を教えて欲しい ・常に周りを見て困ってる人や辛そうな人がいたらそっと声をかけたいと思った
相談できる場	・話を聞いてあげることも大切だが、そもそもヤングケアラーには十分な時間がない。学校内の時間で相談ができる機会を設けるといいと思う ・秘匿性が最も大切だと思います。相談したいけど大事にしたい訳では無いという人が多いと思うので、そこに重きを置いた方が相談数は増えると思います
自分ができることをする	・悩んでいるならそっと寄り添って話を聞いてあげたり、できることなら一緒に家の事を手伝ったりしてあげることが出来ると思う
生活支援	・家事を代わりにしてくれる人が必要 ・代替りの労働力を提供する
経済的支援	・経済的支援。大変な時にスーパー等で惣菜を買ったり、コインランドリーを使ったりできる経済力があれば、若干心に余裕を持って生活することができると思う ・経済的な支援を子どもにではなく、まずは親に行うべきだと考えました
学習支援	・学習面(大学進学など)での支援 ・ヤングケアラーとして過ごした日々の分の義務教育の学習をやり直せる制度
気づき、アンケート	・学校が気付いてあげること、学校と相談機関や施設などが協力して、ヤングケアラーが安心して頼ることができるようにすること ・定期的にアンケート調査を行う
精神的なケア	・心のケア ・金銭的な支援もそうだが、精神的な支援をもっとすべきだと思う
理解促進・啓発	・保育園生や、小学生にも分かりやすい言葉で、ヤングケアラーについて説明して、理解を深めて行くべきだと思う ・相談をしたからと言って今の状況が変わる訳が無いと思い行動を起こせていない人もいると思うので、相談の電話や連絡の際に具体的にどんな解決策をしてくれるのかを予め周知しておくこと ・もっと周りの理解が必要。自分の部活でもヤングケアラーの人がいるけれど、1人で抱え込んでしまっている。学校側の理解も進んでいないと思う。ただ相談の場を設けるだけでなく、明確な対応をするべきだと思います

<高校生（定時制）・（通信制）>

自身がヤングケアラーに「あてはまる」とする子どもの意見

項目	主な意見(抜粋)
経済的支援	・家計が家族の入院、通院費でなくなり、バイトをしている私がお金を貸すこともあった。お金がないから私は就職をせざるを得なかった。金銭面の支援をお願いしたい
家族のメンタルケア、家族関係	・家族のメンタルケアをお願いしたい。小さい頃から病気の母のメンタルケアをしていて辛かった。今も家族の愚痴を聞かされていて辛い ・家族の仲が悪い。家族間の仲を取り持たされている

「ヤングケアラー」と思われる子どもの意見

項目	主な意見(抜粋)
家事などの手伝い	・ヤングケアラーなのかかわからないが、家に家事などを適切にしてくれる人がいない ・ヤングケアラーの経験があるが、担任の先生が沢山動いてくれて本当に助かった

自身がヤングケアラーに「あてはまらない」「わからない」とする子どもの主な意見

項目	主な意見(抜粋)
話を聞く、声をかける	・困っている人がいたら相談に乗り、助ける。孤立させないようにする ・気づいたら声をかける ・周りの人が支えてあげることが大切 ・日頃接している、対処する力のある人が気を配る
相談できる場	・気軽に話せる場所を作る ・いつでも相談できる環境作り ・一人で抱え込まずに、だれかしらに相談して少しでも楽になることが必要 ・ヤングケアラーの人は他の人に相談しづらいと思うから、情報ももれない、安心できる場所が必要
自分ができることをする	・たまに家へ行って手伝いをするなど、少しでもサポートしてあげることが最適解だと思う
生活支援	・行政の支援 ・両親の生活や、仕事での支援 ・環境の整備を行う ・施設の充実、または入れる人の条件を緩くする
経済的支援	・支援金 ・母子家庭、父子家庭への援助を手厚くする。複数子どもがいる家庭への更なる援助
啓発	・相談窓口を広める必要がある。、テレビのCMなどを通してもっと啓発する必要がある ・ヤングケアラーについて、もっと色々な人に伝えたほうが、助けられることが増えるのではないか ・ヤングケアラーについて詳しく知ることができるように、講演会や授業で話す機会を増やす ・1人で悩まなくていい、周りに安心して頼れるところがあるということに気づいてもらえるように、より多くのポスター掲示、学校の先生による呼びかけをしてもらいたい

## 第III章 県政モニター調査

### 1. 調査について

県民の「ヤングケアラー」の認知度や意識を確認し、今後の県民意識の経年比較を行うために、県政モニターの登録者に対する「県政モニター調査」を実施した。サンプリングによる調査のため、回答者の属性ごとの回収割合は母集団の人口構成と異なる。そのため、県民の意見を適切に反映できるよう、回答者の属性ごとの回収割合を母集団の人口の構成比となるよう重みづけをして集計した。

<参考：重みづけについて>

例えば、①のように母集団の人口構成比と回収割合に差異がある場合、それらを比較して補正率を算出し（②）、男性の回収サンプルであれば「1.25」の重みづけをすることで、全人口に対する割合と同じ構成比にできる（③）。

①母集団と回収数（例）

	母集団の人口及び人口構成比		回収数及び回収割合	
	人口（人）	人口構成比（%）	回収数（人）	回収割合（%）
男性	1,000	<b>50.0</b>	120	<b>40.0</b>
女性	1,000	<b>50.0</b>	180	<b>60.0</b>
合計	2,000	100.0	300	100.0

②補正率（例）

	補正率
男性	<b>1.25</b>
女性	<b>0.83</b>

例：（男性の補正率）＝（母集団の男性の人口構成比）／（男性の回収割合）

③補正後の回収数（例）

	回収数（人）	回収割合（%）
男性	150	50.0
女性	150	50.0
合計	300	100.0

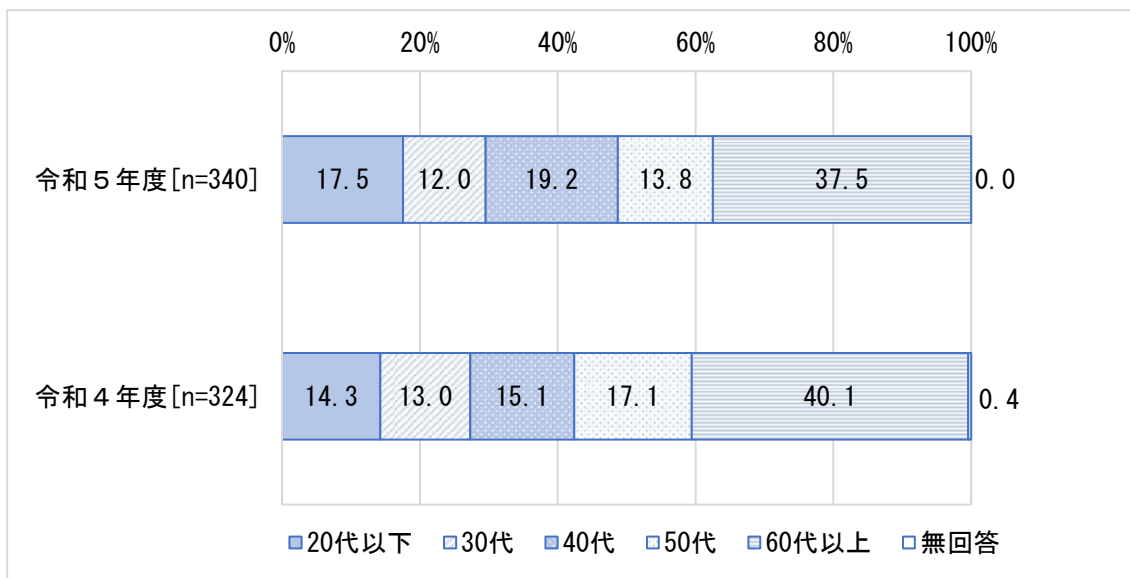
例：（男性の補正後の回収数）＝（男性の回収数）×（男性の補正率）

## 2. 基礎情報

### (1) 年代

年代は、「60代以上」が37.5%で最も高く、次いで「40代」（19.2%）、「20代以下」（17.5%）となっている。

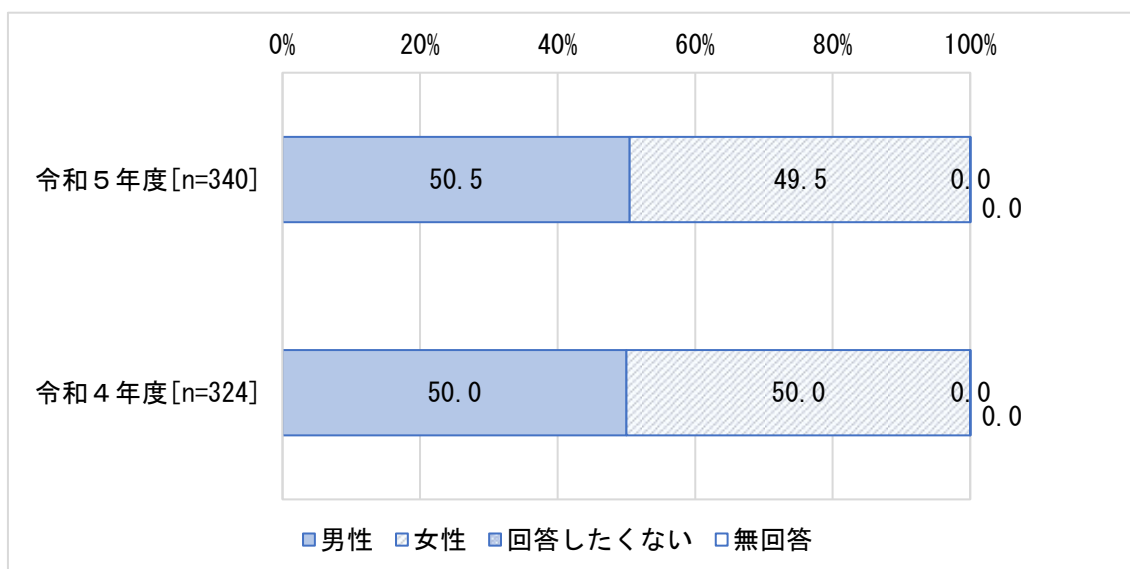
図表 52 年代



### (2) 性別

性別は、「男性」、「女性」とほぼ同じ割合である。

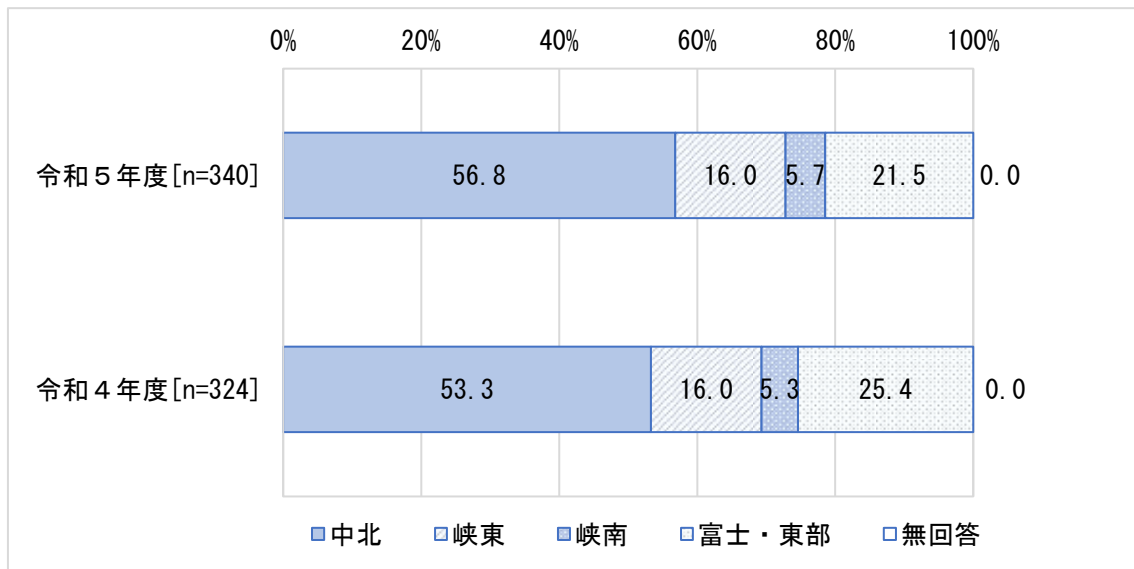
図表 53 性別



### (3) 居住地

居住圏域は、「中北」が 56.8%と最も高く、次いで「富士・東部」(21.5%)、「峡東」(16.0%)となっている。

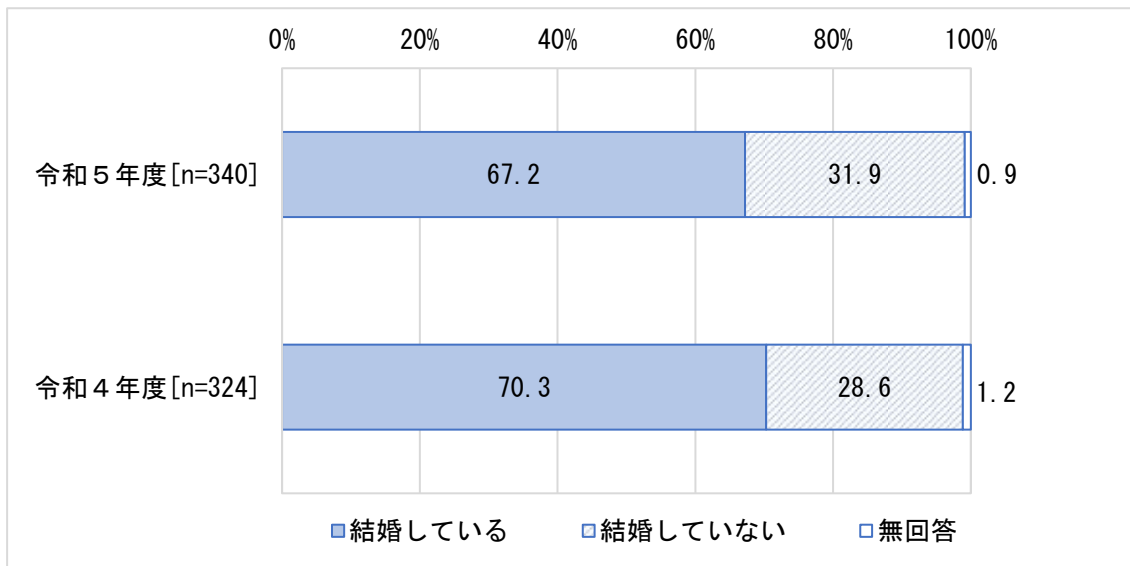
図表 54 居住圏域



### (4) 婚姻状況

婚姻状況は、「結婚している」が 67.2%、「結婚していない」が 31.9%となっている。

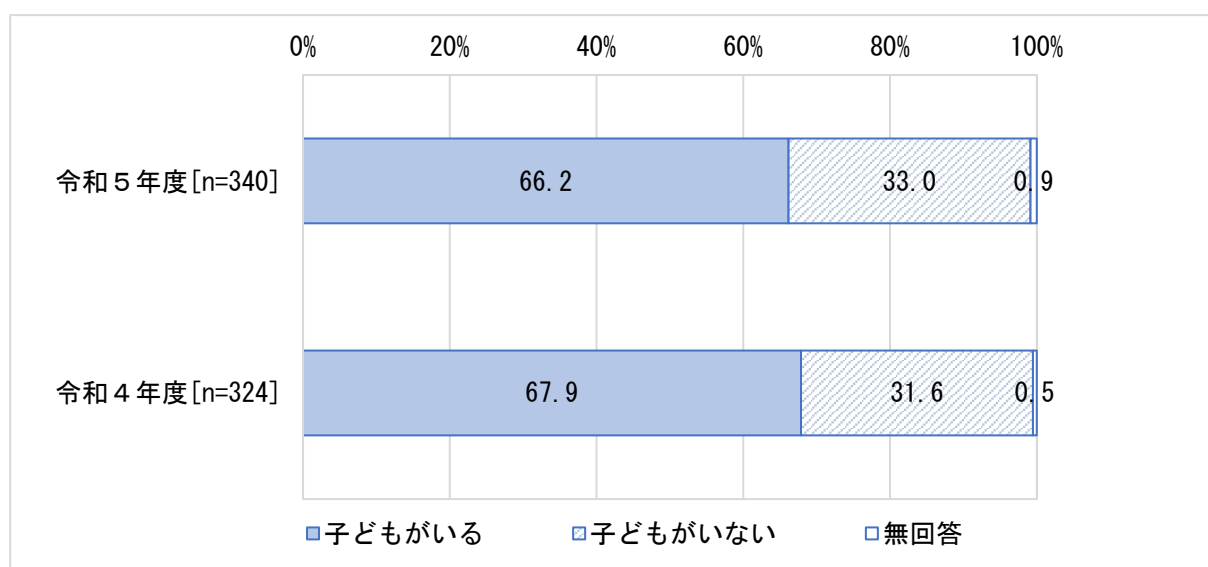
図表 55 婚姻状況



## (5) 子どもの有無

子どもの有無は、「子どもがいる」が66.2%とくなっている。

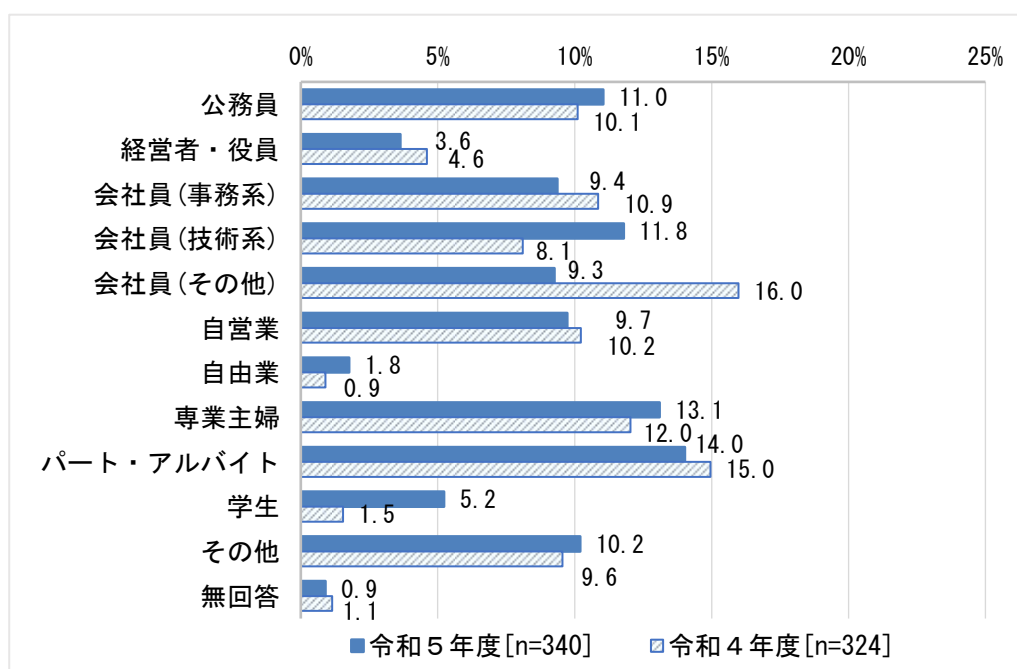
図表 56 子どもの有無



## (6) 職業

職業は、「パート・アルバイト」が14.0%で最も高く、次いで「専業主婦」(13.1%)となっている。

図表 57 職業

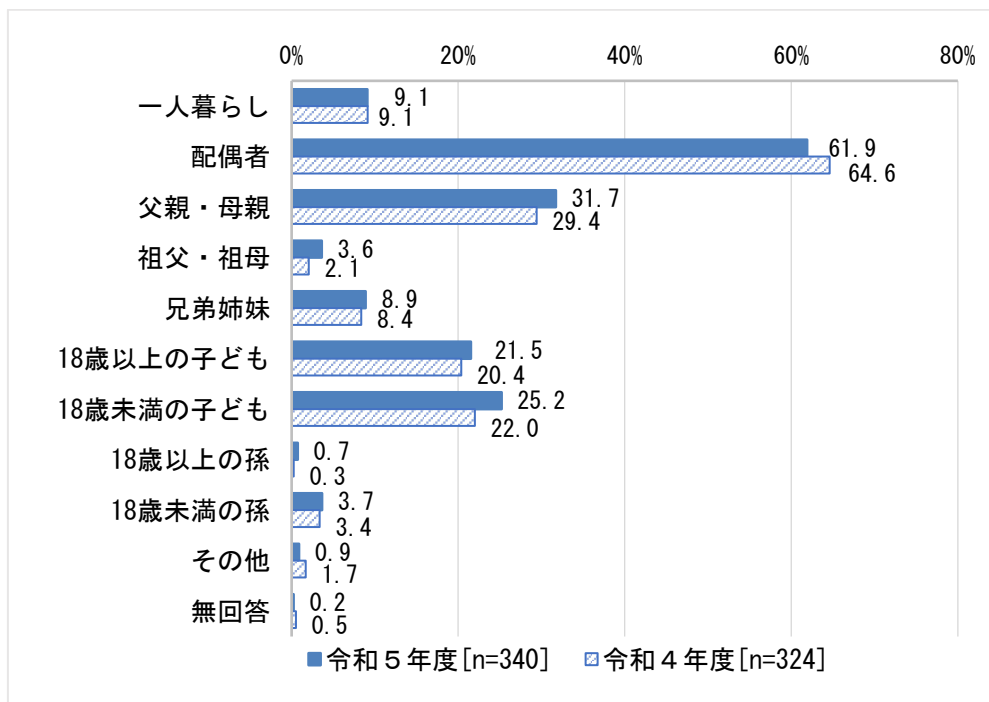


## (7) 同居家族

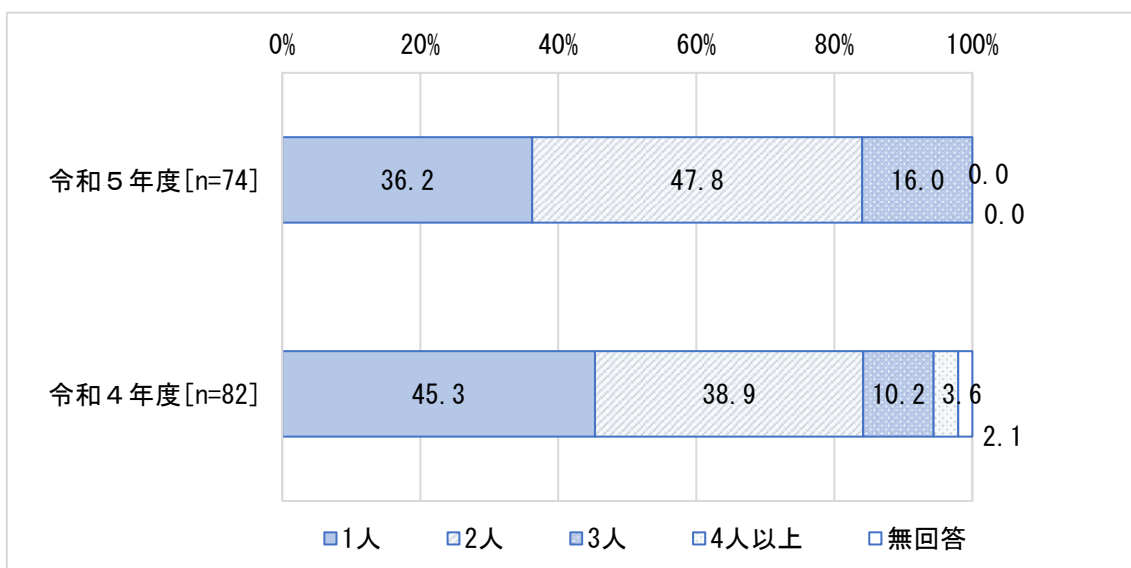
現在一緒に住んでいる家族は、「配偶者」が 61.9%と最も高く、次いで「父親・母親」(31.7%)、「18歳未満の子ども」(25.2%)、「18歳以上の子ども」(21.5%)となっている。

「18歳未満の子ども・孫」の人数は「2人」が47.8%で最も高く、次いで「1人」が36.2%となっている。

図表 58 同居家族（複数回答）



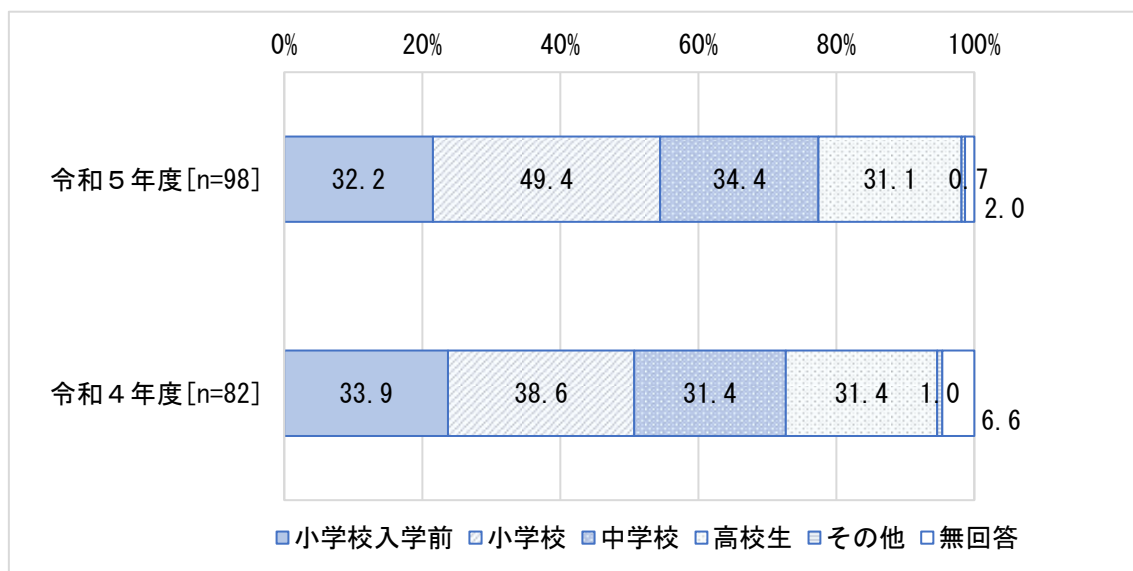
図表 59 18歳未満の子ども・孫の人数



## (8) 同居している18歳未満の子ども・孫の年代

現在一緒に住んでいる家族に「18歳未満の子ども」「18歳未満の孫」がいると回答した方の、子どもや孫の年代は、「小学生」が49.4%と最も高く、「中学生」が34.4%、「小学校入学前」が32.2%、「高校生」が31.1%となっている。

図表 60 18歳未満の子ども・孫の年代



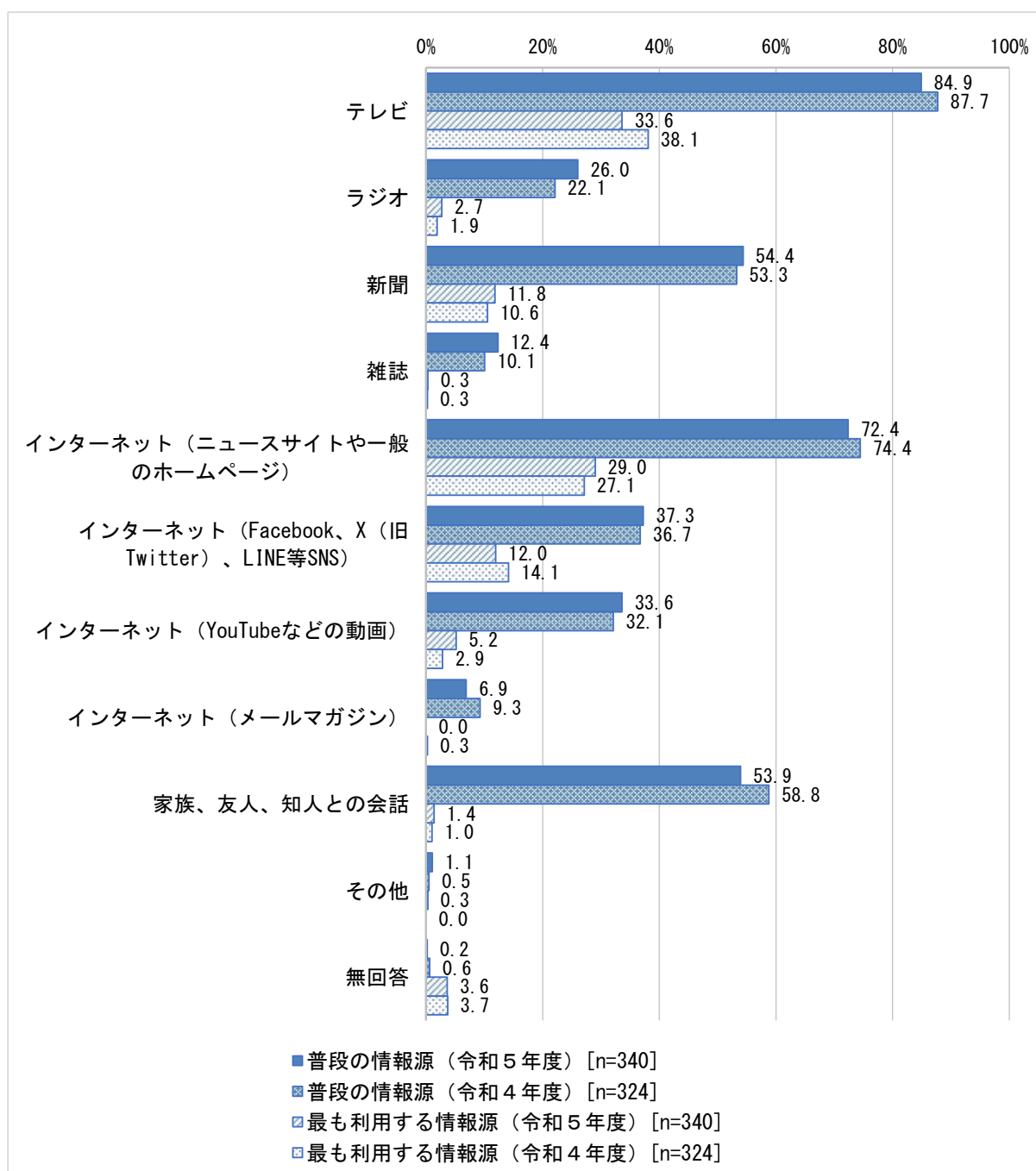


## (9) 情報源

普段どのような方法で情報を入手しているかについては「テレビ」が 84.9%で最も高く、次いで「インターネット（ニュースサイトや一般のホームページ）」（72.4%）、「家族、友人、知人との会話」（53.9%）となっている。令和4年度に比べ「家族、友人、知人との会話」が減少している。

最も利用する情報源としては、「テレビ」が 33.6%で最も高く、次いで「インターネット（ニュースサイトや一般のホームページ）」（29.0%）、「インターネット（Facebook、Twitter、LINE などの SNS）」（12.0%）となっている。

図表 61 情報源（「普段の情報源」複数回答、「最も利用する情報源」単数回答）



年代別にみると、普段の情報源については、30代・40代では「インターネット（ニュースサイトや一般のホームページ）」が最も高く、次いで「テレビ」「家族、友人、知人との会話」「インターネット（Facebook、X（旧Twitter）、LINE等SNS）」となっている。20代以下では、「家族、友人、知人との会話」より「インターネット（YouTubeなどの動画）」が高い。50代では「テレビ」、「インターネット（ニュースサイトや一般のホームページ）」に次いで「家族、友人、知人との会話」が高い。60代以上は「テレビ」に次ぎ、「新聞」が高くなっている。

最も利用する情報源は、20代以下は「インターネット（Facebook、X（旧Twitter）、LINE等SNS）」が最も高く、次いで「インターネット（ニュースサイトや一般のホームページ）」となっている。30代・40代は「インターネット（ニュースサイトや一般のホームページ）」が最も高く、次いで「テレビ」、「インターネット（Facebook、X（旧Twitter）、LINE等SNS）」となっている。50代・60代以上は「テレビ」が最も高く、次いで「新聞」、「インターネット（ニュースサイトや一般のホームページ）」となっている。

図表 62 情報源（「普段の情報源」複数回答、「最も利用する情報源」単数回答）：年代別

(%)

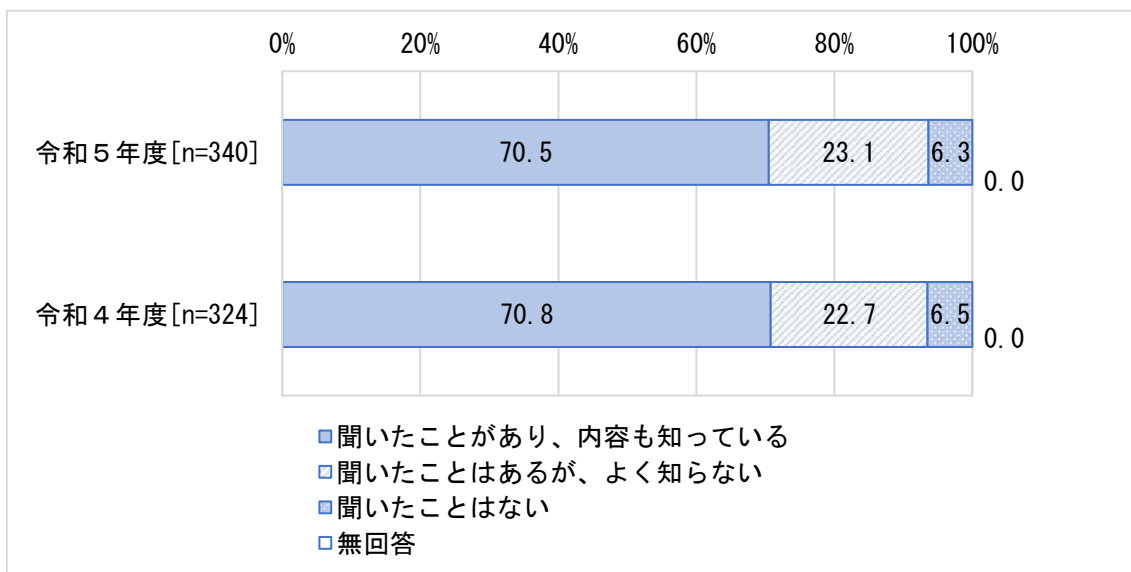
		全体(n=)	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	インターネット(ニュースサイトや一般のホームページ)	インターネット(Facebook、X(旧Twitter)、LINE等SNS)	インターネット(YouTubeなどの動画)	インターネット(メールマガジン)	家族、友人、知人との会話	その他	無回答
普段の情報源	20代以下	60	70.5	11.5	28.7	7.5	74.8	74.8	60.7	1.4	39.6	0.0	0.0
	30代	41	68.9	14.0	21.1	2.4	87.5	64.8	48.0	9.5	66.8	0.0	0.0
	40代	65	84.4	33.4	48.1	12.6	87.6	35.9	38.1	11.2	56.8	0.0	0.0
	50代	47	89.4	34.3	59.1	12.9	81.2	37.9	35.9	13.9	63.1	5.7	0.0
	60代以上	127	95.4	29.8	78.5	17.5	55.3	11.5	13.2	3.8	51.7	0.8	0.6
最も利用する情報源	20代以下	60	21.4	0.0	0.0	0.0	29.3	34.0	13.6	0.0	0.0	0.0	1.6
	30代	41	13.4	0.0	0.0	0.0	44.6	27.5	4.8	0.0	7.4	0.0	2.4
	40代	65	31.2	2.4	1.3	1.7	42.0	9.4	8.6	0.0	0.0	0.0	3.4
	50代	47	40.1	2.4	13.6	0.0	32.7	6.5	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0
	60代以上	127	44.7	5.1	25.9	0.0	15.9	0.0	0.6	0.0	1.3	0.0	6.5

### 3. ヤングケアラーについて

#### (1) 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」が70.5%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が23.1%で、言葉を聞いたことがある人は9割を超えており、令和4年度と比べても大きな変化はみられない。

図表 63 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況



年代別では、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、40代が80.8%で最も高く、次いで60代以上が71.4%となっている。一方、「聞いたことはない」は20代以下が9.1%と最も高くなっている。

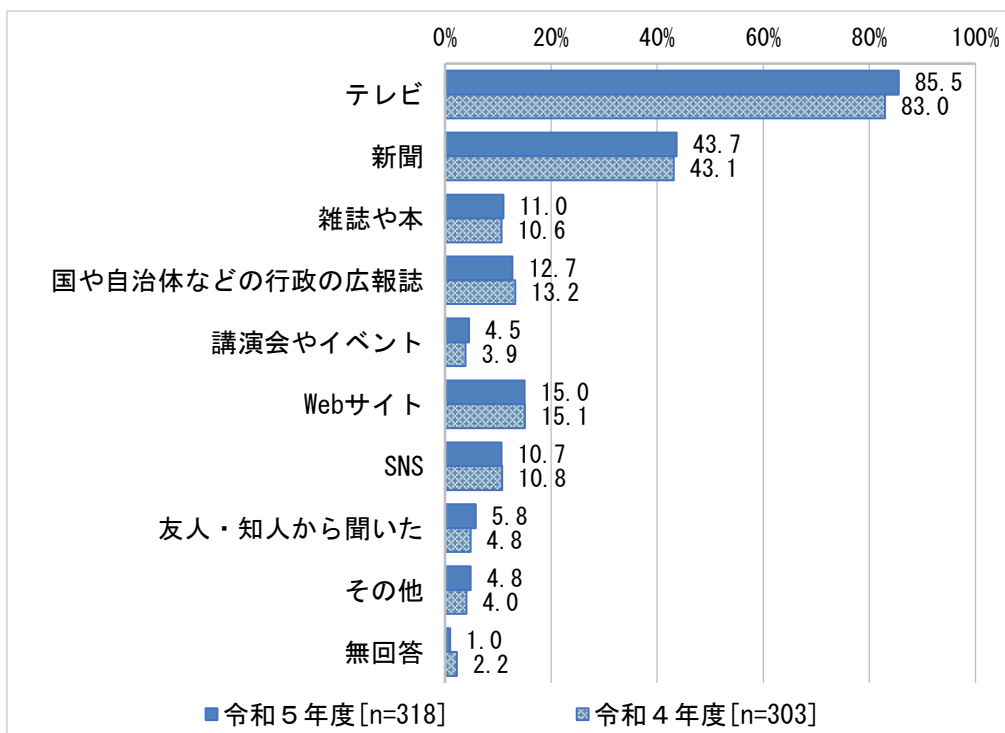
図表 64 「ヤングケアラー」という言葉の認知状況：年代別 (%)

		全体 (n=)	知っている あり、内容も	知らない あるが、よく	聞いたことは ない	無回答
年代別	20代以下	60	63.4	27.5	9.1	0.0
	30代	41	66.7	26.2	7.1	0.0
	40代	65	80.8	17.5	1.7	0.0
	50代	47	66.4	24.7	8.9	0.0
	60代以上	127	71.4	22.4	6.2	0.0

## (2) 「ヤングケアラー」という言葉の認知経路

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方に、「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか聞いたところ、「テレビ」が 85.5%と最も高く、次いで「新聞」(43.7%)、「web サイト」(15.0%)、「国・自治体などの行政の広報誌」(12.7%)となっている。

図表 65 「ヤングケアラー」という言葉の認知経路（複数回答）



年代別にみると、どの年代でも「テレビ」が最も高く、7～9割となっている。20代以下・30代では、「SNS」（各29.3%、24.2%）、40代では「新聞」（28.9%）、「Webサイト」（27.2%）、50代・60代以上以上では「新聞」（各50.8%、69.8%）が、「テレビ」に次いで高くなっている。

図表 66 「ヤングケアラー」という言葉の認知経路（複数回答）

<年代別>

(%)

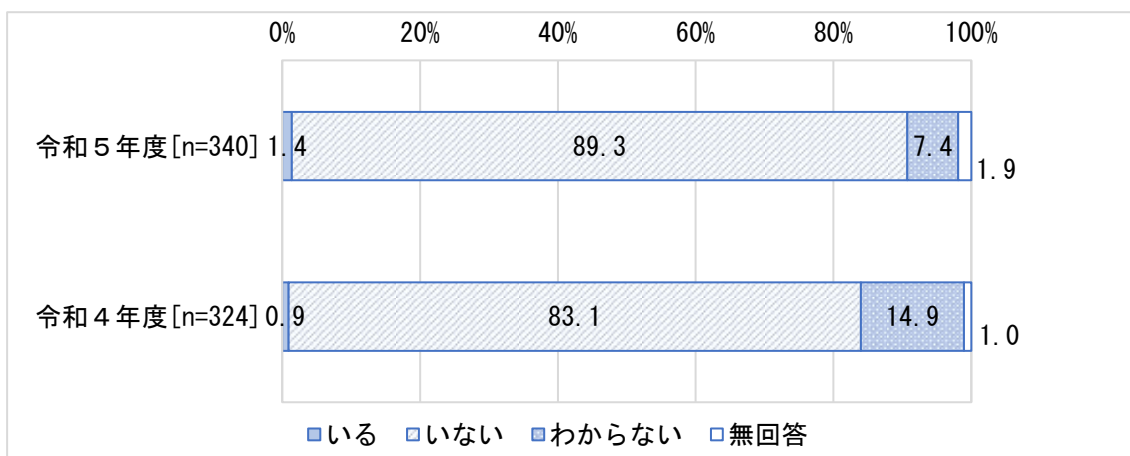
		全体 (n=)	テレビ	新聞	雑誌や本	国や自治体などの 広報誌	講演会やイベント	web サイト	SNS	友人・知人から聞いた	その他	無回答
年代別	20代以下	54	74.1	18.1	1.5	3.6	1.8	19.5	29.3	1.5	12.2	2.1
	30代	38	88.3	15.1	10.3	7.3	0.0	17.5	24.2	3.0	4.4	0.0
	40代	64	80.2	28.9	17.1	18.1	5.7	27.2	9.1	5.9	3.7	0.0
	50代	43	92.9	50.8	8.7	10.4	3.9	21.8	4.5	0.0	1.9	0.0
	60代以上	119	90.0	69.8	13.1	16.5	6.7	3.2	0.9	10.6	3.2	1.6

### (3) 「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無

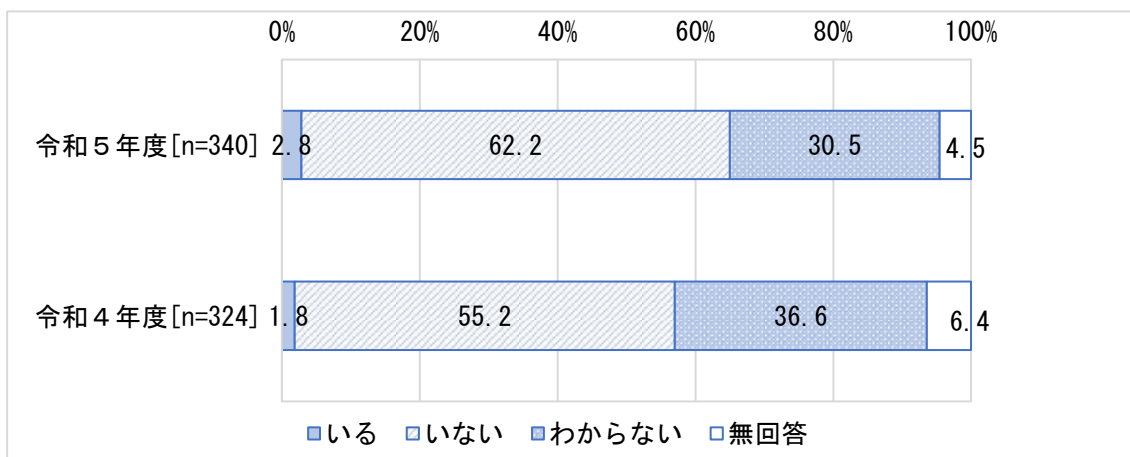
家族・親族や、友人・知人やその子ども、子どものクラスメイト、近所の子どもに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいるか聞いたところ、家族・親族で「いる」は 1.4%、友人・知人やその子ども、子どものクラスメイト、近所の子どもで「いる」は 2.8%となっている。

令和4年度に比べ、家族・親族や、友人・知人やその子ども、子どものクラスメイト、近所の子どもともに、「いない」が増加しており、「わからない」が減少している。

図表 67 家族・親族で「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無



図表 68 友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子どもで「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無

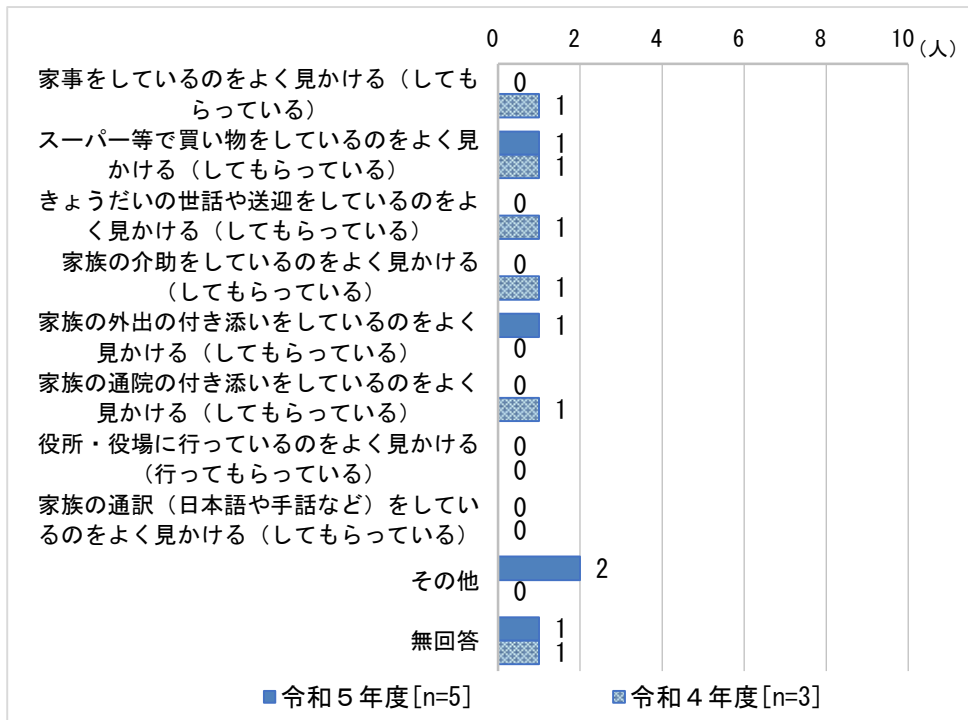


#### (4) 「ヤングケアラー」と思った理由

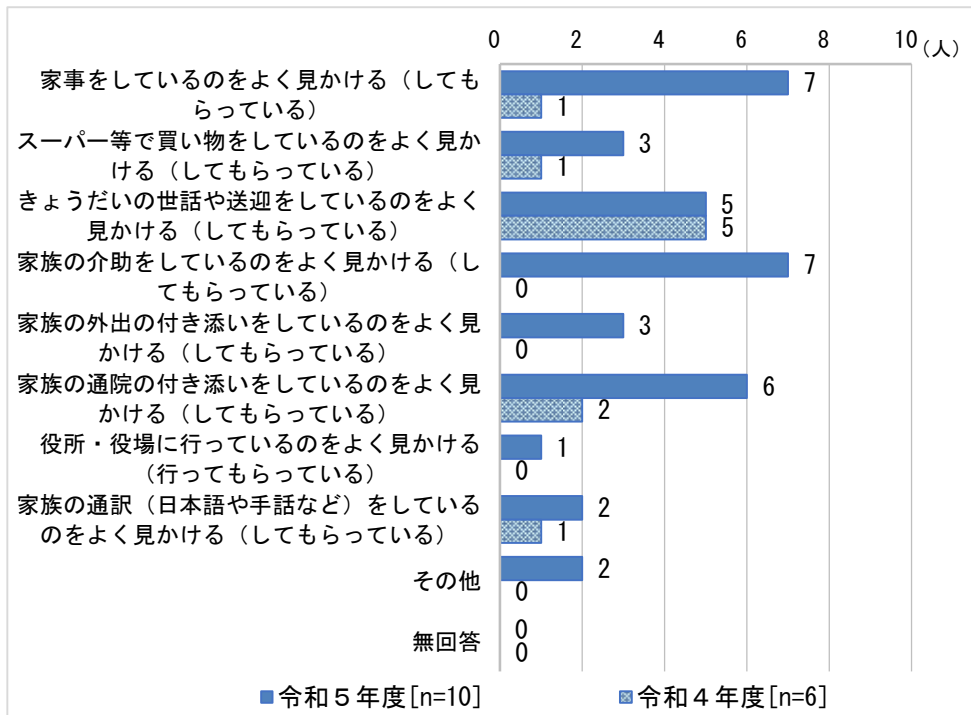
身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいると回答した人に、なぜその子どもが「ヤングケアラー」だと思ったか聞いたところ、友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子どもについては、「家事をしているのをよく見かける（してもらっている）」「家族の介助をしているのをよく見かける（してもらっている）」「家族の通院の付き添いをしているのをよく見かける（してもらっている）」などが多い。

図表 69 「ヤングケアラー」と思った理由（複数回答）

<家族・親族>



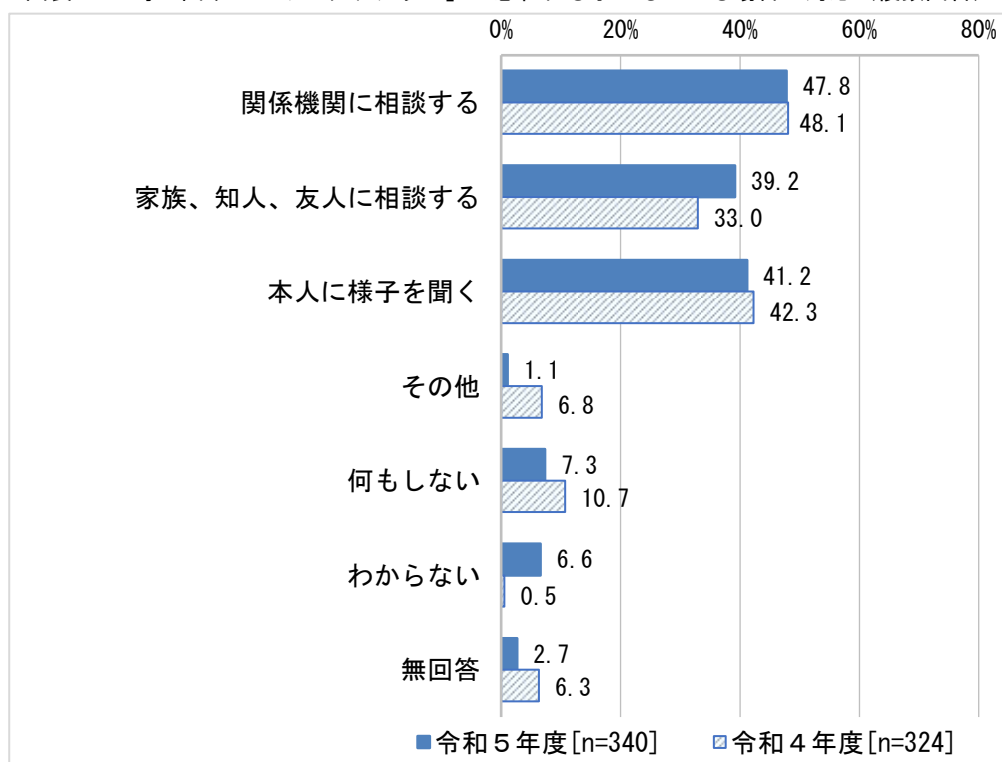
<友人・知人や、その子ども、子どものクラスメイト、近所の子ども>



## (5) 身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合の対応

身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、どのような対応をするか（身の回りに、「ヤングケアラー」と思われる子どもがいない・いるかわからない場合はいと仮定）聞いたところ、「関係機関に相談する」が47.8%と最も高く、次いで「本人に様子を聞く」（41.2%）、「家族、知人、友人に相談する」（39.2%）となっている。令和4年度に比べ、「家族、知人、友人に相談する」、「わからない」が高くなっている。

図表 70 身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合の対応（複数回答）



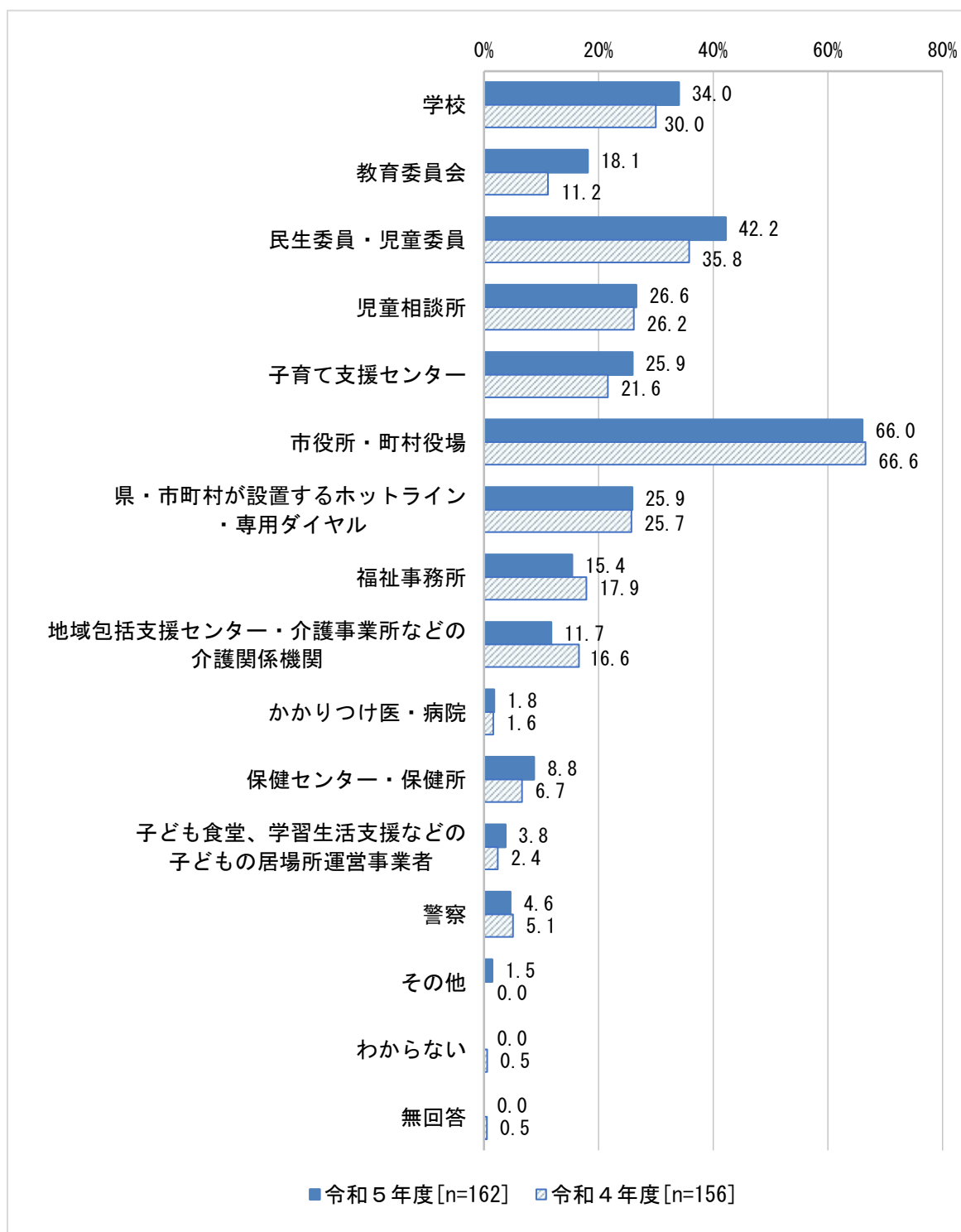


## (6) 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて相談する機関

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合（いたと仮定した場合も含む）「関係機関に相談する」と回答した方に、どのような機関に相談しようと思うかについては、

「市役所・町村役場」が 66.0%と最も高い。次いで「民生委員・児童委員」（42.2%）、「学校」（34.0%）となっている。令和4年度に比べ、「民生委員・児童委員」「教育委員会」で増加している。

図表 71 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて相談する機関（複数回答）

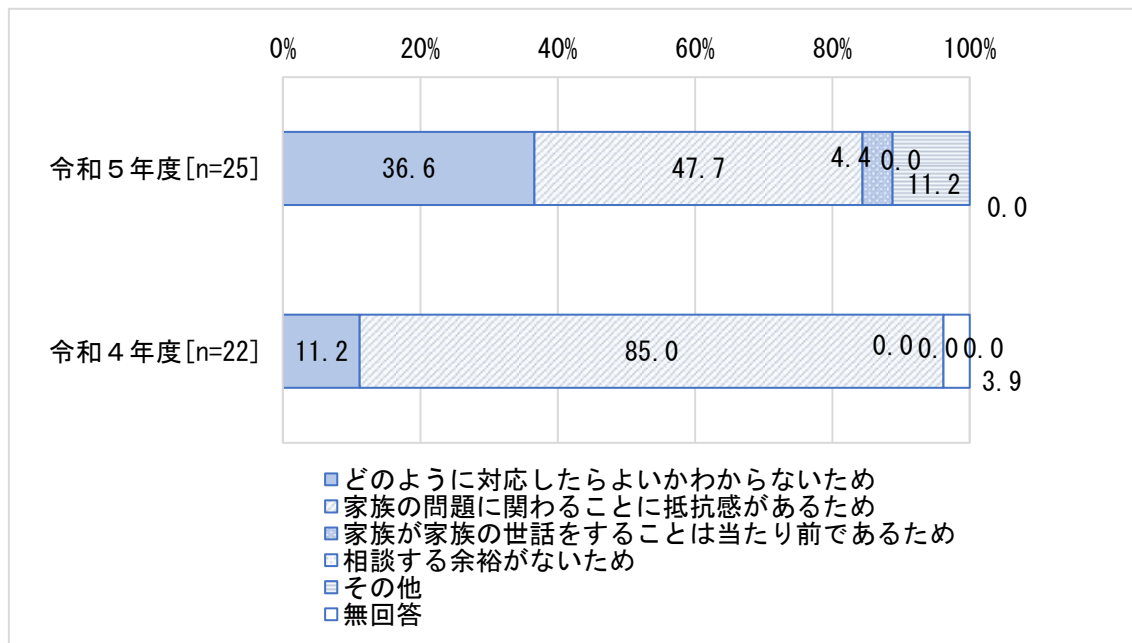


## (7) 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて「何もしない」主な理由

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合（いたと仮定した場合も含む）「何もしない」と回答した方に、その理由としてもっともあてはまるものを聞いたところ、「家族の問題に関わることに抵抗感があるため」が47.7%と最も高く、次いで「どのように対応したらよいかわからないため」が36.6%となっている。

令和4年度に比べ、「家族の問題に関わることに抵抗感があるため」が減少し、「どのように対応したらよいかわからないため」が増加している。

図表 72 「ヤングケアラー」と思われる子どもについて「何もしない」理由



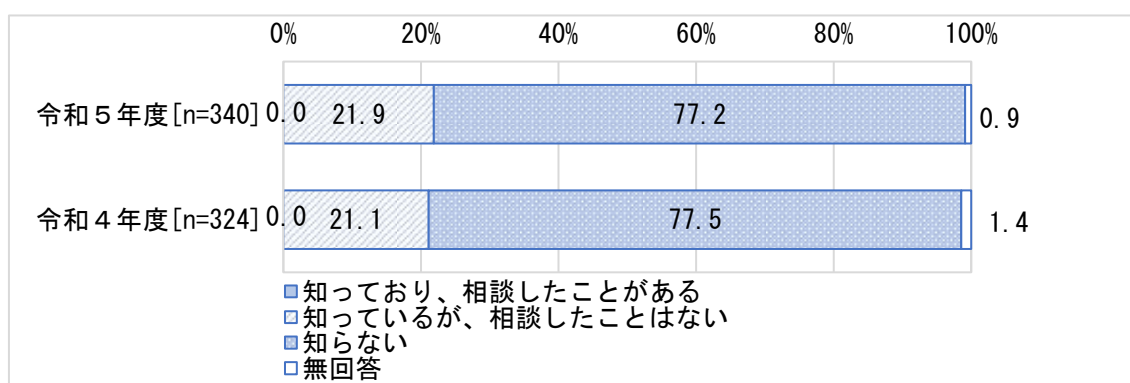
## (8) 山梨県「ヤングケアラー相談窓口」について

### ① 山梨県「ヤングケアラー相談窓口」の認知状況

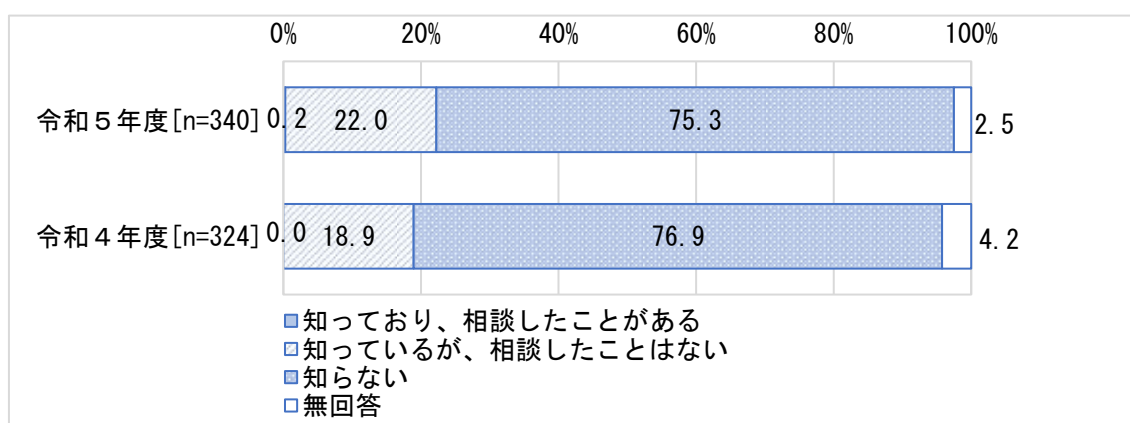
山梨県「ヤングケアラー相談窓口」について知っているか聞いたところ、24 時間電話相談窓口(0120-189-783、0120-0-78310) は、「知っているが、相談したことはない」が 21.9%、相談支援センター(山梨県総合教育センター) は、22.0%と、令和4 年度から微増している。

SNS 相談窓口(親子のための相談 LINE) については、15.9%と、他の窓口より認知率は低い、  
「知っており、相談したことがある」と回答した割合は、他の窓口よりもやや高い。

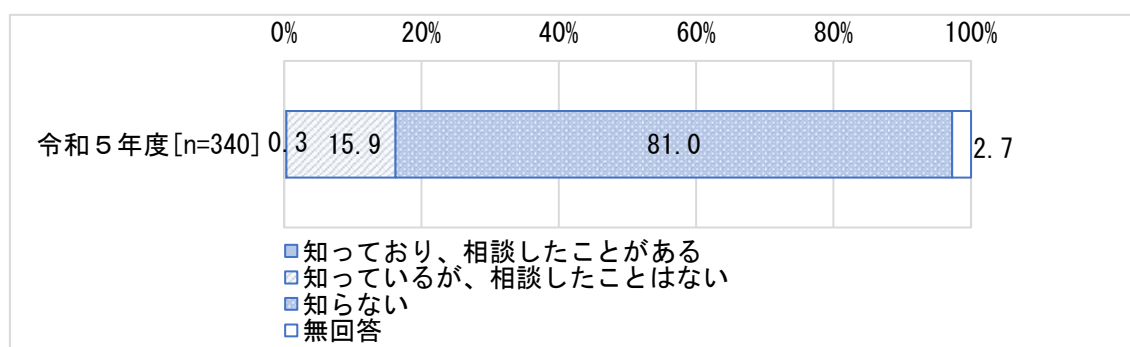
図表 73 24 時間電話相談窓口(0120-189-783、0120-0-78310) の認知状況



図表 74 相談支援センター(山梨県総合教育センター) の認知状況



図表 75 SNS 相談窓口(親子のための相談 LINE) の認知状況 ※令和5年度のみ

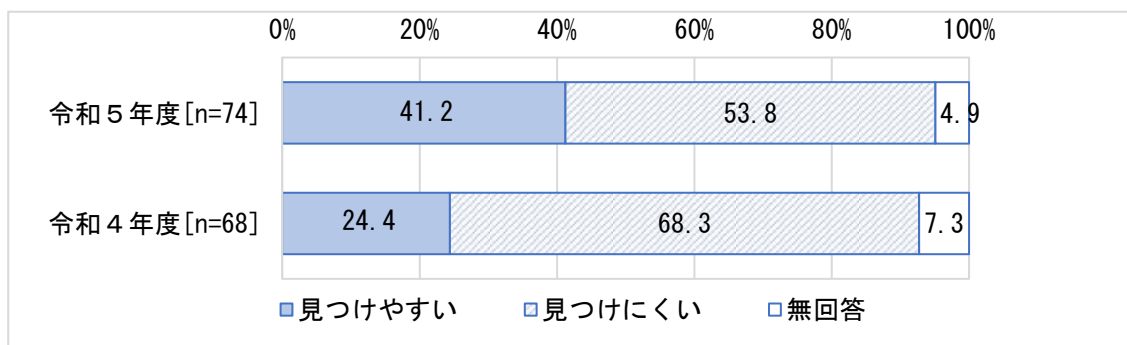


## ② 山梨県「ヤングケアラー相談窓口」の見つけやすさ

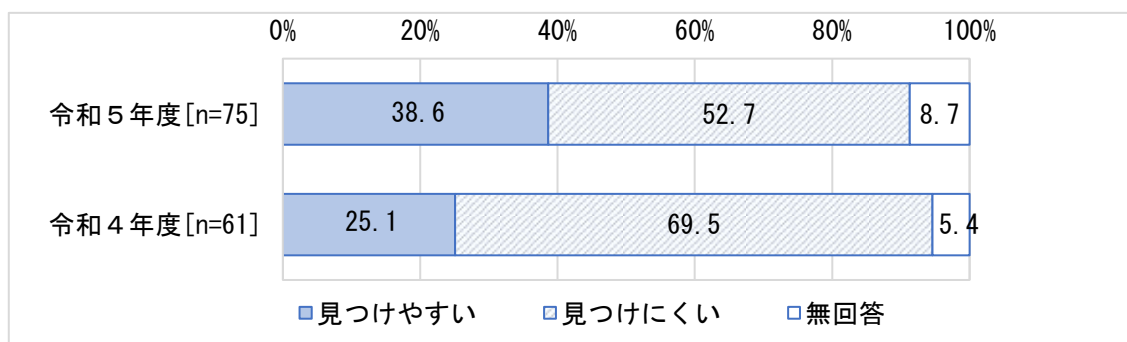
山梨県「ヤングケアラー相談窓口」を、「知っており、相談したことがある」「知っているが、相談したことはない」と回答した方に、相談窓口の見つけやすさについて聞いたところ、24 時間電話相談窓口(0120-189-783、0120-0-78310)については、「見つけやすい」が 41.2%、相談支援センター（山梨県総合教育センター）は、38.6%と、令和 4 年度に比べ、増加している。

SNS 相談窓口（親子のための相談 LINE）については、51.3%と、3 つの窓口の中で最も高い。

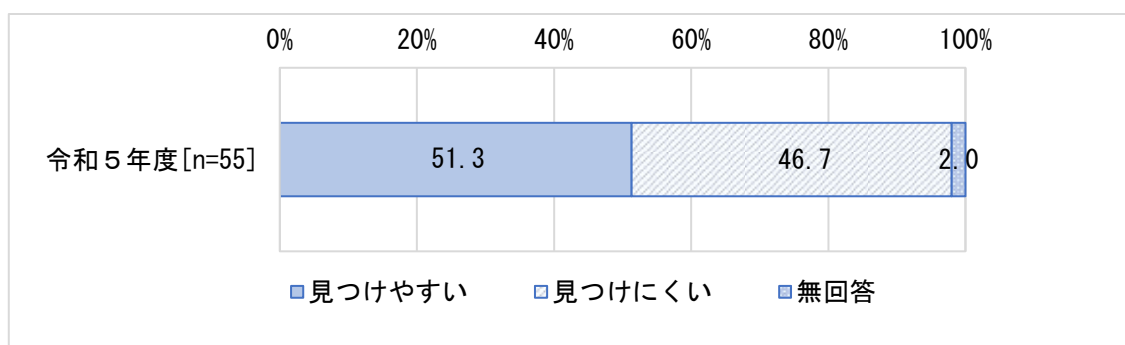
図表 76 24 時間電話相談窓口 (0120-189-783、0120-0-78310) の認知状況



図表 77 相談支援センター（山梨県総合教育センター）の認知状況



図表 78 SNS 相談窓口（親子のための相談 LINE）の認知状況 ※令和 5 年度のみ

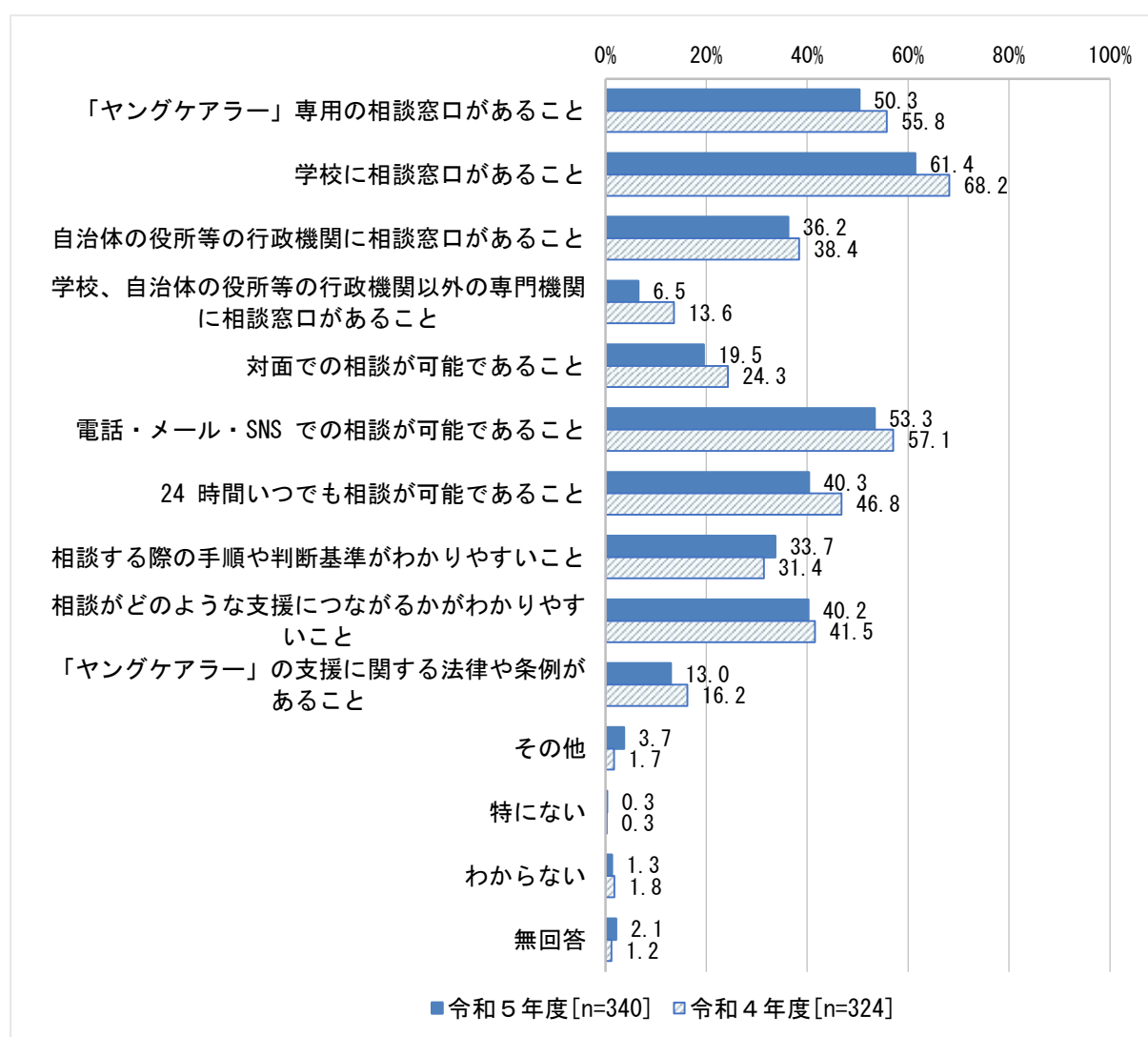


## (9) ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりにつながる仕組みや支援

「ヤングケアラー」と思われる子どもがいる場合、その子どもにとってどのような仕組みや取組があると相談しやすい環境づくりにつながると思うか聞いたところ、「学校に相談窓口があること」が 61.4%と最も高く、次いで、「電話・メール・SNS での相談が可能であること」(53.3%)、「「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」(50.3%)、「24 時間いつでも相談が可能であること」(40.3%)「相談がどのような支援につながるかがわかりやすいこと」(40.2%)となっている。

令和 4 年度に比べ、「学校に相談窓口があること」、「「ヤングケアラー」専用の相談窓口があること」、「24 時間いつでも相談が可能であること」、「対面での相談が可能であること」、「学校、自治体の役所等の行政機関以外の専門機関に相談窓口があること」が減少している。

図表 79 ヤングケアラーが相談しやすい環境づくりにつながる仕組みや支援（複数回答）



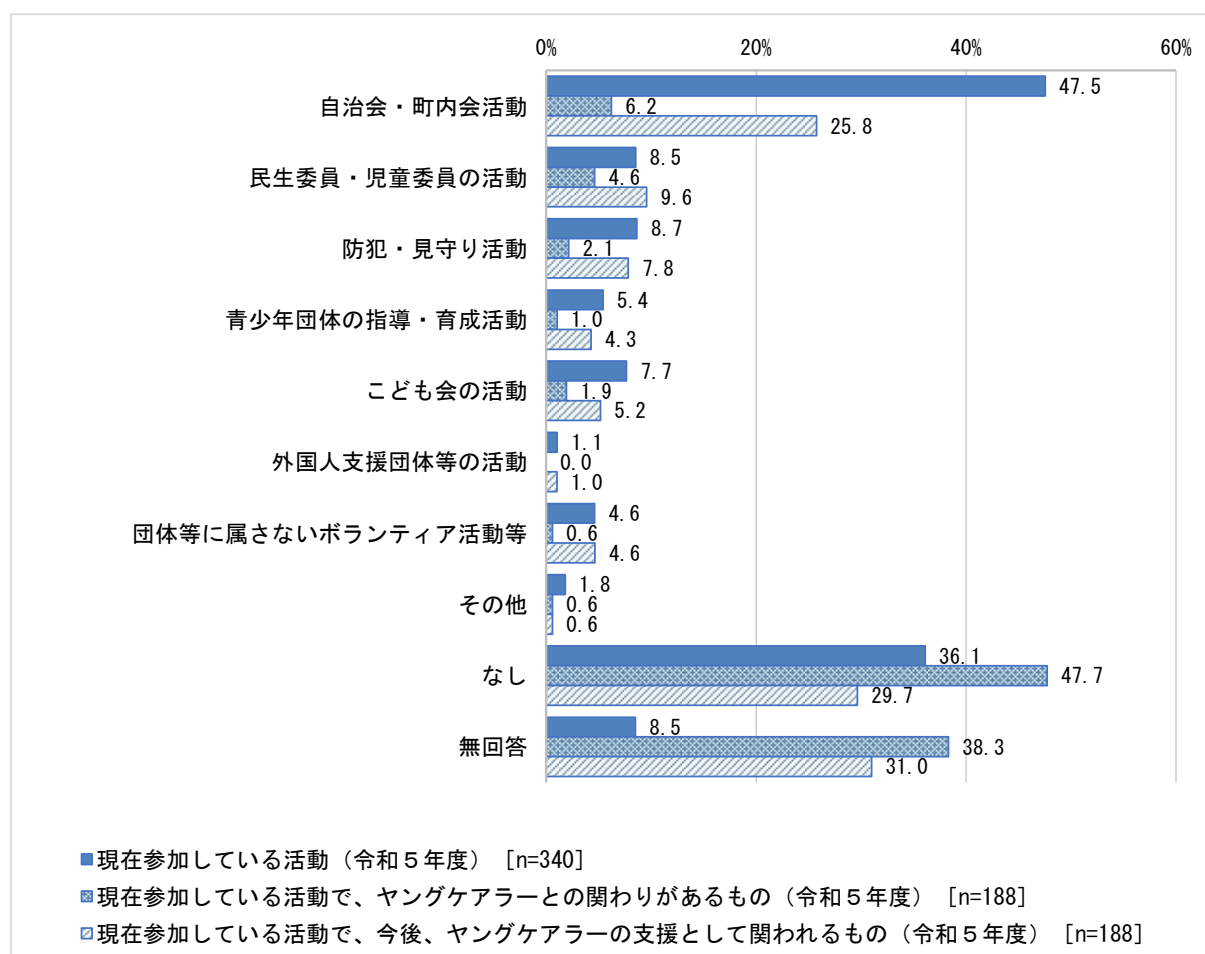
## (10) 現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わり

現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わりについて聞いたところ、現在参加している活動は、「自治会・町内会活動」が47.5%と最も高く、次いで「なし」が36.1%となっている。

現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるものは、「なし」を除くと、「自治会・町内会活動」が6.2%で最も高くなっている。

現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関われるものは、「なし」を除くと、「自治会・町内会活動」が25.8%と最も高く、次いで、「民生委員・児童委員の活動」が9.6%となっている。

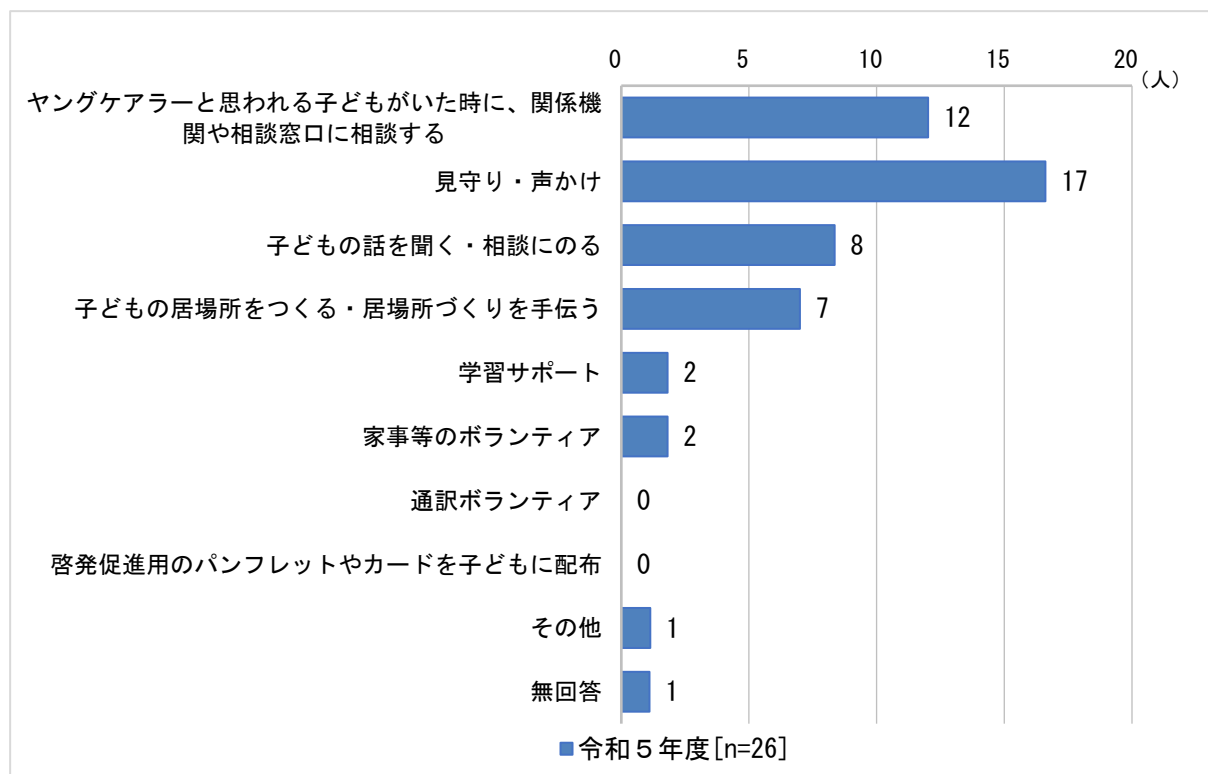
図表 80 現在参加している地域活動や市民活動と、ヤングケアラーとの関わり（複数回答）



### (11) 地域活動や市民活動の、ヤングケアラーとの関わり方

「現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるもの」があると回答した方に、その活動において、ヤングケアラーに対して、どのような関わりをもっているか聞いたところ、「見守り・声かけ」、「ヤングケアラーと思われる子どもがいた時に、関係機関や相談窓口相談する」が多くなっている。

図表 81 地域活動や市民活動の、ヤングケアラーとの関わり方（複数回答） ※令和5年度のみ

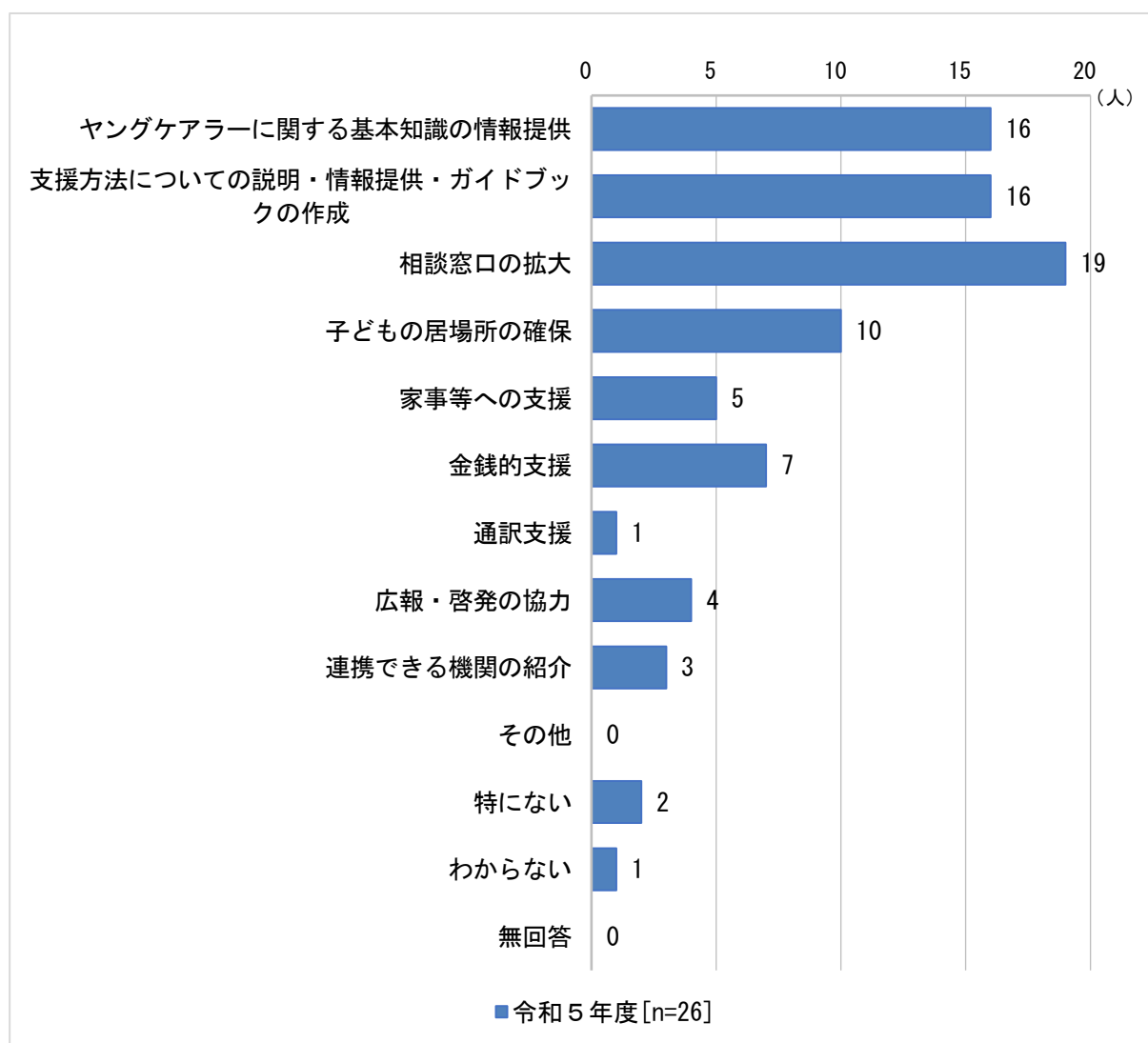


## (12) 地域活動や市民活動においてヤングケアラー支援を行うために、必要な行政からの支援

「現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるもの」があると回答した方に、その活動において、ヤングケアラー支援を行うために行政からの支援として必要なものを聞いたところ、「相談窓口の拡大」、「ヤングケアラーに関する基本知識の情報提供」、「支援方法についての説明・情報提供・ガイドブックの作成」が多くなっている。

図表 82 地域活動や市民活動においてヤングケアラー支援を行うために、必要な行政からの支援（複数回答）

※令和5年度のみ



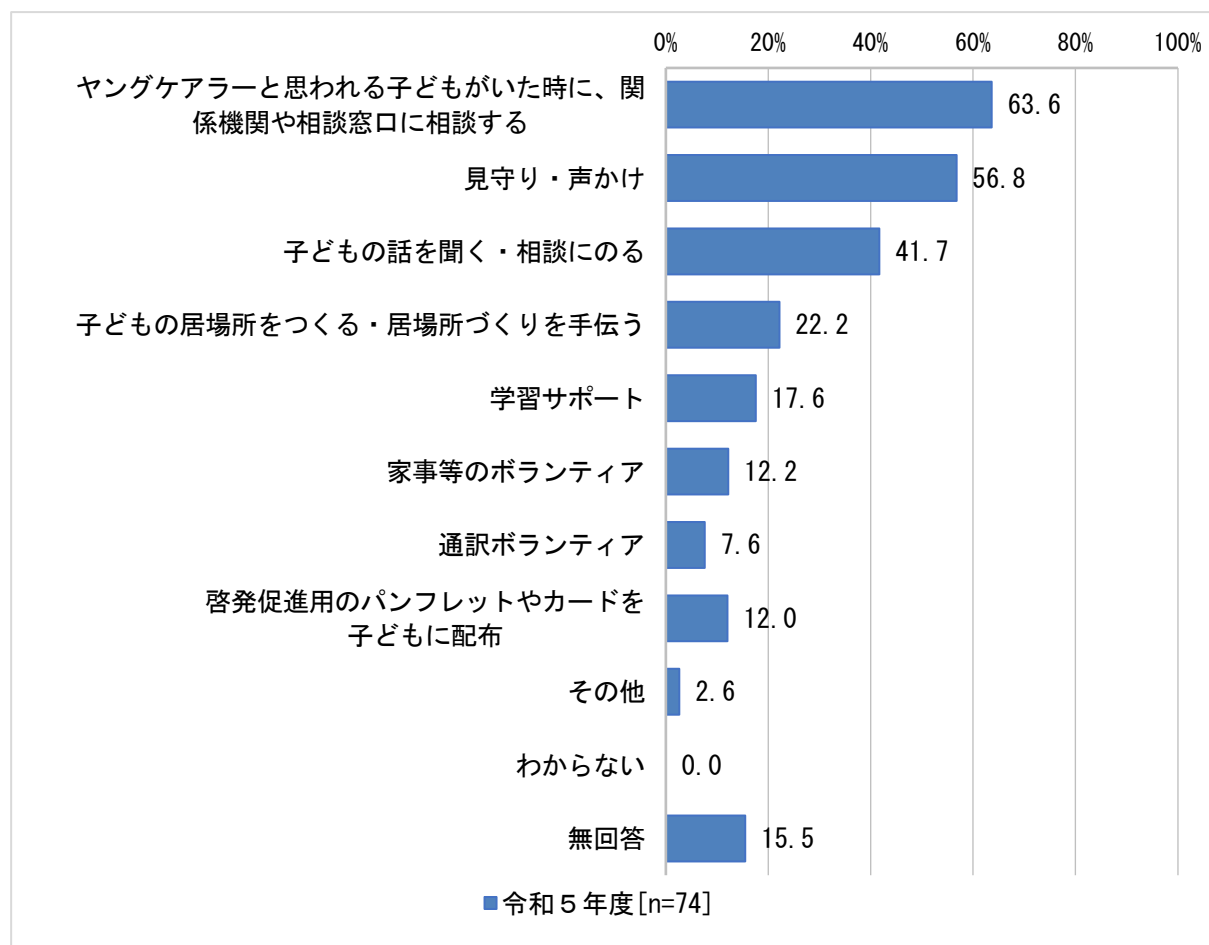


### (13) 今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること

「現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関わられるもの」があると回答した方に、今後、その活動において、ヤングケアラーのためにできることを聞いたところ、「ヤングケアラーと思われる子どもがいた時に、関係機関や相談窓口相談する」が63.6%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」(56.8%)、「子どもの話を聞く・相談にのる」(41.7%)となっている。

図表 83 今後、参加している活動の中で、ヤングケアラー支援のためにできること（複数回答）

※令和5年度のみ

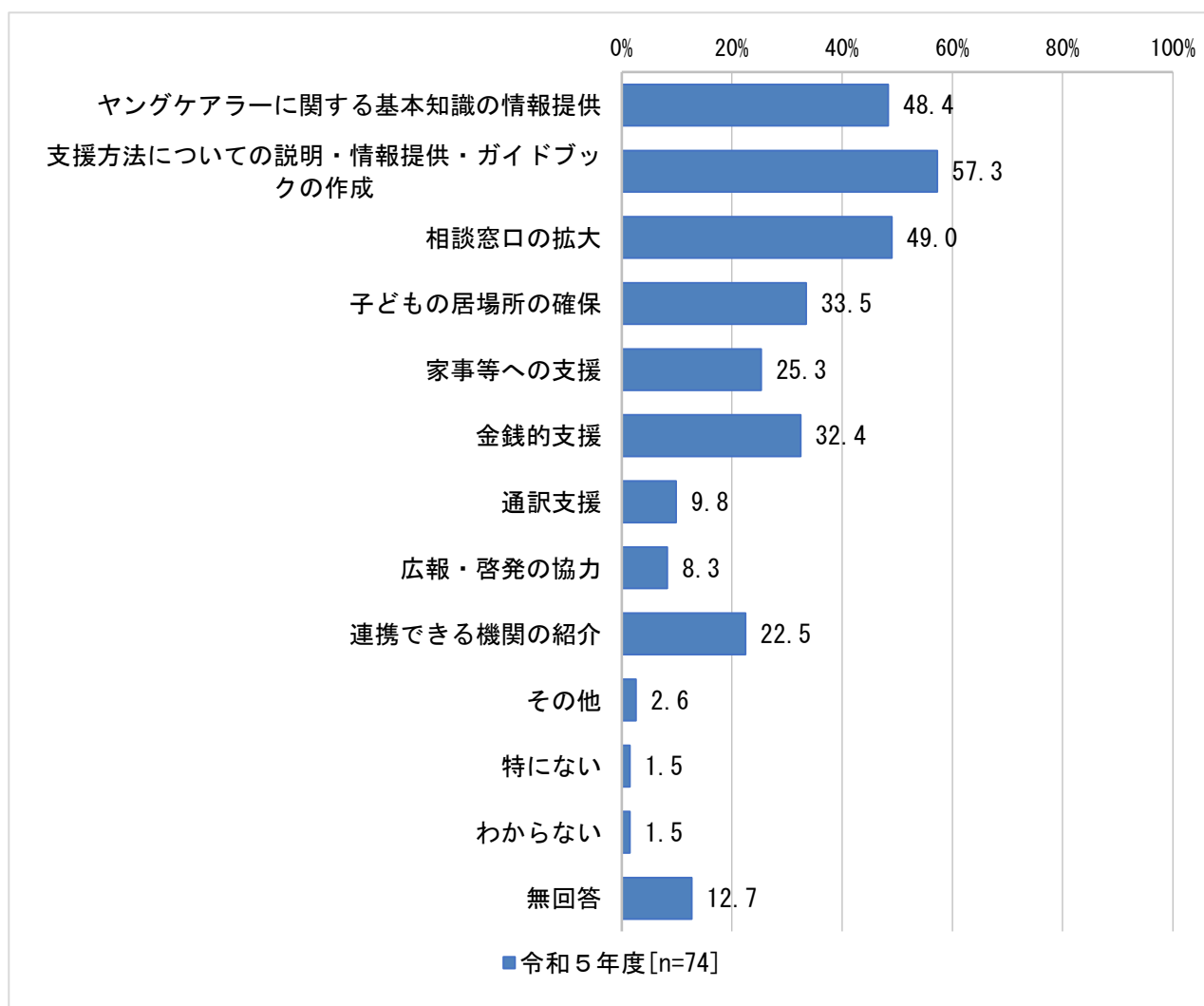


#### (14) 今後、活動の中でヤングケアラー支援を行うために必要な行政からの支援

「現在参加している活動の中で、今後、ヤングケアラーの支援として関われるもの」があると回答した方に、今後、その活動において、ヤングケアラー支援を行うために行政からの支援として必要なものを聞いたところ、「支援方法についての説明・情報提供・ガイドブックの作成」が 57.3%と最も高く、次いで（46. 「相談窓口の拡大」(49.0%)、「ヤングケアラーに関する基本知識の情報提供」(48.4%)となっている。

図表 84 今後、活動の中でヤングケアラー支援を行うために必要な行政からの支援（複数回答）

※令和5年度のみ

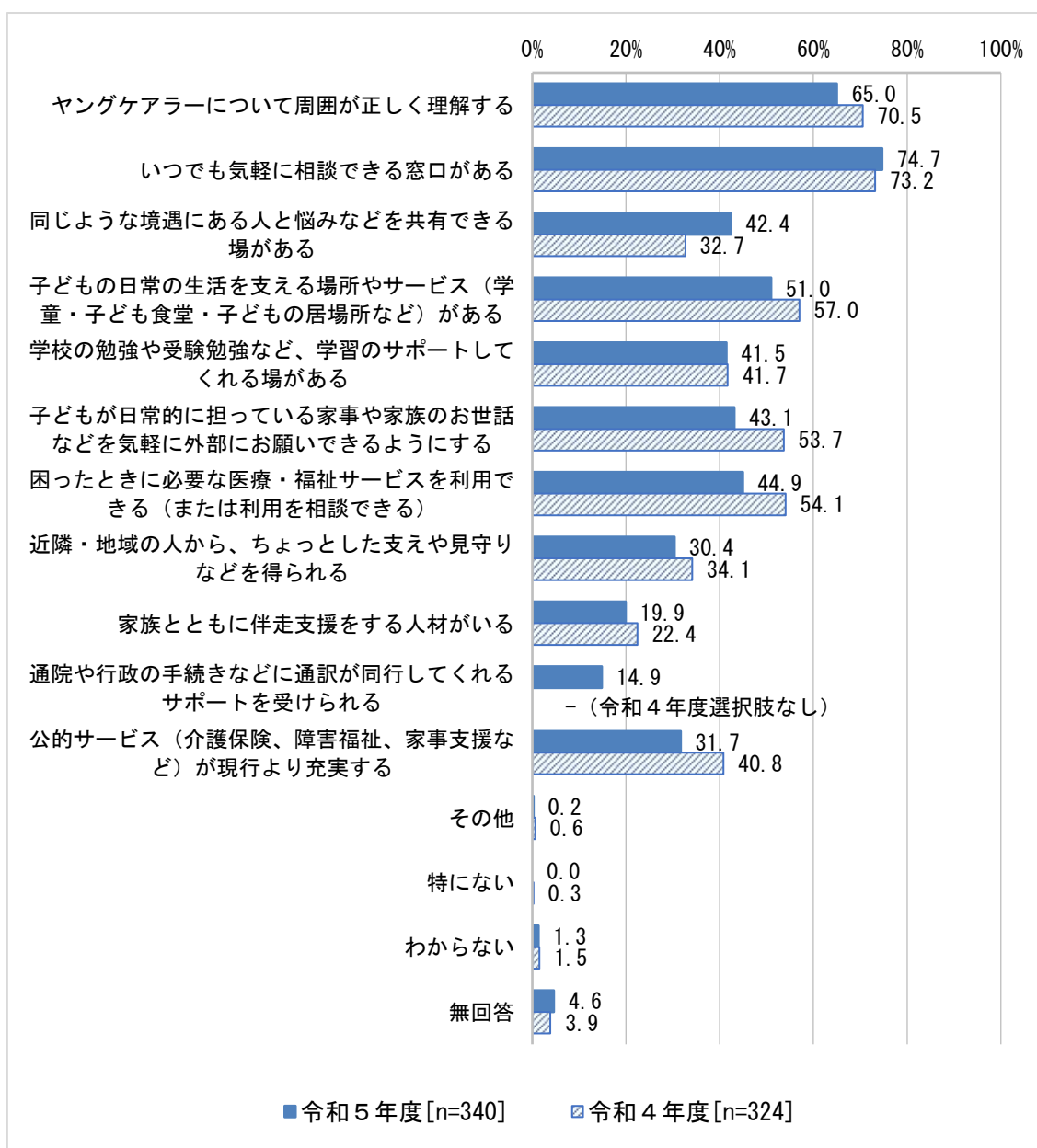


## (15) ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援

ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援については、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」(74.7%)、「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」(65.0%)が高い。

令和4年度と比べると、「同じような境遇にある人と悩みなどを共有できる場がある」が増加している。一方、「ヤングケアラーについて周囲が正しく理解する」、「子どもの日常の生活を支える場所やサービス(学童・子ども食堂・子どもの居場所など)がある」「子どもが日常的に担っている家事や家族のお世話などを気軽に外部にお願いできるようにする」「困ったときに必要な医療・福祉サービスを利用できる(または利用を相談できる)」「公的サービス(介護保険、障害福祉、家事支援など)が現行より充実する」が減少している。

図表 85 ヤングケアラーに対して必要だと思われる支援(複数回答)

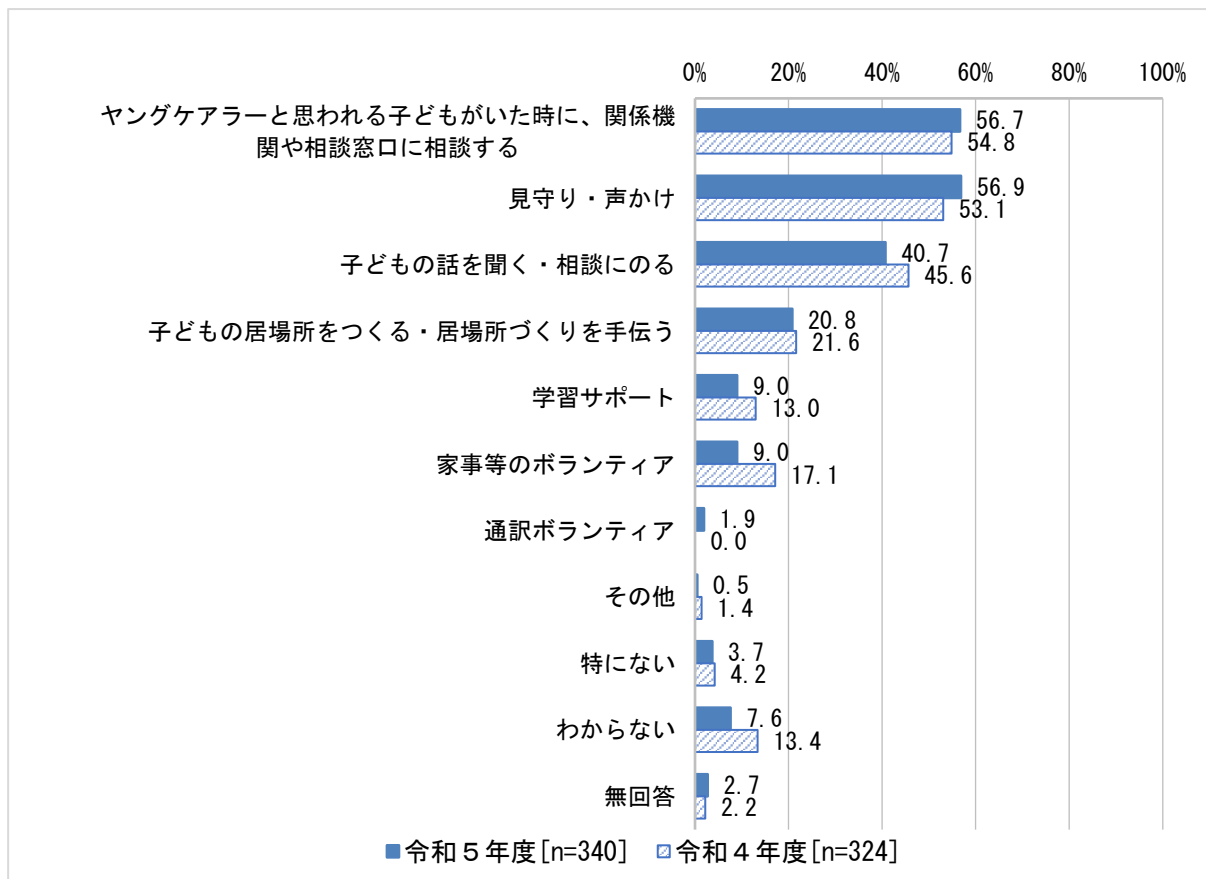


※令和4年度調査では「通院や行政の手続きなどに通訳が同行してくれるサポートを受けられる」の選択肢なし

## (16) 「ヤングケアラー」支援のためにできること

「ヤングケアラー」支援のためにできることとして、「ヤングケアラーと思われる子どもがいた時に、関係機関や相談窓口相談する」(56.7%)、「見守り・声かけ」(56.9%)、「子どもの話を聞く・相談にのる」(40.7%)が高くなっている。令和4年度に比べ、「子どもの話を聞く・相談にのる」、「家事等のボランティア」が減少している。

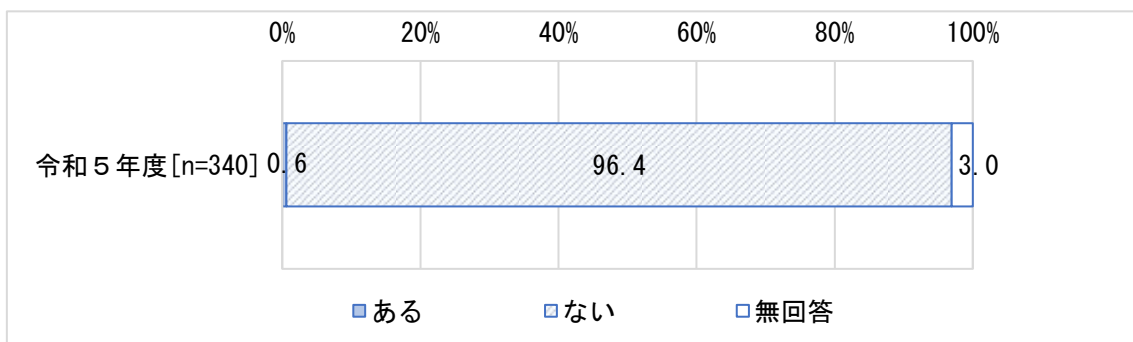
図表 86 「ヤングケアラー」支援のためにできること (複数回答)



## (17) 「山梨コネクトヤングケアラー」の視聴の有無

山梨県の TikTok におけるヤングケアラーにまつわる短編動画の視聴の有無は、「ない」が 96.4%、「ある」が 0.6%となっている。

図表 87 TikTok【山梨県公式】山梨コネクトヤングケアラーの視聴の有無 ※令和5年度のみ

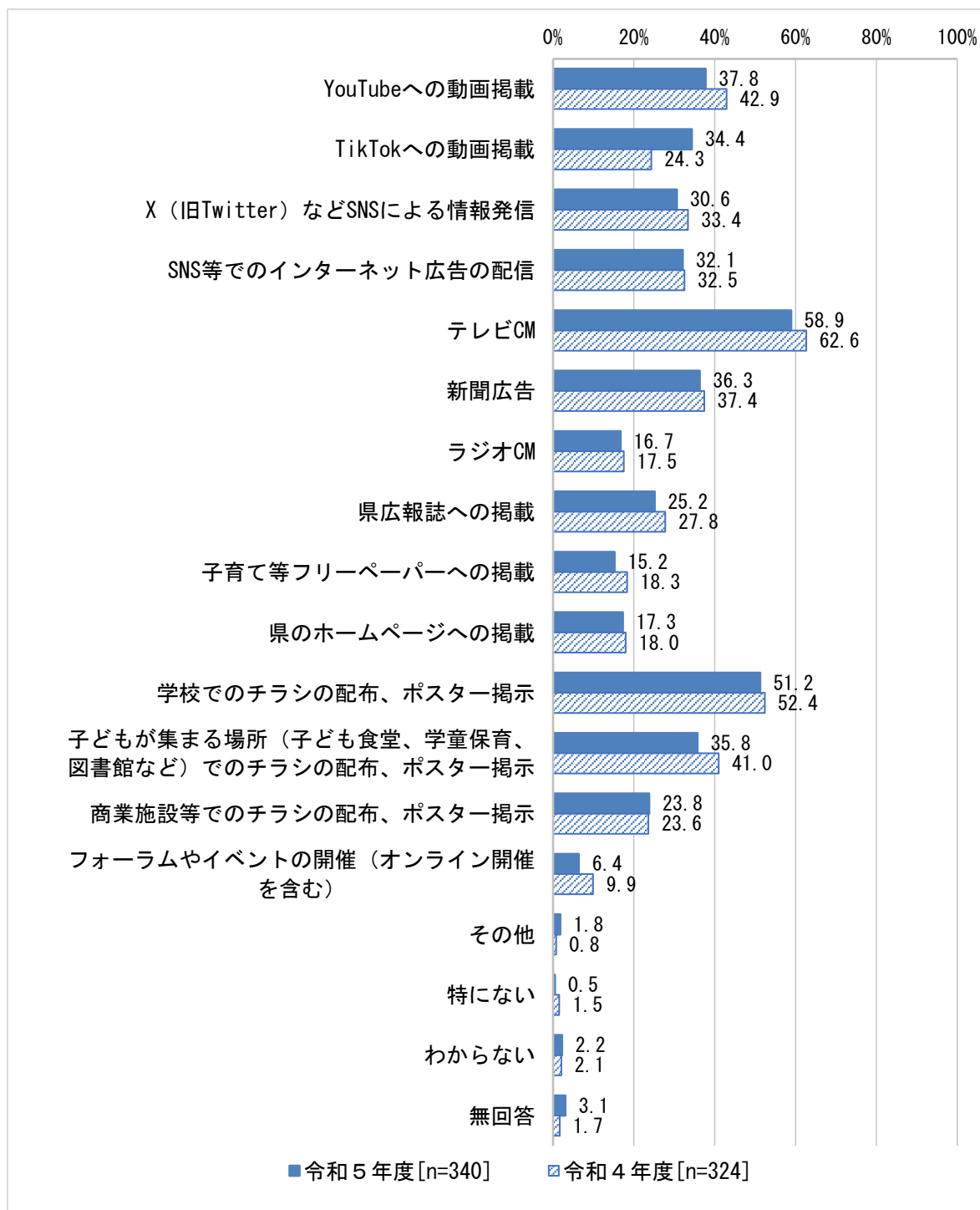


## (18) 啓発活動として効果があると思われる取組

山梨県の啓発活動として効果があると思われる取組としては、「テレビ CM」が 58.9%と最も高く、次いで「学校でのチラシの配布、ポスター掲示」(51.2%)、「YouTube への動画掲載」(37.8%)となっている。

令和4年度に比べ、「TikTok への動画掲載」が増加している。一方、「YouTube への動画掲載」、「子どもが集まる場所（子ども食堂、学童保育、図書館など）でのチラシの配布、ポスター掲示」が減少している。

図表 88 啓発活動として効果があると思われる取組（複数回答）



## (19) ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること（自由記述）

ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われることについて聞いたところ、以下のようない見があった。

図表 89 ヤングケアラーの印象や「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること（自由意見）

印象
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りに頼りづらそう</li> <li>・学生時代にクラスメイトが苦勞していた</li> <li>・人に知られたくないことから、一人で頑張ってしまう印象がある</li> <li>・大人びた良い子で、無理や我慢をしていると感じさせず、心配りが出来て目ざとい</li> <li>・多感な時期に、自分を押し込めてヤングケアラーになるのはとても気の毒に感じる</li> <li>・子どもの自由な時間を、物心が付かないうちから奪ってしまうのは間違い。心が培われずに我慢して過ごす、反動がくるのではないか</li> <li>・勉強や友達関係に支障が出て、未来を悲観してしまわないか心配</li> <li>・支援について知っているか、他の人に相談出来るか心配</li> <li>・元気に学校に通っているように見えても、一人で悩んでいる子どもがいることが悲しい。小さな力でもできることをしてあげたい</li> <li>・本来、親から見守られ世話される年齢の子どもたちなので、周りがケアして支えてあげなければならない</li> <li>・一人でもいいので、安心して悩みなどを相談できる人がヤングケアラーの側にいてほしい</li> <li>・ヤングケアラーについての特集を見る機会が増えてきた</li> <li>・政府が救済にのり出したことは良かった</li> <li>・身近にいなかったので、遠いことのように感じていた</li> <li>・生活環境の中でやむを得ないこともあると思う。理解協力はする</li> <li>・昔は忙しい親に代わってきょうだいの面倒をみるのが当たり前であり、食事の支度やお弁当も全部自分で用意した。普通だと思っていたので、ヤングケアラーという言葉に少し疑問を感じる。家庭それぞれの事情があり、プライベートまで介入するのはどうかと思う</li> <li>・家事の手伝い、きょうだいの面倒を看る、病気がちの家族の世話をすると行った行為は、人として当たり前の行動でもあり、すべてが悪との印象を与える風潮はどうか。「ヤングケアラー」という不明瞭な概念で一括りにしてしまうと、価値観、倫理観、道徳心と真っ向から衝突してしまう</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
「ヤングケアラー」の支援に必要だと思われること
<p>＜「ヤングケアラー」の認知・理解促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヤングケアラー」の定義（判断基準）がわからないため、まずはヤングケアラーとは何かを広く周知することが急務である</li> <li>・ヤングケアラーは深刻な問題だが、まだまだ世間に認知されていない。行政の力で少しでも世間に周知され、協力できる方、気付く方が増えればいい</li> <li>・認知を広げるには、国の支援のもと、皆が目にするCMなどを活用するとい</li> <li>・近隣に対象者がいないと身近に感じない。無関心につながらないよう、継続的な啓蒙をお願いしたい</li> <li>・周りが理解して協力するには、知識と環境作りが必要</li> </ul>

- ・ヤングケアラーは人に話したがらない、知られたくない人も多い。そういう意識や考え方を換え、社会全体で支え合う世の中の仕組みが必要
- ・ヤングケアラーという言葉を知ってもらうより、家庭の状況をまわりが理解し、適切な福祉、介護、保護につなげることが重要
- ・ヤングケアラーの子どもがどれくらい助けを必要としているか、求めているかを把握・理解できることが重要
- ・アンケートに参加し、ヤングケアラーという言葉を知れたことが有難い。小さな一歩だと思っている

#### <ヤングケアラー本人への「ヤングケアラー」の認知・理解>

- ・家族の面倒をみるのが普段となり、ヤングケアラーであると認識していない人が多いのではないか
- ・誰かに助けてもらおうとしたり、まわりを見る余裕はないのではないか
- ・ヤングケアラーだと自覚していない子どもが、気づいて支援を求められるような広報を行う必要がある
- ・当事者が相談すること、支えてもらうこと、助けてもらえること、一人ではないことを知ることが大事
- ・当人が助けてほしいと声を上げることができる環境を作してほしい
- ・テレビやネットで事例として挙げられるのは極端な場合が多く、「私なんかのレベルで辛いと言ってはいけない」という思考を生みそう

#### <「ヤングケアラー」本人が支援の情報を得やすい発信>

- ・当事者が自発的に相談できるよう、相談窓口などの情報を子どもの目にとまりやすい場所に載せる
- ・経済的理由でインターネット環境、スマホ等がない可能性にも十分留意し、掲示物等も活用する
- ・相談窓口が広く開かれているということ、若者に伝わる手段で伝えていくことが重要
- ・同じ境遇の人と交流する場があると利用するきっかけになるかもしれない
- ・まわりに知られるのがはずかしかったり、具体的な支援内容などあっても情報が届かなかったりする

#### <気軽に相談できる手段・相手・場所>

- ・相談することを、敷居が高いと感じていないか
- ・片親や親戚が少ない等、元々頼れる大人が少ない場合は、相談すること自体にハードルがある
- ・自分がヤングケアラーだということを友人や隣人に隠している子どもが大勢いると思われるので、行政に気軽に相談できる窓口が必要。また、プライバシーの保護も重要である
- ・ヤングケアラー自身の心を支えてあげてほしい。まずは簡単に誰かに悩みや不安を打ち明けられる環境が必須

#### <周りの大人が気づくこと>

- ・子どもに相談するように促す前に、周りの大人(特に担任の先生)が、気付いて対応できる知識があるとうい
- ・学校の先生が、家族以外で一番気付きやすい存在だと考える
- ・子ども達と接する時間の長い先生が気づき、観察、配慮、声かけがあれば当人の心が楽になると思う
- ・本人がヤングケアラーだと気づいていない場合もあり、周りが気付けることが大切だと思う
- ・周囲の気づき、サポート、長い期間の見守りが必要。一つに特化したサポートでなく、社会全体のサポ

ートが求められている

#### <見守り・声かけ>

- ・個々が関心を持つことが大事
- ・周囲に居ても気づかないかも知れない。気づいた時は声かけしたり、様子を見守りたい。見て見ぬふりはしないようにしたい
- ・ヤングケアラーの人に会ったら、話を聞き、少しでも気持ちが楽になるように手伝いをしたい

#### <学校での対応>

- ・赤の他人が手助けをすることは、犯罪等トラブル発生の種になりかねない。教員、自治体職員が関わるのがベストである
- ・ヤングケアラーの多くが就学児童や学生であれば、TV やインターネットよりも学校における直接的な啓蒙の方が効果的ではないか
- ・他人に頼っていいのかわからない子どもへ学校が通知を配る等、頼りやすい社会環境を整えてあげる
- ・学校で定期的に聞き取り調査を行い、身近な先生に相談しやすい環境を作れると良い
- ・学校でアンケートを行う
- ・三者懇談で親や子どもへのアンケート質問を行い、掘り上げる
- ・学校での家族構成調査を元にヤングケアラーを調査する
- ・学校内に相談窓口を設置する等、教育機関を中心とした支援体制構築が必要
- ・学校や地域の自治体が情報共有して、事態が悪化する前に対策を取る必要がある
- ・学校教職員を増やすこと、支援員の充足等、学校のサポートも必要

#### <行政の支援>

- ・家庭の事情に立ち入れられることをいやがる方もいるため、自治体の福祉の支援が適当である
- ・行政の軸ではなく、人権を大切にしつつ、本人や家族軸で考えてのサポートが必要
- ・一人ひとりに寄り添った支援が必要
- ・身近にいる民生委員の積極的な働きかけが必要
- ・お役所仕事ではなく、人の為に親身になれる人材を育てること
- ・身近や県内の実情を全く知らないため、情報発信がまず大切である。見かけたり聞いたりした周りの人がすぐに連絡できるような、「まずここ」という所の電話番号が知りたい
- ・窓口は 1 つとし、最後まで対応する。縦割り行政をやめられないのであれば、関係各所が集まった現状の把握、今後の対応を整理していく体制作りが必要
- ・困った時にいつでも相談出来る社会資源が必要であると同時に、なぜヤングケアラーが誕生してしまうのかの背景にも焦点を当てていく必要がある
- ・特児手当などの申請の場で、スクリーニングができないか
- ・年収や家族構成からヤングケアラーの可能性のある家庭には、ケアされる側の大人を行政でフォローできればよい
- ・ハイリスクな家庭を周囲の関係機関がみつけ、それを支援機関と共有するシステムが必要
- ・認知した後は、具体的方策を提示出来る機関が積極的に関与すること
- ・県で支援計画への取組があるのはありがたい
- ・こども家庭庁の「ヤングケアラーについて」の情報が大変参考になった
- ・プライバシーの問題があるので、ヤングケアラーの疑いがある場合に、声かけをする人の身分を保障する法整備も考えるべきである



#### <地域の支援>

- ・地域での問題意識の共有が欲しい。昔は地域の助け合いがあった
- ・地域との付き合いが希薄になってきた今、その家庭がどうなのかを知る手段がない。民生委員、児童委員が気付き、了承を得てから近所の人に手を貸して貰えるようにする
- ・周りの人が気付いてあげられるように、普段から地域の行事に参加することも大事である
- ・身の回りにヤングケアラーがいる場合、地域で声をかけたり、相談できるような環境を作る取組が必要
- ・学校や地域のスポーツ少年団、地域のお祭りに参加し、信頼できる大人を見つけること
- ・地域や近隣の者としては、認知する事、然るべき場所に通知する事が必要

#### <経済的支援>

- ・子どもは宝なので、税金等を少しでも回してほしい
- ・啓発活動に力を入れるより、ヤングケアラーへの金銭的援助をしてほしい。無意味な活動ばかりに財源を使ってほしくない
- ・利権化や無駄使いにならない政策が必要

#### <家事・介護等の支援・学習支援>

- ・家族のケアの負担が重く、学校や教育へのアクセスに制約が生じることがある。教育への支援と、学業とケアの両立が課題である。同時に、心理的なサポートやカウンセリングの提供が重要である
- ・無料で利用できる行政サービスやボランティアを充実できれば頼りやすくなる

#### <支援が難しい>

- ・助けられる事があれば手を貸したいが、各家庭の問題なので、立ち入る事が難しい
- ・それぞれの家庭の事情も複雑になってきているので、ヤングケアラーに該当する子どもがいても、気がつきにくく、声をかけづらい
- ・自分から現状や窮状を周囲に言えない、言わないことがヤングケアラーの現実であり、周囲にいる大人や機関が見つけない
- ・余計なお世話・どうせ何もしてくれないくせに、という当事者感覚に起因する無用なトラブルを避けたい
- ・定義がないのが難しい。本人が辛ければどんな状況であろうと声を上げていいと思うが、人によってキャパが違うので悩ましい
- ・家の手伝いとヤングケアラーの区別が難しい
- ・自分がヤングケアラーの当事者だと思つと気分を害するかもしれない
- ・当事者が言わない（言えない）場合も、救える方法を考える必要がある
- ・個人情報の問題もあることから、本質（問題・課題）を見抜けない場合が多いと感じる

#### <その他>

- ・相談窓口への連絡は「匿名」でもよいのか、その場合の「個人情報」は確実に守れるのか
- ・親に障がいがある場合、親向けのサポートがあつても、子どもへのサポートはないイメージがある
- ・夢や、やりたい事を実現出来る環境を子ども達みんなに平等に与えてあげられる社会になればよい

など

## 第IV章 調査のとりまとめ・考察

---

### 1. 各調査のとりまとめ

#### (1) 子ども調査

##### ① 「ヤングケアラー」の認知度は昨年度から若干減少

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」割合は、全体で 50.3%となっており、小学生では 3 割弱、中学生・高校生では 4 ～ 6 割となっている。昨年度と比べると、全体では 5 ポイント減少しており、中学生・高校生では大きな変化はないものの、小学生で 1 割程度減少している。

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったかについては、小学生と中学生では「テレビ」、高校生では「学校」が最も高くなっている。「学校」は中学生以上では 6 割以上となっている一方、小学生では 3 割と低くなっている。昨年度と比べると全体では「テレビ」と「SNS」が増加している。学校で「ヤングケアラー」を知った方法として、「授業」と「配布されたチラシ」が 5 割程度と多いが、小学生では 3 割強と減少している。

##### ② 「ヤングケアラー」および「ヤングケアラーと思われる子ども」の割合は昨年度とほぼ同程度

自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子どもは 1.0%、「わからない」と回答した子どもは 15.8% となっており、昨年度（「あてはまる」：0.8%、「わからない」：15.7%）とほぼ同程度。また、ヤングケアラーと思われる子ども（「わからない」と回答した子どものうち、「家族のこと」や「自分のために使える時間が少ない」といった悩みや困りごとを抱えている子ども）は 2.7%となり、自身がヤングケアラーに「あてはまる」子ども（1.0%）とあわせると、全体で 3.7%となり、昨年度（3.6%）とほぼ同程度。

##### ③ ヤングケアラーは、家族や自分の時間がないことを悩みや困りごととして抱えている割合が高い

「ヤングケアラー」、「ヤングケアラーと思われる子ども」とともに学年を問わず、「ヤングケアラーではない子ども」に比べて、「自分と家との関係」「家族内の人間関係」「自分のために使える時間が少ない」「病気や障がいのある家族のこと」をあげる割合が高く、中でも、「ヤングケアラーと思われる子どもはヤングケアラーを上回る項目が多い。

##### ④ ヤングケアラーの健康状態や生活満足度は低い

ヤングケアラーやヤングケアラーと思われる子どもはヤングケアラーでない子に比べ、自分の健康状態を「よくない」「あまりよくない」とする割合が高く、特にヤングケアラーと思われる子どもで高い。生活満足度の平均値は健康状態と同様にヤングケアラーでは低く、ヤングケアラーと思われる子ではさらに低い。

##### ⑤ 支援を受けている割合は増加。必要な支援は「自分の時間」「相談」「学習サポート」

ヤングケアラーが、家事や家族のお世話を他の人に助けられているかについて、「助けられている」と回答したのは 55.9%と、昨年度（52.3%）に比べて、助けられている割合がやや高くなっている。必要としている支援は、ヤングケアラーでは「特にない」が 3.5 割と最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」「リフレッシュできる時間や場所がほしい」「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が 2 割程度と高い。

一方、「ヤングケアラーと思われる子ども」では、「リフレッシュできる時間や場所がほしい」が4割と最も高く、次いで「自由に使える時間がほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が3割前後と高くなっており、「特にない」は2割未満となっている。また、「わからない」は「ヤングケアラー」が1割未満であるのに対し、「ヤングケアラーと思われる子ども」では2割程度となっている。

#### ⑥ 学校で大人に相談したことがある子どもは昨年度から増加

この1年間で学校で大人に相談したことがあると回答したのは、中学生で4割程度、それ以外の学年で3割程度となっており、昨年度に比べると小学生および中学生で7～8ポイント増加している。

相談しやすい割合は、学級担任が約5割、養護教諭が約3割、カウンセラーが約2割となっており、昨年度と比較すると担任は同程度であるが、養護教諭と、カウンセラーは5～8ポイント増加している。

#### ⑦ 相談窓口の全体的な認知度は昨年度とほぼ同程度

相談窓口（「24時間電話相談窓口」「相談支援センター」「SNS相談窓口」）の認知度はいずれも2割程度、「相談したことがある」割合は1%以下となっており、「24時間電話相談窓口」「相談支援センター」は昨年度からほぼ変化はない。

#### ⑧ この1年間で、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった子どもは3割

県でヤングケアラーの啓発の取組を進めているなかで、この1年間において、自身や周りの人の意識や行動で変わったと思うことで、「自分が、ヤングケアラーについてよく理解できるようになった」と回答したのはいずれの学年とも3割程度であるが、ヤングケアラーであると思われる子どもでは2割程度とやや低い。また、全体で2%（ヤングケアラーにあてはまると回答した子どもはそのうち約1割）が、「自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めてよいとわかった」との回答もあった。

## （2） 県政モニター調査

### ① 「ヤングケアラー」の認知度は昨年度とほぼ同程度

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答したのは70.5%と、昨年度（70.8%）と比較してほぼ変化はない。「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人を合わせると、約9割がヤングケアラーという言葉を知ったことがあると回答している。

情報源としては、年代を問わず「テレビ」と回答した割合が7～9割と最も高くなっている。20～30代ではWebサイトやSNSと回答した人も2～3割と比較的高くなっている。

### ② 周囲にいるヤングケアラーと思われる子どもに気づく割合が増加。必要だと思う支援は「正しい理解」と「相談窓口」

身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいると回答した割合は、家族・親族で1.4%、友人・知人で2.8%と昨年度と比べて微増、その場合に「関係機関に相談する」「家族・知人・友人に相談する」割合が高い。また、ヤングケアラーに必要なと思われる支援として、「いつでも気軽に相談できる窓口がある」「ヤングケアラーについて正しく理解する」が7割と高く、昨年度と比べ「同じような境遇にある人と悩みを共有できる場がある」が10ポイント増加している。

### ③ 相談窓口の認知度はいずれも 2 割程度

「24 時間電話相談窓口」「相談支援センター」「SNS 相談窓口（令和 5 年 2 月新設）」の認知度はいずれも 2 割程度と、昨年度より微増したものの、「相談したことがある」割合は 1 %未満にとどまる。一方、相談窓口の見つけやすさは、いずれも 4 ～ 5 割程度と昨年度から 2.5 割程度から高くなっている。特に、新設の「SNS 相談窓口」は 51.3%と最も高く、相談したことがある割合も他の窓口より高い。

### ④ 地域活動において、「関係機関への相談」「見守り・声かけ」「子どもの話を聞く」などの支援ができるという回答の割合が高い

現在参加している活動の中で、ヤングケアラーとの関わりがあるものは、「自治会・町内会活動」（6.2%）が最も高く、次いで「民生委員・児童委員の活動」（4.6%）となっている。また、今後ヤングケアラーの支援として関われるものは、「自治会・町内会活動」（25.8%）が最も高く、次いで「民生委員・児童委員の活動」（9.6%）となっている。

また、現在参加している活動において、今後のヤングケアラーに対する関わり方として、「ヤングケアラーと思われる子どもがいた時に関係機関や相談窓口にご相談する」、「見守り・声かけ」、「子どもの話を聞く・相談にのる」が高くなっている。

## 2. 考察

### ① 「ヤングケアラー」の認知度向上と正しい理解の促進

子ども調査においては、ヤングケアラーの認知度は 50.3%と昨年度から若干減少しており、特に小学生の認知度が低い。「ヤングケアラー」の言葉を知った方法として「学校」であると回答した割合が減少しており、認知度の向上のためには学校での授業やチラシ配布等による継続的な啓発等の強化が必要であると考えられる。

一方で、「SNS」で「ヤングケアラー」について聞いたと回答した割合が昨年度から増加していることや、この 1 年間でヤングケアラーについてよく理解できるようになったと回答した子どもが 3 割いること、ヤングケアラーにあてはまると回答した子どものうち 1 割が「自分がヤングケアラーだと気づき、困った時は周りの人に助けを求めてよいとわかった」と回答していることから、本県の周知啓発に係る施策について、一定の効果が認められるものと考えられる。

県政モニター調査においては、「ヤングケアラー」の認知度は 7 割程度と昨年度から変化はなかった。昨年度に引き続き、2 割はヤングケアラーについて「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答しており、ヤングケアラーに関する正しい理解を促進していくことが必要となっている。情報源としては 20～30 代は Web サイトや SNS など多いことから様々な媒体での啓発を引き続き行い、認知度を維持していくことも求められる。

一般県民は、身の回りに「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、自治会・町内会活動や、民生委員・児童委員活動等において、関係機関や相談窓口への相談、見守り・声かけ、子どもの話を聞くなど、何らかの手助けをしたいと考えている人がおり、地域住民に対するヤングケアラーの正しい理解の促進と、期待する役割などについての啓発の強化を進めることも求められる。

## ② 相談しやすい環境づくりと相談先の周知の強化

子ども調査において、学校で大人に相談した割合は、昨年度から6ポイント程増加し、子どもが周囲に相談しても良いと思える意識が向上しているものと考えられる。学校での大人への相談のしやすさについても、昨年度と比べ、学級担任は横ばいであるが、養護教諭とカウンセラーは割合が増加し、全体でも微増となっており、学校において相談しやすい体制や環境づくりが進んでいるものと考えられる。

ヤングケアラーの相談窓口の認知度・利用率は子ども調査・県政モニター調査ともに昨年度から大きな変化はなく、より積極的な広報活動が望まれる。県政モニター調査において、身の回りにヤングケアラーと思われる子どもがいると回答した割合は微増となっており、県民のヤングケアラーに関する意識の向上はみられるが、ヤングケアラーと思われる子どもがいても「何もしない」人や、何をすればよいか「わからない」人もそれぞれ1割弱程度おり、ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合にどうすればよいかについても引き続き啓発を進める必要がある。

## ③ ヤングケアラーの子ども自身への支援

周りの大人に助けてほしいこと・必要な支援は、「ヤングケアラーと思われる子ども」の方が「ヤングケアラー」と認識している子どもよりも、「わからない」という回答に加え、自由に使える時間や場所や学習支援のニーズが高くなっている。子ども自身が自分の状況を理解し、しんどさや悩みごとを周囲の大人にためらわずに言えたり、助けを求められたりできる環境づくりが求められている。一方、「ヤングケアラー」と認識している子どもでは「特にない」と回答した割合が最も高くなっており、子ども自身に困り感がなかったり、既に何らかの支援につながっているなどの場合が考えられるが、いずれにせよ、支援者側が必要な支援を決めつけて提供しようとするのではなく、あくまで子ども自身の意向を把握し、気持ちを汲み取りながら必要に応じて支援を行っていく必要があるものと考えられる。